LS-1128MFP

FAX 使用説明書

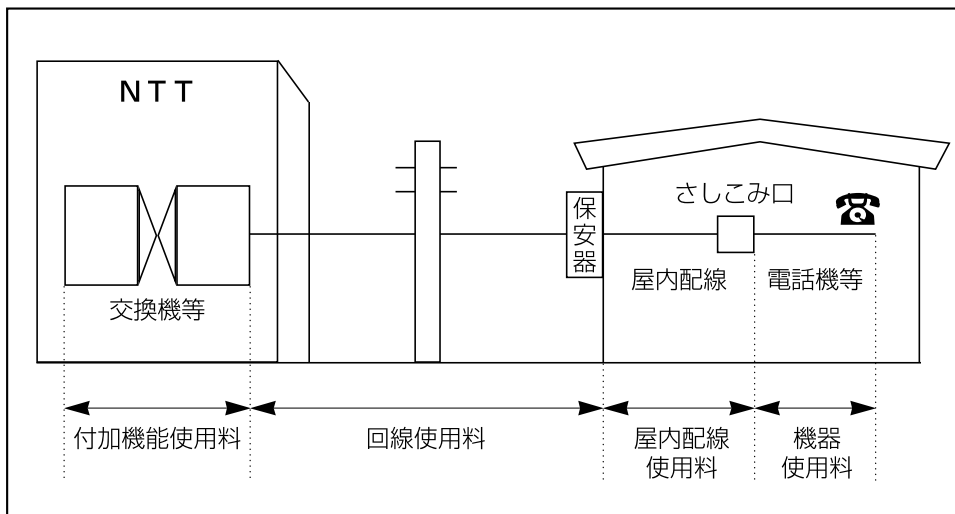
ご使用前に必ずこの使用説明書をお読みください。お読みになった後は、本製品の近くに大切に保管してください。

ご使用にあたってのお願い

本品をご使用にあたって、ＮＴＴのレンタル電話機が不要となる場合は、ＮＴＴへご連絡ください。
ご連絡いただいた日をもって、「機器使用料」は不要となります。
詳しくは、局番なしの１１６番（無料）へお問い合わせください。

[電話料金の内訳]

①回線使用料	ご契約者名簿により住宅用と事務用に区分され、回線使用料が異なります。
②屋内配線使用料	保安器から屋内の電話さしこみ口までの屋内配線をＮＴＴからレンタルでご利用いただいている場合の料金です。
③機器使用料	**ＮＴＴの電話機などをレンタルでご利用いただいている場合の料金です。**
④付加機能使用料	プッシュ回線、キャッチホン、クレジット通話などをご利用いただいている場合の付加機能の使用料金です。

[ＮＴＴの基本料などのしくみ]

本書中の注意表示について

この使用説明書は、ファクスを良好な状態でご使用いただくために、正しい操作方法・日常の手入れおよび簡単なトラブルの処置などができるようにまとめたものです。

ご使用前に必ずこの使用説明書をお読みください。また、お読みになった後は、本製品の近くに大切に保管してください。

この使用説明書及び本製品への表示では、本製品を正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

 警告：この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 注意：この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。

「注意一般」、「感電注意」、「高温注意」

⃠ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容が描かれています。

「禁止一般」、「分解禁止」

●記号は行為を規制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。

「強制一般」、「電源プラグをコンセントから抜け」、

「必ずアース線を接続せよ」

本製品使用時の汚れなどによって本使用説明書の注意・警告事項が判読できない場合や、本使用説明書を紛失した場合には、弊社製品取り扱い店等へご連絡の上、新しい使用説明書を入手してください。（有償）

〈お願い〉

使用説明書の内容は、機械性能改善のために、予告なく変更する場合がありますので御了承ください。

目次

安全に正しくお使いいただくために

本使用説明書について

本使用説明書は、ファクス機能についての説明書です。

ご使用前には必ず本体の使用説明書と合わせてお読みいただき、またお読みになった後は機械の近くに大切に保管してください。

ご使用にあたって、次の内容については本体の使用説明書をお読みください。

注意ラベルについて 機械を設置する際のご注意 取り扱い上のご注意 用紙の補給 清掃 トナーコンテナと廃棄トナーボックスの交換 トラブルが発生した場合 紙づまりが発生したら

機械を設置する際のご注意

設置環境について

本製品は、外光が頭上もしくは頭上の後方から入射するような場所への設置は避けてください。光の関係で原稿サイズを誤検知する場合があります。設置場所を変更できないときは、弊社製品取り扱い店またはお買い上げ店にご相談ください。

設置電源・アースについて

複写機や空調機器と同じ系統の電源は避けてください。

取り扱い上のご注意

⚠ 注意

原稿送り装置を開いた状態のままで、放置しないでください。けがの原因となることがあります。

その他の注意事項

送 / 受信中やコピー中には次のことをしないでください。

- 本体を開ける。
- 主電源スイッチを切る。
- 電源プラグを抜く。

本製品は日本国内でのみ使用が可能です。海外では安全規格や回線が異なり使用できません（国際電話回線により国内から海外への交信は可能です）。

電話回線や通信事情の悪い地域ではご使用になれない場合があります。

キャッチホンサービスをご利用されている場合、ファクス送 / 受信中に電話がかかってくると、割り込み信号が入るため、送 / 受信がうまく行えないことがあります。

本製品はナンバーディスプレイに対応していないため、ナンバーディスプレイサービスを契約している回線に接続すると、受信が正常に行えないことがあります。

機械がいかなる状態のときであっても、機械内部のモーターの駆動音が聞こえるときは、前カバーや左カバーを開けたり、電源を切ったりしないでください。

はじめに

商標について

- Microsoft、 Windows、 Windows NT および Internet Explorer は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Windows Me および Windows XP は、 Microsoft Corporation の商標です。
- Ethernet はゼロックス社の登録商標です。
- IBM ならびに IBM PC/AT は、米国 IBM International Business Machines Corporation の商標です。
- Adobe、 Acrobat は、アドビシステムズ社の登録商標です。

その他、本使用説明書中に記載されている会社名や製品名は、各社の商標または登録商標です。

なお、本文中には TM および ® は明記しておりません。

日本語変換はオムロンソフトウェア（株）の Advanced Wnn を使用しています。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

本書の構成・表記について

本書の構成

本説明書は、次の章で構成されています。

1　各部の名称とはたらき

本体各部の名称と操作パネルのキー名称を説明しています。

2　使用前の準備

ファクスを使用する前に必要な設定について説明しています。

3　ファクスの操作方法（基本編）

「原稿を送る」、「原稿を受ける」など一般的なファクスの使いかたについて説明しています。

4　ファクスの操作方法（応用編）

送る時刻を指定したり、同じ原稿を複数の相手先に連続して送ったり、次の送信を予約したりなどファクスの便利な機能について説明しています。

また、送信先や受信先を制限したり、受信した原稿を条件ごとに転送 / 保存 / 印刷したりなど高度なファクス通信について説明もしています。さらに、他社機と互換性のある F コード通信機能や、ファクスの通信状況を把握するのに便利な部門管理機能も説明しています。

5　通信結果や登録した内容の確認

最近行われた送 / 受信の状況を操作パネルで確認する方法を説明しています。また、通信結果や本機の設定・登録状況を把握するための管理レポート類の印刷方法についても説明しています。

6　各種設定と登録

エラー時に発生するブザー音の音量を調整するなど、機能に関する各種の設定や登録について説明しています。

7　Network FAX について

Network FAX 機能を使用する方法について説明しています。付属の CD-ROM に納められている Network FAX ドライバ使用説明書（オンラインマニュアル）も合わせてお読みください。

8　こんなときには

エラーが表示されたときやトラブルが発生したときの対処方法を説明しています。

付録

文字の入力方法や本製品の仕様などについて説明しています。

本書の読みかた

本書中では説明の内容によって、次のように表記しています。

表記	説明	表記例
太字	操作パネル上のキーおよびコンピュータの画面に表示されるボタンやメッセージを示します。	**スタート**キーを押してください。 **OK** ボタンをクリックしてください。
「標準」	メッセージ表示部に表示されるメッセージを示します。	「コピーできます。」が表示されます。
参考	補足説明や操作の参考となる情報が書かれています。	参考：—
重要	トラブルを防止するために、必ず守っていただきたい事項や禁止事項が書かれています。	重要：—

操作手順の表記について

本書中では、操作パネルのキーを連続して操作する手順を、次のように→でつないで表記しています。

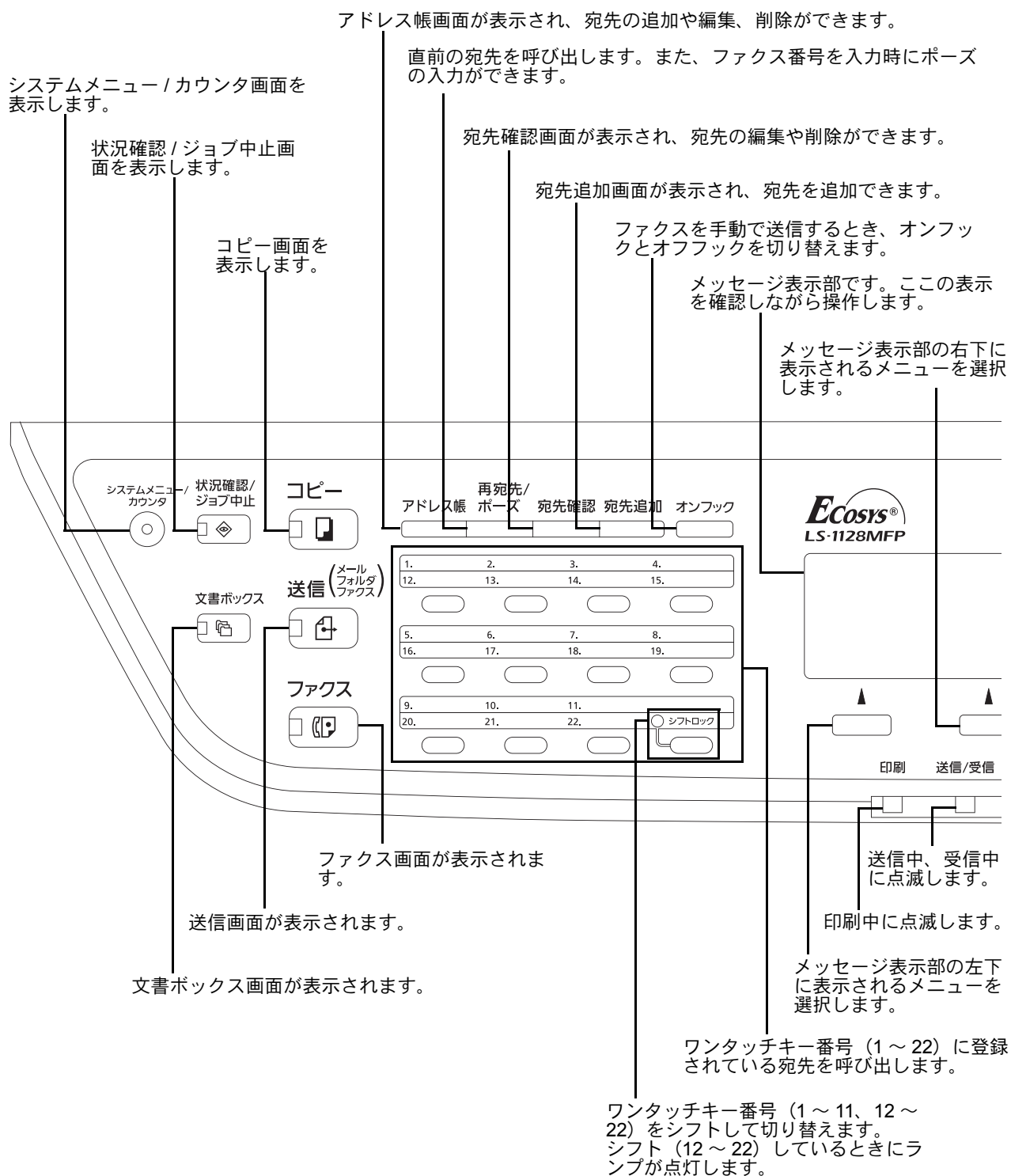
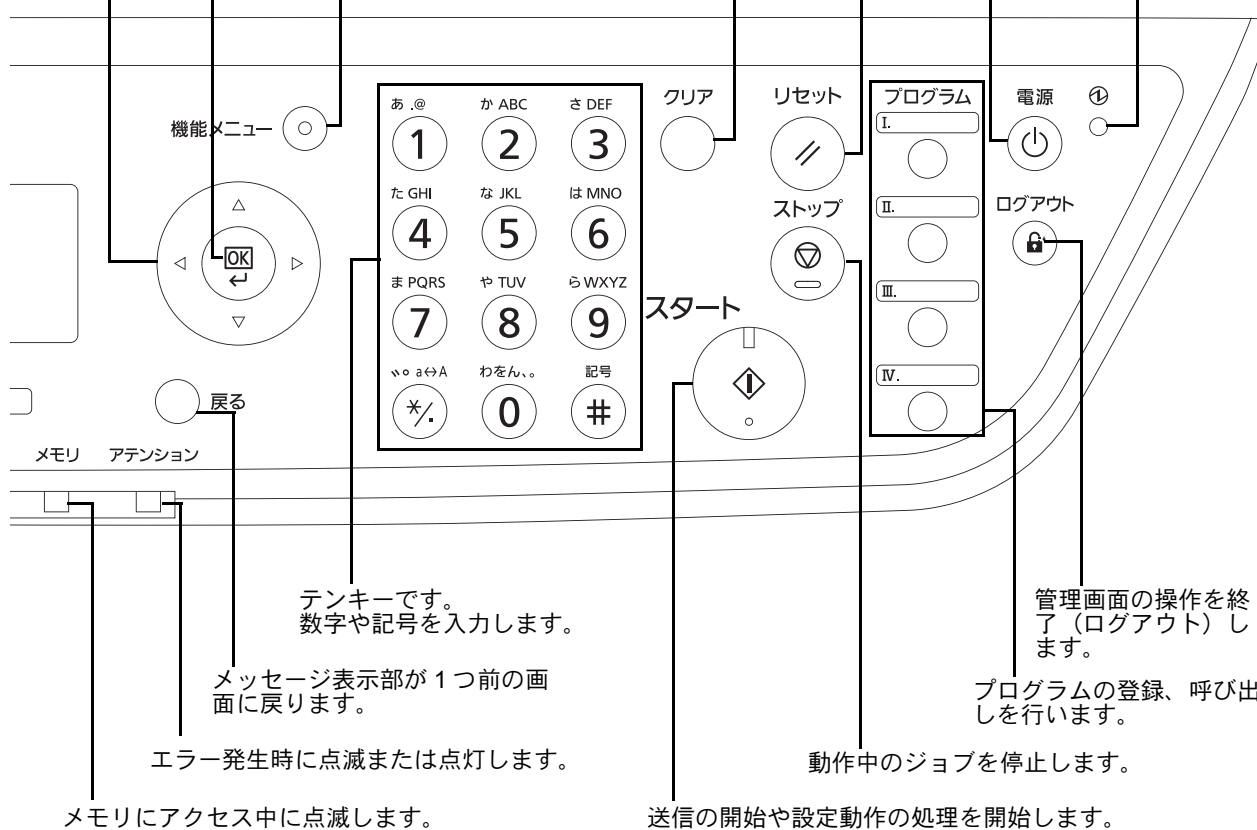
実際の手順	本書の表記
[**ファクス**] を押す ▼ 「送信設定」の [**次へ**] を押す ▼ 「基本設定」の [**次へ**] を押す ▼ 「発信元記録」の [**変更**] を押す	[**ファクス**] →「送信設定」の [**次へ**] → [**基本設定**] の [**次へ**] →「発信元記録」の [**変更**] の順に押してください。

1　各部の名称とはたらき

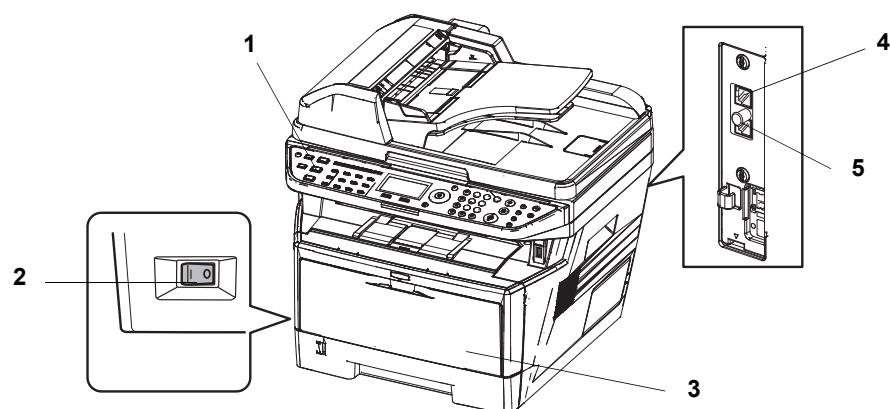
この章では、ファクスとして利用する場合に使用する部位の名称とはたらきを説明します。

その他の部位については、本体の使用説明書を参照してください。

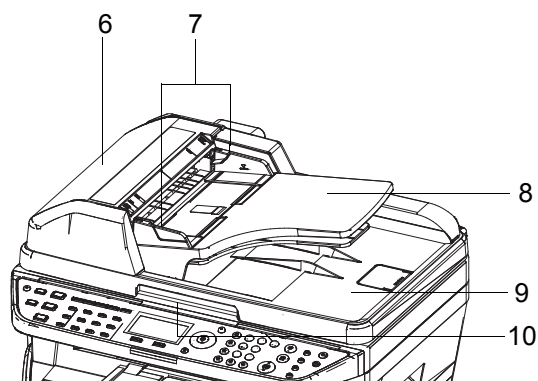
操作パネル

ファクス以外の機能を使用するときのキーやランプについては、本体の使用説明書を参照してください。

メニュー項目の選択や文字入力時のカーソルの移動、値の変更などを行います。
選んでいる項目を選択したり、入力した数値を決定したりします。
ファクスの機能メニューを表示します。
入力した数値や文字をクリアします。
設定をリセットしてそれぞれの基本画面を表示します。
本機の電源を ON/OFF します。また、スリープ状態への移行 / 解除もできます。
本機の主電源が ON のときに点灯します。
機能メニュー
クリア
リセット
プログラム
電源
ストップ
ログアウト
スタート
戻る
メモリ
アテンション
テンキーです。
数字や記号を入力します。
メッセージ表示部が 1 つ前の画面に戻ります。
エラー発生時に点滅または点灯します。
メモリにアクセス中に点滅します。
管理画面の操作を終了（ログアウト）します。
プログラムの登録、呼び出しを行います。
動作中のジョブを停止します。
送信の開始や設定動作の処理を開始します。

本体

本機をファクスとして利用するときに使用する部位について説明しています。

ファクス以外の機能を使用するときの部位については、本体の**使用説明書**を参照してください。

1	操作パネル	ファクスの操作はここで行います。
2	主電源スイッチ	ファクスやコピーの操作を行うときは、このスイッチをON（｜）にしてください。メッセージ表示部が点灯し、機械の操作が可能になります。
3	手差しトレイ	特殊紙など、カセット以外の用紙を使用するときは、ここに用紙をセットします。
4	LINE 接続コネクタ	電話回線用のモジュラーコードを接続してください。
5	TEL 接続コネクタ	市販の電話機を併用する場合は、ここに接続してください。

重要：主電源スイッチを切ると、ファクスを自動受信できなくなりますのでご注意ください。電源を切る場合は操作パネルにある**電源キー**を押してください。

原稿送り装置

6	上カバー	原稿送り装置で原稿がつまったときに開いてください。
7	原稿幅ガイド	原稿幅に合わせて調節してください。
8	原稿トレイ	ここにシート原稿を重ねてセットしてください。
9	原稿排紙テーブル	読み終わった原稿はここに排出されます。
10	原稿送り装置開閉取っ手	原稿送り装置を開閉するときは、この取っ手を持ってください。

2　使用前の準備

この章では、ファクスを初めて使用する前に行う準備作業を説明します。

準備作業をサービス担当者が済ませている場合は、お客様が行う必要はありません。

電話回線の種類に合わせて設定する

契約している電話回線の種類に合わせて選択してください。この選択を誤ると、ファクスの送信ができませんのでご注意ください。

1 システムメニュー / カウンタキーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[ファクス] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、[送信設定] を選択してください。

5 OK キーを押してください。

6 △ または ▽ キーを押して、[ファクス回線設定] を選択してください。

7 OK キーを押してください。

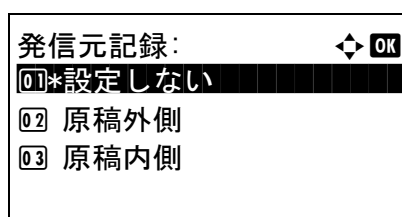
ﾌｧｸｽ回線設定:
01*ﾌﾟｯｼｭ回線(DTMF)
02 ﾀﾞｲﾔﾙ回線(10PPS)
03 ﾀﾞｲﾔﾙ回線(20PPS)

8 △ または ▽ キーを押して、契約している電話回線の種類に合わせて、[プッシュ回線 (DTMF)]、[ダイヤル回線 (10PPS)] または [ダイヤル回線 (20PPS)] を選択してください。

9 OK キーを押してください。

送信したファクスに印刷される発信元記録を設定する

発信元記録とは、相手先で受信したファクスに印刷されるこちら側（発信元）の情報のことで、送信日時や送信ページ数、名前、ファクス番号、ファクスアドレスなどがあります。本機では、発信元記録を受信側で印刷させるかどうかを選択することができます。印刷させる場合の位置も、送信ページ画像の内側、外側を選択できます。

参考：通常、発信元記録には自局名称が印刷されますが、部門管理が有効であるときに部門コードを入力して送信を行った場合は、部門名称が印刷されます。

1 システムメニュー / カウンタキーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[ファクス] を選択してください。

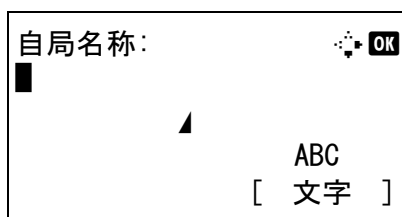
3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、[送信設定] を選択してください。

5 OK キーを押してください。

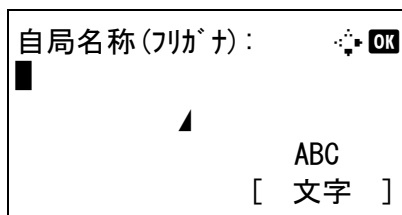
6 △ または ▽ キーを押して、[発信元記録] を選択してください。

7 OK キーを押してください。

8 △ または ▽ キーを押して、印刷させるときはその位置を、印刷させないときは [設定しない] を選択してください。

9 OK キーを押してください。

発信元の情報を設定する

発信元記録に印刷される名前（自局名）や、ファクス番号、ファクス ID（自局情報）を登録します。発信元の情報を登録すると、受信側ではどこから送られてきた原稿なのかを容易に知ることができます。

名前（自局名）の登録

発信元情報に印刷する発信元の名前を登録します。

参考：登録内容を変更するときも、同様の操作を行ってください。

1 システムメニュー / カウンタキーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[**ファクス**] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、[**送信設定**] を選択してください。

5 OK キーを押してください。

6 △ または ▽ キーを押して、[**自局名称**] を選択してください。

7 OK キーを押してください。

8 登録する自局名を入力してください。32 文字まで入力できます。

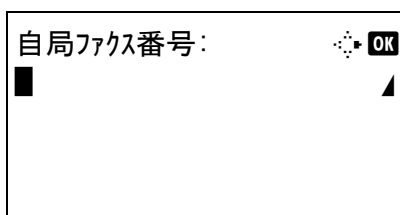
参考：文字の入力方法は、付録 -2 ページの文字の入力方法を参照してください。

9 OK キーを押してください。

10 △ または ▽ キーを押して、[**自局名称（フリガナ）**] を選択してください。

11 OK キーを押してください。

12 登録する自局名のフリガナを入力してください。半角カタカナおよび半角英数で 32 文字まで入力できます。

参考：文字の入力方法は、付録 -2 ページの文字の入力方法を参照してください。

13 OK キーを押してください。

自局情報の登録

発信元情報に印刷する発信元の自局情報（自局ファクス番号 / 自局ファクス ID）を登録します。自局ファクス ID は送受信制限で使用します。（6-16 ページの通信する相手先を限定する【送受信制限】参照）

1 システムメニュー / カウンタキーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[ファクス] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、[送信設定] を選択してください。

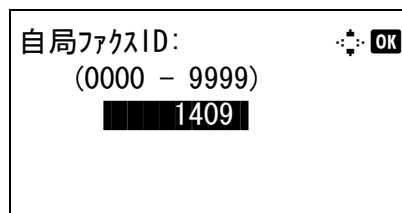
5 OK キーを押してください。

自局ファクス番号を登録するときは次の手順に、自局ファクス ID を登録するときは手順 10 に進んでください。

自局ファクス番号登録

6 △ または ▽ キーを押して、[自局ファクス番号] を選択してください。

7 OK キーを押してください。

8 テンキーを使って登録する自局ファクス番号を入力してください。20 桁まで入力できます。

参考：**再宛先 / ポーズ**キーを押すと、番号の間にポーズ（-）が入力されます。

◁ または ▷ キーを押すと、カーソルが移動します。

番号を訂正するときは、**クリア**キーを押して 1 文字ずつ削除し、入力し直してください。すべて削除するときは、**リセット**キーを押してください。

---

9 OK キーを押してください。

自局ファクス ID 登録

10 △または▽キーを押して、[自局ファクス ID] を選択してください。

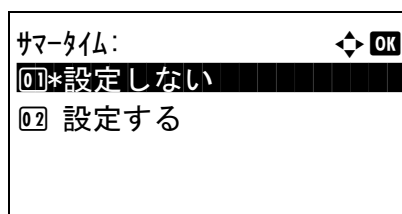
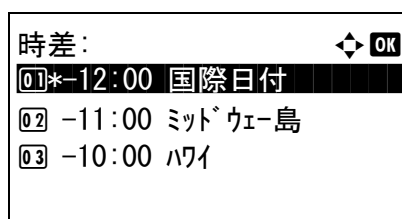
11 OK キーを押してください。

12 テンキーを使って自局ファクス ID の番号を 4 桁で入力してください。

13 OK キーを押してください。

日付と時刻を設定する

本機に内蔵されている時計の日付と時刻を登録します。ここで登録した時刻をもとにタイマー送信が行われるため、必ず正しい日付と時刻を登録してください。

重要：メッセージ表示部上に表示される時刻は定期的に修正してください。誤差が生じ現在時刻からずれることがあります。

1 システムメニュー / カウンタキーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[**共通設定**] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、[**日時設定**] を選択してください。

5 OK キーを押してください。

6 △ または ▽ キーを押して、[**時差**] を選択してください。

7 OK キーを押してください。

8 △ または ▽ キーを押して、地域を選択してください。

9 OK キーを押してください。

10 △ または ▽ キーを押して、[**サマータイム**] を選択してください。

参考：サマータイムを利用していない地域を選択した場合はサマータイムの設定画面は表示されません。

11 OK キーを押してください。

12 △ または ▽ キーを押して、[**設定する**] または [**設定しない**] を選択してください。

13 OK キーを押してください。

14 △ または ▽ キーを押して、[**日付 / 時刻**] を選択してください。

15 OK キーを押してください。

日付/時刻:
年 月 日
2009 01 01
(時差:東京)

16 ◁ または ▷ キーを押してカーソル位置を移動し、年、月、日をそれぞれ入力してください。

17 OK キーを押してください。

日付/時刻:
時 分 秒
11: 45: 50
(時差:東京)

18 ◁ または ▷ キーを押してカーソル位置を移動し、時、分、秒をそれぞれ入力してください。

19 OK キーを押してください。

3　ファクスの操作方法（基本編）

この章では、基本的なファクスの使いかたを説明します。

自動送信する

テンキーを使ったごく一般的な送信方法を説明します。

送信画面への切り替え

```
送信できます。
     2009/05/25    12:30

文字＋写真     200x100dpi
[ 原稿画質 ]  [ﾌｧｸｽ送信]
```

1 **ファクス**キーを押してください。送信の基本画面が表示されていることを確認してください。

参考：設定によっては、アドレス帳の画面が表示される場合があります。この場合、**リセット**キーを押して送信の基本画面を表示させてください。

送信方法の選択

2 送信方法には、メモリ送信とダイレクト送信の 2 つがあります。初期状態ではメモリ送信です。

ダイレクト送信を選択する場合は、次の手順を行ってください。

1. **機能メニュー**キーを押してください。
2. △ または ▽ キーを押して、[**ファクスダイレクト送信**] を選択してください。
3. OK キーを押してください。
4. △ または ▽ キーを押して、[**設定する**] を選択してください。
5. OK キーを押してください。

ダイレクト送信設定	説明
設定しない	メモリ送信します。 原稿をメモリに読み込んでから通信を開始します。
設定する	ダイレクト送信します。 相手先にダイヤルし、通信を開始してから原稿を読み込みます。

参考：ダイレクト送信は、1 回の送信で指定できる宛先は 1 件です。

メモリ送信（原稿送り装置に原稿をセットする場合）

原稿送り装置にセットした原稿を読み込み、メモリに記憶した後に相手先にダイヤルします。送信の完了を待たずに原稿を手元に戻すことができるため、非常に便利です。複数ページのシート原稿の送信に適しています。

メモリ送信（原稿ガラスに原稿をセットする場合）

原稿送り装置にセットできないブック原稿などの送信に適しています。原稿ガラスにセットした原稿をメモリに記憶した後に相手先にダイヤルします。

参考：連続読み込みが設定されている場合は、原稿ガラスの原稿をメモリに記憶した後、続けて次の原稿を読み込むことができます。1 ページ読み込むごとに、読み込み継続の操作を行い、すべての原稿をメモリに記憶した後に相手先にダイヤルします。

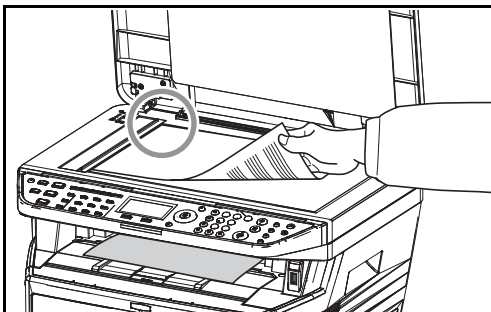
ダイレクト送信（原稿送り装置に原稿をセットする場合）

相手先と回線がつながってから、原稿送り装置にセットされた原稿の読み込みを開始します。複数ページの原稿がセットされている場合は、1 ページ分の原稿を送信してから、次のページを読み込みます。

ダイレクト送信（原稿ガラスに原稿をセットする場合）

原稿送り装置にセットできないブック原稿などの送信に適しています。相手先と回線がつながった後、原稿ガラスにセットした原稿を読み込んで送信します。

参考：連続読み込みが設定されている場合は、原稿ガラスの原稿を送信した後、続けて次の原稿を読み込むことができます。1 ページ送信するごとに、読み込み継続の操作を行います。

原稿のセット

3 原稿ガラスまたは原稿送り装置（オプション）に原稿をセットしてください。原稿をセットする方法は、本体の使用説明書を参照してください。

参考：原稿サイズが B5 の場合、原稿を横向き（B5-R）にセットすると、A4 サイズ（横向き：A4-R）で送信します。

相手先のダイヤル

4 テンキーを使って相手先のファクス番号を入力してください。

参考：テンキーで番号を押すとファクス番号の入力画面に替わります。

参考：相手先のファクス番号は 64 桁まで入力できます。

[スペース] を押すと、半角スペースが入力されます。

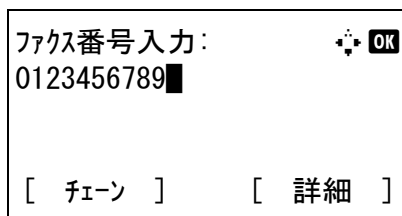
◁ または ▷ を押すと、カーソルが移動します。

番号を訂正するときは、クリアキーを押して 1 文字ずつ削除し、入力し直してください。すべて削除するときは、リセットキーを押してください。

再宛先 / ポーズキー

このキーを押すとダイヤル時に約 3 秒の待ち時間が挿入されます。たとえば、0 発信（構内交換機を使用して内線から外線への発信）するときや、情報サービスを受けるときなどのダイヤル待ち時間の挿入に使用します。

ﾌｧｸｽ番号入力：
0123456789
[ﾁｪｰﾝ]　[詳細]

6 必要に応じて、送信詳細設定をしてください。[詳細]（右セレクトキー）を押してファクス詳細メニューを表示し、◁ または ▷ キーを押して「F コード」、「暗号送信」、「送信開始速度」または「ECM」を選択して設定を変更し、OK キーを押してください。

キー	説明
F コード	F コードを使って通信するときは、このキーを押してください。詳細は、4-24 ページの F コードを使って通信する【F コード通信】を参照してください。
暗号送信	暗号通信を使って送信するときは、このキーを押してください。詳細は、6-25 ページの原稿を暗号化して安全に通信する【暗号通信】を参照してください。
送信開始速度	送信開始速度を変更するときは、このキーを押してください。 33600 bps、14400 bps、9600 bps から選択してください。
ECM	ECM 通信は、送信時に電話回線上のノイズなどの影響を受けて、正しく送 / 受信できなかった画像を自動的に再送する機能です。ECM 通信の設定を変更するときは、このキーを押してください。

オンフックキーについて

このキーを押すと電話回線に接続します。

ファクス番号が入力されている場合は、相手先にダイヤルを開始します。

このキーを押してから、テンキーを使って相手先にダイヤルすることもできます。詳細は、4-10 ページの相手先に電話して手動で送信する【手動送信】を参照してください。

テンキー以外のダイヤルのしかた

- アドレス帳を使う（3-13 ページ参照）
- ワンタッチキーを使う（3-24 ページ参照）
- 手動リダイヤル（再宛先呼び出し）（3-26 ページ参照）

参考：ファクス以外にも、メール送信、フォルダ（SMB/FTP）送信を組み合わせて一度に送信することができます。詳細は本体の使用説明書を参照してください。

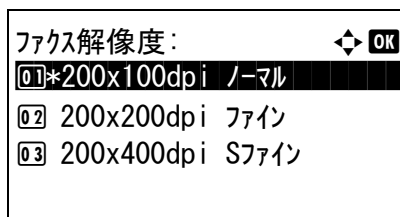
解像度の選択

5 送る原稿に適した解像度を選択します。

- 200 × 100 dpi（ノーマル）：普通の大きさの文字の原稿を送るとき
  文字の大きさの目安：10.5 ポイント
  （サンプル：解像度　**解像度**）
- 200 × 200 dpi（ファイン）：比較的小さい文字や細い線のある原稿を送るとき
  文字の大きさの目安：8 ポイント
  （サンプル：解像度　**解像度**）
- 200 × 400 dpi（スーパーファイン）：微細な文字や線のある原稿を送るとき
  文字の大きさの目安：6 ポイント
  （サンプル：解像度　**解像度**）
- 400 × 400 dpi（ウルトラファイン）：微細な文字や線のある原稿をさらにきれいに送るとき
  文字の大きさの目安：6 ポイント
  （サンプル：解像度　**解像度**）

参考：工場出荷時は 200 × 100 dpi（ノーマル）に設定されています。

解像度を高くすると画像は鮮明になりますが、送信時間は長くなります。通常は 400 × 400 dpi（ウルトラファイン）までをお勧めします。

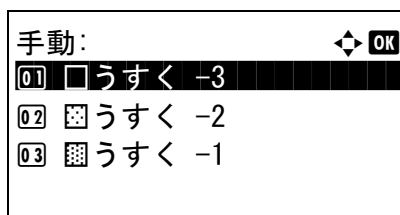
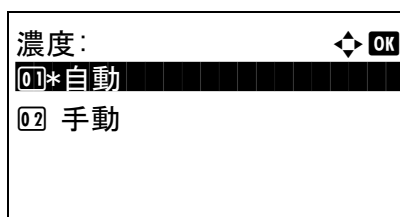
読み込み解像度はファクス送信解像度と等しいか、ファクス解像度より高く設定するという関係があります。ファクス送信解像度を読み込み解像度より高くしようとした場合、読み込み解像度が自動的に、ファクス送信解像度と同じ設定になります。

1　**機能メニュー**キーを押してください。
2　△ または ▽ キーを押して、[**ファクス解像度**] を選択してください。
3　OK キーを押してください。
4　△ または ▽ キーを押して、解像度を選択してください。

ﾌｧｸｽ解像度:
01*200x100dpi ﾉｰﾏﾙ
02 200x200dpi ﾌｧｲﾝ
03 200x400dpi Sﾌｧｲﾝ

5　OK キーを押してください。

重要：高解像度を選択すると、画像は鮮明になりますが、解像度が上がれば上がるほど送信時間は長くなります。

200 × 400 dpi（スーパーファイン）以上で送信する場合、受信側のファクスもそれらの画質で受信できる必要があります。受信側がその機能を備えていない場合は、200 × 200 dpi（ファイン）の画質で送信されます。

濃度の選択

6　原稿読み込み時の濃度を調整します。

- 手動（-3 ～ +3）：濃度を 7 段階に調整できます。
- 自動：原稿の濃度に応じて最適な濃度になります。

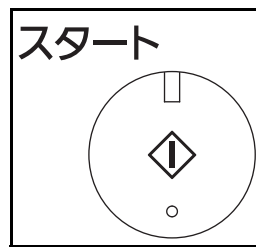
1　**機能メニュー**キーを押してください。
2　△ または ▽ キーを押して、[**濃度**] を選択してください。
3　OK キーを押してください。
4　△ または ▽ キーを押して、[**自動**] または [**手動**] を選択してください。

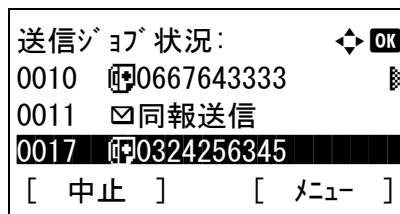
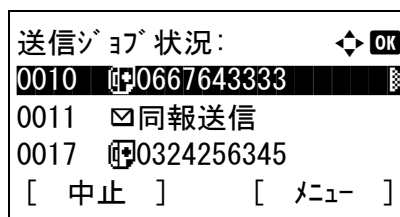
濃度:
01*自動
02 手動

5　OK キーを押してください。手順 4 で [**手動**] を選んだときは次の手順に進んでください。
6　△ または ▽ キーを押して、濃度を選択してください。

手動:
01 □うすく -3
02 ▨うすく -2
03 ▩うすく -1

7 OK キーを押してください。

送信スタート

7 **スタート**キーを押してください。送信が開始します。

参考：「送信前の宛先確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、**スタート**キーを押したときに、宛先確認画面が表示されます。詳しくは、5-12 ページの**宛先確認画面について**を参照してください。

送信状況を確認するには

1 **状況確認 / ジョブ中止**キーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、**[送信ジョブ状況]** を選択してください。

3 OK キーを押してください。送信ジョブ状況が一覧で表示されます。

送信ｼﾞｮﾌﾞ状況:
0010 0667643333
0011 同報送信
0017 0324256345
[中止] [ﾒﾆｭｰ]

送信を中止するには

1 上の送信ジョブ確認画面で、△ または ▽ キーを押して、ジョブを選択してください。

2 **[中止]**（左セレクトキー）を押してください。

3 **[はい]**（左セレクトキー）を押してください。送信を中止します。

参考：原稿読み込み中は、送信画面で操作パネルの**ストップ**キーを押すと、送信を中止します。

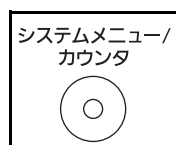
自動受信する（ファクス専用自動受信）

本機で電話を受けずにファクス専用として使用する場合は、ファクス専用自動受信にしてください。受信時には特に操作の必要はありません。

受信方法について

本機の受信方法には次の 4 種類があります。

- ファクス専用自動受信 [**自動（普通）**]
- ファクス / 電話自動切替受信 [**自動（ファクス / 電話）**]（6-2 ページ参照）
- ファクス / 留守番電話自動切替受信 [**自動（留守番電話）**]（6-4 ページ参照）
- 手動受信 [**手動**]（4-12 ページ参照）

受信方法の確認と変更

1 システムメニュー / カウンタキーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[**ファクス**] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、[**受信設定**] を選択してください。

5 OK キーを押してください。

6 △ または ▽ キーを押して、[**受信方式**] を選択してください。

7 OK キーを押してください。

8 △ または ▽ キーを押して、[**自動（普通）**] を選択してください。

9 OK キーを押してください。

受信開始

1 ファクスが送られてくると、登録された回数の呼び出し音が鳴った後、受信を開始します。

受信が始まると、**受信**ランプが点滅します。

参考：呼び出し音が鳴る回数は変更することができます。（6-6 ページの呼び出しベルの回数を変更する【ベル回数】を参照）

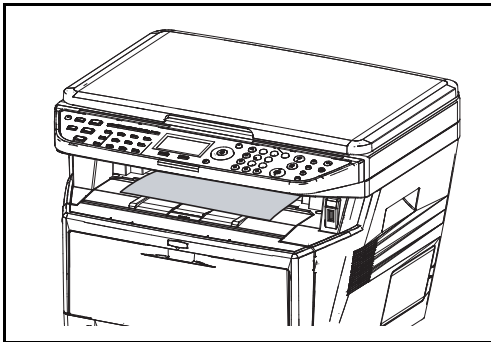
受信を中止するときは、3-12 ページの送 / 受信の中止（通信の切断）を参照してください。

代行受信とは

用紙切れや紙づまりなどで印刷できない場合、本機は送られてきた原稿をいったん画像メモリに記憶します。そして印刷可能な状態になると、印刷を行います。

代行受信が行われると、状況確認画面の印刷ジョブにファクス受信印刷ジョブが表示されます。受信原稿を印刷するときは、用紙を補給するか、紙づまりを解除してください。

参考：状況確認画面については本体の使用説明書を参照してください。

受信印刷

2 受信した原稿は、印刷された面を下にして上トレイに排出されます。上トレイの収納枚数は普通紙（80 g/m²）で 150 枚までです。ただし、使用用紙の状態により収納枚数は変わります。

重要：収納可能な枚数は、排出先によって異なります。本体の使用説明書を参照してください。収納可能な枚数を超えるときは、上トレイの用紙をすべて取り出してください。

用紙切れや紙づまりなどで本機が印刷できない状態であっても、受信は行われます。（代行受信）

通信を中止する

本機で通信を中止する方法は、送信方法（メモリ送信またはダイレクト送信）や通信形態によって異なります。ここでは、さまざまなケースでの中止方法を説明します。

メモリ送信（原稿読み込み中）の中止

メモリ送信で、原稿の読み込みを中止するには、操作パネルの**ストップ**キーを押してください。原稿の読み込みを中止し、原稿を排出します。原稿送り装置に原稿が残っているときは、原稿排紙テーブルから取り出してください。

メモリ送信（通信中）の中止

メモリ送信で、原稿の読み込みが終了して通信が開始した後に中止するには、次の手順で行ってください。

参考：ユーザ管理が設定されている場合は、ジョブを実行したユーザまたは管理者以外は処理をキャンセルできません。

回線を切って、送 / 受信を中止させることができます。詳細は、3-12 ページの**送 / 受信の中止（通信の切断）**を参照してください。

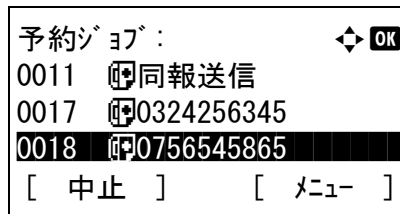
---

1. **状況確認 / ジョブ中止**キーを押してください。
2. △ または ▽ キーを押して、[送信ジョブ状況] を選択してください。
3. OK キーを押してください。
4. △ または ▽ キーを押して、中止したいジョブを選択してください。
5. [中止]（左セレクトキー）を押してください。

6. [はい]（左セレクトキー）を押してください。通信が中止されます。

参考：[メニュー]（右セレクトキー）を押し、[ジョブ中止] を選択して OK キーを押してもキャンセルできます。

タイマー送信（待機中）の中止と即時送信

タイマー送信で待機中のジョブを中止する、または指定時刻を待たずに今すぐ送信するには、次の手順で行ってください。

1 **状況確認 / ジョブ中止**キーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、**[予約ジョブ]** を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、中止したいジョブを選択してください。即時送信するときは、送信したいジョブを選択してください。

5 **[メニュー]**（右セレクトキー）を押してください。

6 △ または ▽ キーを押して、**[ジョブ中止]** を選択してください。即時送信するときは、**[今すぐ開始]** を選択してください。

7 OK キーを押してください。

8 **[はい]**（左セレクトキー）を押してください。通信が中止されます。即時送信するときは通信が開始します。

ダイレクト送信の中止

ダイレクト送信で、送信中に中止するときは、操作パネルのストップキーを押してください。読み込み中の原稿を排出し、送信の初期画面に戻ります。原稿送り装置に原稿が残っているときは、原稿送り装置から取り出してください。

送 / 受信の中止（通信の切断）

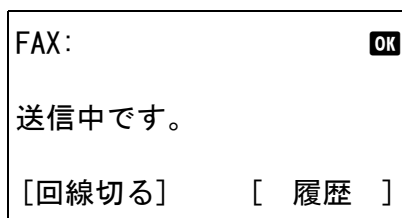
通信中の回線を切って、送信または受信を中止するときは、次の手順で行ってください。

1 状況確認 / ジョブ中止キーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[ファクス] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 [回線切る]（左セレクトキー）を押してください。

5 [はい]（左セレクトキー）を押してください。通信中の回線を切ります。

ポーリング送信 /F コード掲示板送信の中止

ポーリング送信 /F コード掲示板送信を中止するには、ポーリングボックス内に保存されているポーリング送信用原稿を削除してください。削除方法は、4-39 ページのポーリングボックスからの削除のしかたを参照してください。

アドレス帳を使う

ファクスの宛先をアドレス帳から選択することができます。

宛先の新規登録

アドレス帳に新しい宛先を登録します。登録方法には、個人登録および複数の個人登録をまとめて登録するグループ登録の 2 種類があります。

個人登録（ファクス）

100 件までの宛先が登録できます。各宛先には、宛先名、ファクス番号、F コード通信、暗号通信、送信開始速度、ECM 通信が登録できます。

1 システムメニュー / カウンタキーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[宛先編集] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、[アドレス帳] を選択してください。

5 OK キーを押してください。

6 [メニュー]（右セレクトキー）を押してください。

7 △ または ▽ キーを押して、[アドレス追加] を選択してください。

8 OK キーを押してください。

9 △ または ▽ キーを押して、[個人] を選択してください。

10 OK キーを押してください。

11 ◁ または ▷ キーを押して、[アドレス番号] を選択してください。

詳細: OK
ｱﾄﾞﾚｽ番号: 7/ 7
053
[編集]

12 [編集]（右セレクトキー）を押してください。

13 テンキーを使って任意のアドレス番号（001 ～ 120）を入力してください。

参考：アドレス番号は、宛先 1 件ごとの識別番号です。個人登録 100 件、グループ登録 20 件の合計 120 件の中から、空いている番号を選択できます。

14 OK キーを押してください。

15 ◁または▷キーを押して、[個人名] を選択してください。

16 [編集]（右セレクトキー）を押してください。

17 テンキーを使ってアドレス帳に表示される宛先名を入力してください。32 文字まで入力できます。

参考：文字の入力方法は、付録 -2 ページの文字の入力方法を参照してください。

18 OK キーを押してください。

19 ◁または▷キーを押して、[ふりがな] を選択してください。

20 [編集]（右セレクトキー）を押してください。

21 宛先名のフリガナを入力してください。半角カタカナおよび半角英数で 32 文字まで入力できます。

参考：文字の入力方法は、付録 -2 ページの文字の入力方法を参照してください。

22 OK キーを押してください。

詳細:
ファクス番号:　3/ 7
0667640000
[編集]

23 ◁ または ▷ キーを押して、[ファクス番号] を選択してください。

24 [編集]（右セレクトキー）を押してください。

25 テンキーを使って相手先のファクス番号を入力してください。32 桁まで入力できます。

参考：文字の入力方法は、付録 -2 ページの文字の入力方法を参照してください。

再宛先 / ポーズキーについて

このキーを押すとダイヤル時に約 3 秒の待ち時間が挿入されます。たとえば、0 発信（構内交換機を使用して内線から外線への発信）するときや、情報サービスを受けるときなどのダイヤル待ち時間の挿入に使用します。

26 [詳細]（右セレクトキー）を押して、◁ または ▷ キーを押して、「F コード」を選択してください。F コードを使用しない場合は、手順 32 に進んでください。

27 [編集]（右セレクトキー）を押してください。

Fコード:
1234567890123

28 テンキーを使って F コードを入力してください。20 桁まで入力できます。

参考：F コードは、0 ～ 9 の数字とスペース、「#」、「*」の文字を使って入力できます。

---

29 OK キーを押してください。

30 テンキーを使って F コードパスワードを入力してください。20 桁まで入力できます。

参考：F コードパスワードは、0 ～ 9 の数字とスペース、「#」、「*」の文字を使って入力できます。

---

31 OK キーを押してください。

ﾌｧｸｽ詳細:
暗号送信: 2/ 4
ｷｰ02
0000
[変更]

32 ◁ または ▷ キーを押して、「暗号送信」を選択してください。暗号送信を使用しない場合は、手順 42 に進んでください。

33 [変更]（右セレクトキー）を押してください。

34 △ または ▽ キーを押して、[設定する] を選択してください。

35 OK キーを押してください。

36 △ または ▽ キーを押して、暗号鍵番号を選択してください。

37 OK キーを押してください。

参考：暗号鍵は事前に設定してください。詳細は 6-25 ページの暗号鍵の登録のしかたを参照してください。

38 △または▽キーを押して、[設定する] または [設定しない] を選択してください。

39 OK キーを押してください。手順 38 で [設定する] を選んだときは次の手順に、[設定しない] を選んだときは手順 42 に進んでください。

40 テンキーを使って暗号ボックス番号（4 桁）を入力してください。

41 OK キーを押してください。

ﾌｧｸｽ詳細:
送信開始速度: 3/ 4
33600bps
[変更]

42 必要に応じて、◁ または ▷ キーを押して、「送信開始速度」または「ECM」を選択して設定を変更し、OK キーを押してください。

キー	説明
送信開始速度	送信開始速度を変更するときは、このキーを押してください。33600 bps、14400 bps、9600 bps から選択してください。
ECM	ECM 通信は、送信時に電話回線上のノイズなどの影響を受けて、正しく送 / 受信できなかった画像を自動的に再送する機能です。ECM 通信の設定を変更するときは、このキーを押してください。

43 ◁または▷キーを押して各項目が正しく入力できているか確認してください。

44 OK キーを押してください。

45 OK キーを押してください。

46 ◁または▷キーを押して宛先が正しく設定できているか確認してください。

47 OK キーを押してください。アドレス帳に宛先が追加されます。

グループ登録

個人登録された複数の宛先をまとめて、グループとして登録します。宛先を一度に指定できるので便利です。20 件までのグループが登録できます。

参考：グループ登録には、個人登録された宛先が必要です。あらかじめ必要な個人登録を行ってください。

1 システムメニュー / カウンタキーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[宛先編集] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、[アドレス帳] を選択してください。

5 OK キーを押してください。

6 [メニュー]（右セレクトキー）を押してください。

7 △ または ▽ キーを押して、[アドレス追加] を選択してください。

8 OK キーを押してください。

9 △ または ▽ キーを押して、[グループ] を選択してください。

10 OK キーを押してください。

11 ◁ または ▷ キーを押して、[アドレス番号] を選択してください。

12 [編集]（右セレクトキー）を押してください。

13 テンキーを使って任意のアドレス番号（001 ～ 120）を入力してください。

参考：アドレス番号は、宛先 1 件ごとの識別番号です。個人登録 100 件、グループ登録 20 件の合計 120 件の中から、空いている番号を選択できます。

14 OK キーを押してください。

15 ◁ または ▷ キーを押して、[グループ名] を選択してください。

詳細:
ｸﾞﾙｰﾌﾟ名: 1/ 4
[編集]

16 [編集]（右セレクトキー）を押してください。

17 テンキーを使ってアドレス帳に表示されるグループ名を入力してください。32 文字まで入力できます。

ｸﾞﾙｰﾌﾟ名:
GUI Section
ABC
[文字]

参考：文字の入力方法は、付録 -2 ページの文字の入力方法を参照してください。

18 OK キーを押してください。

19 ◁ または ▷ キーを押して、[ふりがな] を選択してください。

詳細:
ふりがな: 2/ 4
[編集]

20 [編集]（右セレクトキー）を押してください。

21 宛先名のフリガナを入力してください。半角カタカナおよび半角英数で 32 文字まで入力できます。

ふりがな:
Sakata
ABC
[文字]

参考：文字の入力方法は、付録 -2 ページの文字の入力方法を参照してください。

22 OK キーを押してください。

23 ◁ または ▷ キーを押して、[グループメンバー] を選択してください。

24 [編集]（右セレクトキー）を押してください。

25 [メニュー]（右セレクトキー）を押してください。

26 △ または ▽ キーを押して、[宛先追加] を選択してください。

27 OK キーを押してください。

28 △ または ▽ キーを押して、グループに登録する宛先（個人）を選択してください。

参考：宛先は、宛先名で検索することができます。

29 [メニュー]（右セレクトキー）を押してください。

30 △ または ▽ キーを押して、[選択] を選択してください。

31 OK キーを押してください。

32 宛先を追加するときは、手順 25 ～ 31 を繰り返してください。

33 OK キーを押してください。

34 ◁または▷キーを押してグループが正しく設定できているか確認してください。

35 OK キーを押してください。アドレス帳にグループが追加されます。

宛先をアドレス帳から選ぶ

アドレス帳に登録されている送り先を選択します。

送信できます。
2007/01/01　12:30
AAAAAAAAAA　BBBBBBBBBB
[CCCCCCCC]　[DDDDDDDD]

1 送信の基本画面で、**アドレス帳**キーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[**アドレス帳**] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、送り先を選択してください。

5 OK キーを押してください。選択した送り先が宛先に登録されます。

送り先の検索

アドレス帳に登録された送り先の検索ができます。

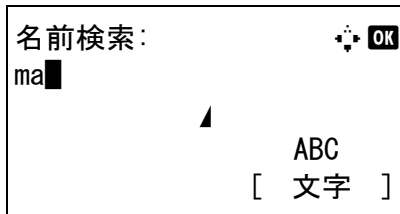
1 送信の基本画面で、**アドレス帳**キーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[**アドレス帳**] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 [**メニュー**]（右セレクトキー）を押してください。

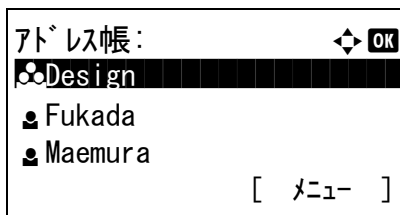
5 △ または ▽ キーを押して、[**名前検索**] を選択してください。

6 OK キーを押してください。

7 テンキーを使って検索したい宛先名を入力してください。

参考：文字の入力方法は、付録 -2 ページの文字の入力方法を参照してください。

8 OK キーを押してください。検索結果が表示されます。

登録内容の変更と削除

登録した宛先（個人）やグループの内容変更 / 削除ができます。

1 システムメニュー / カウンタキーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[宛先編集] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、[Addressbook] を選択してください。

5 OK キーを押してください。

6 △ または ▽ キーを押して、宛先またはグループを選択してください。

7 [メニュー]（右セレクトキー）を押してください。

8 個人登録の宛先を編集する場合

1. △ または ▽ キーを押して、[詳細 / 編集] を選択してください。
2. OK キーを押してください。
3. 宛先の内容を変更してください。変更方法は、個人登録（ファクス）の手順 11 ～ 43 を参照してください。

グループを編集する場合

1. △ または ▽ キーを押して、[詳細 / 編集] を選択してください。
2. OK キーを押してください。

3 グループの内容を変更してください。変更方法は、グループ登録の手順 11 〜 18 を参照してください。グループに宛先を追加する場合は、グループ登録の手順 19 〜 31 を参照してください。

個人登録の宛先またはグループを削除する場合

1 △ または ▽ キーを押して、[削除] を選択してください。

2 OK キーを押してください。

3 [はい]（左セレクトキー）を押してください。選択した宛先またはグループを削除します。

9 OK キーを押してください。

10 [はい]（左セレクトキー）を押してください。登録内容の変更や削除がアドレス帳に反映されます。

アドレス帳リストの出力

アドレス帳を登録している宛先のリストを出力できます。

リストは、宛先のフリガナ順とアドレス番号順から選択できます。

1 システムメニュー / カウンタキーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[宛先編集] を選択してください。

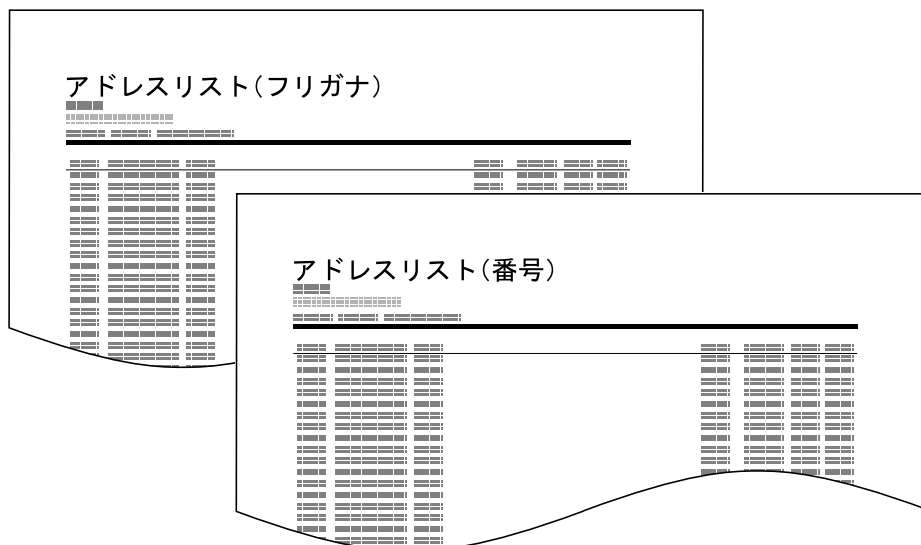
3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、[リスト印刷] を選択してください。

5 OK キーを押してください。

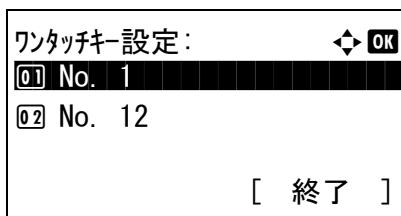
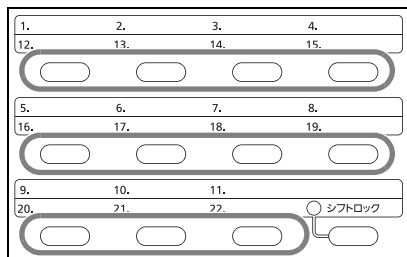
6 △ または ▽ キーを押して、[アドレスリスト（フリガナ）] または [アドレスリスト（番号）] を選択してください。

7 OK キーを押してください。

8 [はい]（左セレクトキー）を押してください。リストが印刷されます。

ワンタッチキーを使う

操作パネルの**ワンタッチ**キーで、アドレス帳の宛先を呼び出すことができます。

ワンタッチキーの新規登録

ワンタッチキーにアドレス帳の宛先（個人またはグループ）を登録します。22 件まで登録できます。

1 **ワンタッチ**キーを長押し（2 秒）してください。

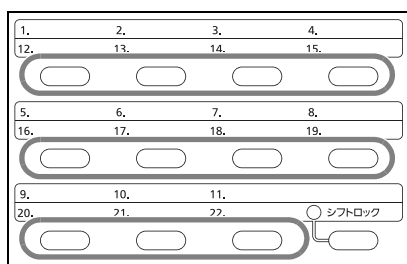
2 △ または ▽ キーを押して、登録する番号を選択してください。

No. 12 ～ No. 22 は**シフトロック**キーを押したときのワンタッチ番号です。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、アドレス帳から**ワンタッチ**キーに登録する宛先（個人またはグループ）を選択してください。

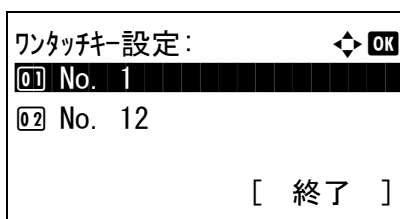
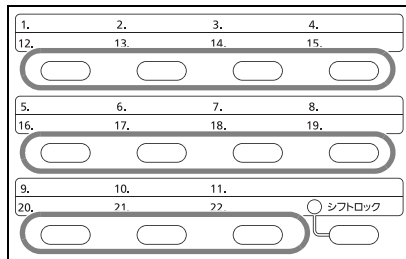
5 OK キーを押してください。**ワンタッチ**キーに宛先が登録されます。

宛先をワンタッチキーで選ぶ

宛先入力の画面で、送り先が登録されている**ワンタッチ**キーを押してください。

ワンタッチ No. 12 ～ No. 22 を呼び出すときは、**シフトロック**キーを押してキーの横にあるランプを点灯させてから、送り先が登録されている**ワンタッチ**キーを押してください。

登録内容の変更と削除

ワンタッチキーに登録されている宛先を別の宛先に変更したり、**ワンタッチ**キーの登録内容を削除します。

参考：アドレス帳で宛先情報を変更すると、**ワンタッチ**キーに登録されている情報が更新されます。

1 **ワンタッチ**キーを長押し（2 秒）してください。

2 △ または ▽ キーを押して、変更する番号を選択してください。

No. 12 ～ No. 22 は**シフトロック**キーを押したときのワンタッチ番号です。

3 OK キーを押してください。

4 **別の宛先に変更する場合**

1. △ または ▽ キーを押して、[編集] を選択してください。
2. OK キーを押してください。
3. △ または ▽ キーを押して、新しい宛先（個人またはグループ）を選択してください。
4. OK キーを押してください。
5. [はい]（左セレクトキー）を押してください。**ワンタッチ**キーに宛先が登録されます。

登録内容を削除する場合

1. △ または ▽ キーを押して、[削除] を選択してください。
2. OK キーを押してください。
3. [はい]（左セレクトキー）を押してください。**ワンタッチ**キーの登録内容が削除されます。

5 [終了]（右セレクトキー）を押してください。

同じ相手に再送信する（リダイヤル）

リダイヤルは、直前に入力された番号にもう一度ダイヤルする機能です。

自動リダイヤル

送信しようとしても相手先が応答しないときに、本機が自動的にダイヤルし直す機能です。

自動リダイヤルに特に設定は必要ありません。一定の間隔をあけて繰り返し行われますので、相手先の通信が長引いた場合でも安心です。

参考：ダイレクト送信時は、自動リダイヤルは行われません。

自動リダイヤルの回数は、0 ～ 14 回の間で変更できます。詳細は、6-8 ページのリダイヤルする回数を変更する【リダイヤル回数】を参照してください。

リダイヤル待機中の即時送信はできません。

手動リダイヤル（再宛先呼び出し）

送信を試みたが、相手先が応答しない。もう一度同じ相手先にファクスしたい。そんなときに**再宛先／ポーズ**キーを押すと、直前にダイヤルした相手先を宛先リストに呼び出すことができます。

送信できます。	
	宛先：　1
:0987654321	
YYYYYYYY	YYYYYYYY
[XXXXXXXX]	[XXXXXXXX]

1 **再宛先／ポーズ**キーを押してください。直前の相手先が宛先リストに表示されます。

参考：直前の送信が同報送信やコンピュータ、メールなどの宛先を含んでいる場合は、それらもあわせて表示されます。必要に応じて相手先の追加や削除などを行ってください。

---

2 **スタート**キーを押してください。送信を開始します。

参考：「送信前の宛先確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、**スタート**キーを押したときに、宛先確認画面が表示されます。詳しくは、5-12 ページの宛先確認画面についてを参照してください。

次の条件で再宛先情報は破棄されます。

・電源を切ったとき

・次の送信操作を行ったとき（新しい再宛先情報が登録されます。）

・ログアウトしたとき

4　ファクスの操作方法（応用編）

この章では、ファクスを効率的に使う方法について説明します。

時刻を指定して送信する【タイマー送信】

タイマー送信は、送信開始の時刻をセットしておくと、その時刻に自動的に送信する機能です。順次同報送信などの機能と併用することができます。

ここでは、1 件の宛先に開始時刻を指定して送信する方法を説明します。

重要：現在時刻が合っていないと、指定時刻に正しく通信できません。現在時刻が合っていないときは正しく調整してください。詳細は、2-7 ページの**日付と時刻を設定する**を参照してください。

参考：ダイレクト送信は選択できません。

時刻は、00：00 ～ 23：59 までの 1 分単位で指定できます。

送信予約、割り込み送信とあわせて、30 件までのタイマー送信を指定できます。

指定時刻が同じタイマー送信が 2 つ以上ある場合、指定された順に通信が開始されます。ただし指定順が逆でも、同じ宛先へは、異なる宛先よりも先に送信されます。

タイマー送信は、指定時刻の前にキャンセルできます。また、指定時刻の前に送信することもできます。詳細は、3-11 ページの**タイマー送信（待機中）の中止と即時送信**を参照してください。

タイマー送信は、指定時刻の前に宛先の変更をすることもできます。詳細は、4-3 ページの**タイマー送信ジョブの確認のしかた**を参照してください。

一括送信機能

タイマー送信を使用して、同じ宛先のファクスを同じ送信開始時刻にセットすると、10 件までを一度にまとめて送信します。同じ宛先に通信を繰り返すといったムダがなくなり、通信コストの削減につながります。

参考：ダイレクト送信は一括送信されません。

順次同報送信を使用して同じ送信開始時刻のファクスを 2 件以上セットしたときに、それぞれの宛先の中に同じ相手先番号がある場合は一括送信されません。

送信開始時刻に、同じ相手先に対してリダイヤル待機中のファクスがある場合は、リダイヤル待機原稿もあわせて一括送信されます。

部門管理を有効にしているときは、同じ部門コードでタイマー送信を使用した原稿だけが一括送信されます。

---

1. **ファクス**キーを押してください。
2. 原稿をセットしてください。
3. **機能メニュー**キーを押してください。
4. △ または ▽ キーを押して、[**ファクスタイマー送信**] を選択してください。
5. OK キーを押してください。
6. △ または ▽ キーを押して、[**設定する**] を選択してください。
7. OK キーを押してください。

開始時刻：
時　分
11：45
（現在の時刻　11：45）

8 ◁ または ▷ キーを押してカーソル位置を移動し、時、分をそれぞれ入力してください。

9 OK キーを押してください。

10 宛先を指定し、**スタート**キーを押してください。

原稿が読み込まれ、指定時刻になると送信が開始します。

参考：「送信前の宛先確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、**スタート**キーを押したときに、宛先確認画面が表示されます。詳しくは、5-12 ページの**宛先確認画面について**を参照してください。

タイマー送信ジョブの確認のしかた

タイマー送信ジョブの詳細を確認できます。

参考：タイマー送信の中止と即時送信の操作については、3-10 ページの**メモリ送信（通信中）の中止**を参照してください。

1 **状況確認 / ジョブ中止**キーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[**予約ジョブ**] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、確認したいジョブを選択してください。

5 [**メニュー**]（**右セレクト**キー）を押してください。

6 △ または ▽ キーを押して、[**詳細**] を選択してください。

7 OK キーを押してください。

8 ◁または▷キーを押してジョブの詳細を確認してください。

9 OK キーを押してください。

1 回の操作でたくさんの相手先に送信する【順次同報送信】

1 回の操作で同じ原稿を複数の宛先に送ることができる機能です。本機は送信する原稿をいったんメモリに蓄積（記憶）し、その後で指定された宛先に自動的にダイヤルと送信を繰り返します。

参考：1 回の操作で最大 100 ケ所の相手先に送信することができます。

F コード通信やタイマー送信と合わせて使用できます。

ダイレクト送信が選択されている場合は、送信時にメモリ送信に切り替わります。

1 **ファクス**キーを押してください。

2 原稿をセットしてください。

3 宛先を選択してください。

ファクス番号を入力する

1 テンキーでファクス番号を入力してください。

参考：「新規宛先の入力確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、入力したファクス番号を確認するための画面が表示されます。もう一度同じファクス番号を入力して OK キーを押してください。詳しくは、本体の**使用説明書**の新規宛先の入力確認画面の設定を参照してください。

2 OK キーを押してください。次のファクス番号が入力できます。

宛先をアドレス帳から選択する

1 **アドレス帳**キーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、宛先を選択してください。

3 OK キーを押してください。**アドレス帳**キーを押して宛先を選択できます。

宛先をワンタッチキーから選択する

必要な宛先が登録されているワンタッチキーをすべて押してください。

参考：アドレス帳の詳細は、3-13 ページの**アドレス帳を使う**を参照してください。

ワンタッチキーの詳細は、3-24 ページの**ワンタッチキーを使う**を参照してください。

宛先は、直接入力、アドレス帳、ワンタッチキーを組み合わせて選択することができます。

4 すべての宛先が選択できたら、**スタート**キーを押してください。送信が開始します。

参考：「送信前の宛先確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、**スタート**キーを押したときに、宛先確認画面が表示されます。詳しくは、5-12 ページの**宛先確認画面について**を参照してください。

ファクス以外にも、メール送信、フォルダ（SMB/FTP）送信を組み合わせて一度に送信することができます。詳細は本体の**使用説明書**を参照してください。

通信中に別の原稿の送信を予約する【送信予約】

通信中に原稿を読み込んで、次の送信を予約できます。通信が終わると、自動的に予約した送信を開始します。送信予約を使用すれば、順次同報送信などで通信が長引くときに待つ必要がなくなります。

参考：タイマー送信は 30 件まで予約することができます。

順次同報送信などの機能を使用できます。

1. **ファクス**キーを押してください。
2. 原稿をセットしてください。
3. 宛先を選択し、使用する送信機能がある場合は設定してください。
4. **スタート**キーを押してください。原稿の読み込みを開始して、次の送信を予約します。

参考：「送信前の宛先確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、**スタート**キーを押したときに、宛先確認画面が表示されます。詳しくは、5-12 ページの**宛先確認画面について**を参照してください。

5. 通信が終わると、予約した送信が開始します。

別の原稿を優先して送信する【割り込み送信】

通信中にダイレクト送信を選択して原稿を読み込むと、割り込み送信ができます。順次同報送信などで通信が長引く場合や、次の送信が予約されている場合でも、割り込み送信を使用した原稿を先に送信します。

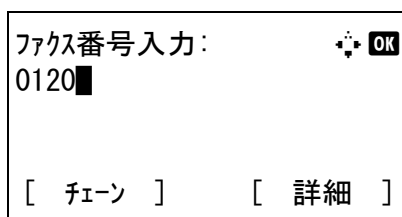
参考：送信予約やタイマー送信がすでに 30 件ある場合は、割り込み送信ができません。

割り込み送信のタイミングによっては、すぐに割り込めない場合があります。

1. **ファクス**キーを押してください。
2. 割り込み送信する原稿をセットしてください。
3. **機能メニュー**キーを押してください。
4. △ または ▽ キーを押して、[**ファクスダイレクト送信**] を選択してください。
5. OK キーを押してください。
6. △ または ▽ キーを押して、[**設定する**] を選択してください。
7. OK キーを押してください。
8. 宛先を指定し、**スタート**キーを押してください。原稿は待機中になり、送信できる状態になれば送信が開始します。

参考：「送信前の宛先確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、**スタート**キーを押したときに、宛先確認画面が表示されます。詳しくは、5-12 ページの**宛先確認画面について**を参照してください。

ダイレクト送信の操作については、3-2 ページの**送信方法の選択**を参照してください。

割り込み送信の待機中に送信を中止するときは、操作パネルの**ストップ**キーを押してください。詳細は、3-10 ページの**通信を中止する**を参照してください。

9. 割り込み送信が終了すると、中断していた通信や送信予約が自動的に開始します。

フリーダイヤルなどの特定の局番を省略して送信する【チェーンダイヤル】

チェーンダイヤルは、複数の宛先に共通する番号でチェーン番号を作成し、相手先のファクス番号をつなげてダイヤルする機能です。フリーダイヤルや市外局番などをチェーン番号にすると、毎回入力する必要がなくなります。

参考：チェーン番号は、相手先のファクス番号の先頭に使用できます。

例として、「0120」をチェーン番号に使用します。

1 **ファクス**キーを押してください。

2 原稿をセットしてください。

3 テンキーで「0120」を入力してください。

4 **[チェーン]**（**左セレクト**キー）を押してください。

5 チェーン番号につなげるファクス番号を入力します。

ファクス番号をテンキーで入力する

1 「0120」がすでに入力されていますので、続けてファクス番号を入力してください。

参考：「新規宛先の入力確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、入力したファクス番号を確認するための画面が表示されます。もう一度同じファクス番号を入力して OK キーを押してください。詳しくは、本体の**使用説明書**の新規宛先の入力確認画面の設定を参照してください。

2 すべての宛先が入力できたら、OK キーを押してください。

ファクス番号をアドレス帳から選択する

1 **アドレス帳**キーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、宛先を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、宛先を選択してください。

5　OK キーを押してください。宛先に‘0120’が自動的に付加されます。

ファクス番号をワンタッチキーから選択する

ワンタッチキーの中から宛先を選択してください。宛先に「0120」が自動的に付加されます。

6 **スタート**キーを押してください。送信が開始します。

参考：「送信前の宛先確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、**スタート**キーを押したときに、宛先確認画面が表示されます。詳しくは、5-12 ページの**宛先確認画面について**を参照してください。

相手先に電話して手動で送信する【手動送信】

相手先との回線がつながったことを確認した後、**スタート**キーを押して送信する方法です。本機に電話機（市販品）を接続すれば、原稿を送信する前に相手と電話で話すことができます。

相手先との接続を確認してから送信する

相手先との回線がつながったことを音声で確認してから送信できます。

1 **ファクス**キーを押してください。

2 原稿をセットしてください。

3 **オンフック**キーを押してください。

4 相手先の番号をテンキーで入力してください。

参考：操作を途中で中止するときは、**[中止]**（**左セレクト**キー）を押してください。

5 「ピー」という音が聞こえたら、相手先のファクスとつながっています。**スタート**キーを押してください。送信が開始します。

参考：「送信前の宛先確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、**スタート**キーを押したときに、宛先確認画面が表示されます。詳しくは、5-12 ページの**宛先確認画面について**を参照してください。

電話を使って送信する

原稿を送信する前に相手と電話で話したいときや、相手先機がファクスへの切り替えを必要とするときは、この方法で送信してください。

1 原稿をセットしてください。

2 電話の受話器を上げて、相手先にダイヤルしてください。

3 相手先のファクスとつながったかどうか確認してください。

「ピー」という音が聞こえたとき

相手先はファクスです。

1 **ファクス**キーを押してください。

2 **オンフック**キーを押してください。

3 **スタート**キーを押してください。原稿の送信が開始します。

相手先の話し声が聞こえたとき

相手先の電話につながっています。会話が終わったら、上記の手順 1 〜 3 を行ってください。

4 送信が開始したら（操作パネルの**送信 / 受信**ランプが点滅したら）、受話器を元に戻してください。

送られてきたファクスを手動で受信する【手動受信】

相手先との回線がつながったことを確認した後、本機を操作して受信する方法です。本機に電話機（市販品）を接続すれば、相手と話した後に原稿を受信することができます。

参考：本機の受信方式は、通常、ファクス専用自動受信が選択されています。手動受信を使用するには、受信方式を手動受信に変更する必要があります。受信方式の変更については、6-9 ページの**利用状況に合わせて受信のしかたを切り替える【受信方式】**を参照してください。

相手先との接続を確認してから受信する

相手先との回線がつながったことを音声で確認してから受信できます。

1 着信すると、本体から呼び出し音が鳴ります。

2 **ファクス**キーを押してください。

3 **オンフック**キーを押してください。

4 **[手動受信]**（**左セレクト**キー）を押してください。

5 相手側が送信すると、本機は受信を開始します。

電話を使って受信する

相手と話した後に原稿を受信したいときは、この方法で受信してください。

1 着信すると、接続された電話で呼び出し音が鳴ります。

2 電話の受話器を上げてください。

3 相手先のファクスとつながったかどうか確認してください。

「ポーッポーッ」という音が聞こえたとき

相手先はファクスです。

1 **ファクス**キーを押してください。

2 **オンフック**キーを押してください。

3 **[手動受信]**（**左セレクト**キー）を押してください。受信が開始します。

参考：トーン信号を送出できる電話機を使用している場合は、リモート切替機能で電話機から受信を開始させることができます。（4-14 ページの**電話機を操作して受信させる【リモート切替機能】**参照）

相手先の話し声が聞こえたとき

相手先の電話につながっています。会話が終わったら、上記の手順 1 ～ 3 を行ってください。

相手側が送信すると、本機は受信を開始します。

4 受信が開始したら（操作パネルの**送信 / 受信**ランプが点滅したら）、受話器を元に戻してください。

電話機を操作して受信させる【リモート切替機能】

接続された電話機からの操作で、ファクスの受信を開始させることができます。本機と電話機（市販品）を離れた場所に設置して併用するときに便利な機能です。

接続された電話機からの操作でファクスの受信を開始させるときは、次の操作を行ってください。

参考：リモート切替を行うためには、トーン信号を送出できる電話機（市販品）を本機に接続することが必要です。ただし、トーン信号を発信することができる電話機でも、種類によってはこの機能をうまく使用できない場合があります。詳しくは弊社代理店またはお買い上げ店までご連絡ください。

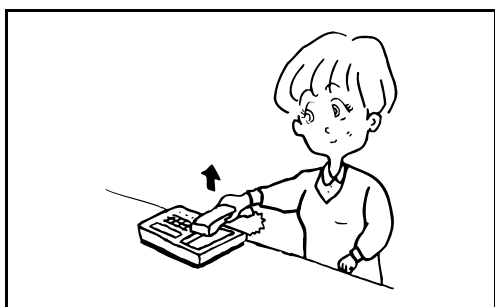
リモート切替ダイヤルの登録のしかた

リモート切替ダイヤルは、工場出荷時では 55 になっていますが、変更することもできます。

1. **システムメニュー / カウンタ**キーを押してください。
2. △ または ▽ キーを押して、[**ファクス**] を選択してください。
3. OK キーを押してください。
4. △ または ▽ キーを押して、[**受信設定**] を選択してください。
5. OK キーを押してください。
6. △ または ▽ キーを押して、[**リモート切替ダイヤル**] を選択してください。
7. OK キーを押してください。
8. テンキーを使って新たに登録する番号（00 ～ 99）を入力してください。
9. OK キーを押してください。

リモート切替ダイヤルの使いかた

接続された電話機からの操作でファクスの受信を開始させるときは、次の操作を行ってください。

1 接続された電話機で呼び出し音が鳴ります。

2 電話機の受話器を上げてください。

3 受話器からファクスの発信音が聞こえたら、2 桁のリモート切替ダイヤルを電話機側のダイヤルボタンで入力してください。

参考：工場出荷時では、リモート切替ダイヤル（2 桁）は 55 です。

4 回線は本体側に切り替わり、受信が開始されます。

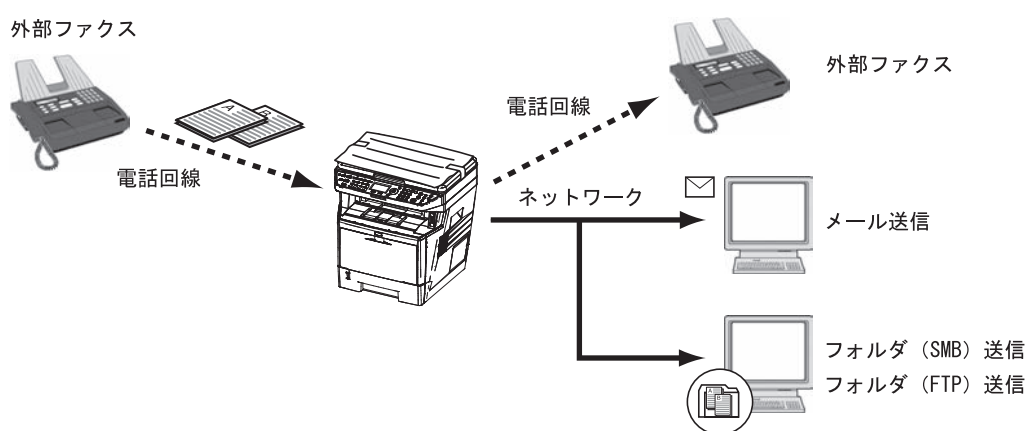
受信した文書を印刷 / 転送する【メモリ転送】

ファクスを受信したとき、受信画像を他のファクス、コンピュータや F コードボックスに転送したり、印刷したりできます。

転送先の種類

転送先に指定できるのは 1 件です。転送を [設定する] に設定すると、受信したすべての原稿を指定先に転送します。

転送先の種類

他のファクス、メール送信、フォルダ（SMB）送信、フォルダ（FTP）送信に転送することができます。

転送を設定する

転送を設定するときは、次の手順を行ってください。

1. **システムメニュー / カウンタ**キーを押してください。
2. △ または ▽ キーを押して、[**ファクス**] を選択してください。
3. OK キーを押してください。
4. △ または ▽ キーを押して、[**受信設定**] を選択してください。
5. OK キーを押してください。
6. △ または ▽ キーを押して、[**転送設定**] を選択してください。
7. OK キーを押してください。
8. △ または ▽ キーを押して、[**転送**] を選択してください。
9. OK キーを押してください。
10. △ または ▽ キーを押して、[**設定する**] または [**設定しない**] を選択してください。

11 OK キーを押してください。

転送先を登録する

転送を設定するときは、次の手順を行ってください。

1 **システムメニュー / カウンタ**キーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[**ファクス**] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、[**受信設定**] を選択してください。

5 OK キーを押してください。

6 △ または ▽ キーを押して、[**転送設定**] を選択してください。

7 OK キーを押してください。

8 △ または ▽ キーを押して、[**転送先**] を選択してください。

9 OK キーを押してください。

10 △ または ▽ キーを押して、[**登録**] を選択してください。

11 OK キーを押してください。

12 転送先をアドレス帳から選択するとき

1. △ または ▽ キーを押して、[**アドレス帳**] を選択してください。
2. OK キーを押してください。
3. △ または ▽ キーを押して、[**アドレス帳**] または [**拡張アドレス帳**] を選択してください。
4. OK キーを押してください。
5. △ または ▽ キーを押して、転送先に登録する宛先（個人）を選択してください。

転送先を直接入力するとき

1. △ または ▽ キーを押して、[**アドレス入力**] を選択してください。
2. OK キーを押してください。
3. △ または ▽ キーを押して、[**ファクス**]、[**メール**]、[**フォルダ（SMB）**] または [**フォルダ（FTP）**] を選択してください。
4. OK キーを押してください。
5. テンキーを使って転送先に登録するアドレスを入力してください。128 桁まで入力できます。

4

参考：文字の入力方法は、**付録 -2** ページの**文字の入力方法**を参照してください。

[フォルダ（SMB）] または [フォルダ（FTP）] を選択したときは、転送する相手先のホスト名、パス、ログインユーザ名、ログインパスワード、暗号方式をそれぞれ入力してください。

13 OK キーを押してください。

登録内容の変更と削除

登録内容の変更と削除をするときは、次の手順を行ってください。

1 **システムメニュー / カウンタ**キーキーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[ファクス] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、[受信設定] を選択してください。

5 OK キーを押してください。

6 △ または ▽ キーを押して、[転送設定] を選択してください。

7 OK キーを押してください。

8 △ または ▽ キーを押して、[転送先] を選択してください。

9 OK キーを押してください。

10 △ または ▽ キーを押して、[確認] を選択してください。

11 OK キーを押してください。

12 OK キーを押してください。

13 転送先を変更するとき

1. △ または ▽ キーを押して、[編集] を選択してください。
2. OK キーを押してください。
3. 転送先を変更してください。
4. OK キーを押してください。転送先が変更されます。

転送先を削除するとき

1. △ または ▽ キーを押して、[削除] を選択してください。
2. OK キーを押してください。

3 ［はい］（左セレクトキー）を押してください。転送先が削除されます。

14 ［終了］（右セレクトキー）を押してください。

転送時刻設定

転送が有効になる開始時刻と終了時刻を登録します。

1 **システムメニュー / カウンタ**キーキーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[ファクス] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、[受信設定] を選択してください。

5 OK キーを押してください。

6 △ または ▽ キーを押して、[転送設定] を選択してください。

7 OK キーを押してください。

8 △ または ▽ キーを押して、[転送時刻] を選択してください。

9 OK キーを押してください。

10 △または▽キーを押して、[終日]または[時間指定]を選択してください。

11 OKキーを押してください。手順10で[時間指定]を選んだときは次の手順に進んでください。

12 ◁ または ▷ キーを押してカーソル位置を移動し、開始時刻の時、分をそれぞれ入力してください。

13 OK キーを押してください。

14 ◁ または ▷ キーを押してカーソル位置を移動し、終了時刻の時、分をそれぞれ入力してください。

15 OK キーを押してください。

参考：時刻は 24 時間制で入力してください。

ファイル形式設定

メール送信、フォルダ（SMB）送信、またはフォルダ（FTP）送信する場合に、ファイル形式を PDF、TIFF または XPS から選択します。

1 **システムメニュー / カウンタ**キーキーを押してください。
2 △ または ▽ キーを押して、[ファクス] を選択してください。
3 OK キーを押してください。
4 △ または ▽ キーを押して、[受信設定] を選択してください。
5 OK キーを押してください。
6 △ または ▽ キーを押して、[転送設定] を選択してください。
7 OK キーを押してください。
8 △ または ▽ キーを押して、[ファイル形式] を選択してください。
9 OK キーを押してください。
10 △ または ▽ キーを押して、[PDF]、[TIFF] または [XPS] を選択してください。
11 OK キーを押してください。

メール件名付加情報設定

メールの件名に情報を付加するかどうか設定します。情報を付加する場合は、送信元名または送信元から選択します。

1 **システムメニュー / カウンタ**キーを押してください。
2 △ または ▽ キーを押して、[ファクス] を選択してください。
3 OK キーを押してください。
4 △ または ▽ キーを押して、[受信設定] を選択してください。
5 OK キーを押してください。
6 △ または ▽ キーを押して、[転送設定] を選択してください。
7 OK キーを押してください。
8 △ または ▽ キーを押して、[件名付加情報] を選択してください。
9 OK キーを押してください。

10 △ または ▽ キーを押して、[設定しない]、[送信元名] または [送信元ファクス / アドレス] を選択してください。

11 OK キーを押してください。

FTP 暗号送信設定

転送するときに FTP 暗号送信をするかどうか設定します。

1 **システムメニュー / カウンタ**キーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[ファクス] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、[受信設定] を選択してください。

5 OK キーを押してください。

6 △ または ▽ キーを押して、[転送設定] を選択してください。

7 OK キーを押してください。

8 △ または ▽ キーを押して、[FTP 暗号送信] を選択してください。

9 OK キーを押してください。

10 △または▽キーを押して、[設定する] または [設定しない] を選択してください。

11 OK キーを押してください。

印刷の設定

転送するときに本機で印刷するかどうか設定します。

1 **システムメニュー / カウンタ**キーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[ファクス] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、[受信設定] を選択してください。

5 OK キーを押してください。

6 △ または ▽ キーを押して、[転送設定] を選択してください。

7 OK キーを押してください。

8 △ または ▽ キーを押して、[印刷] を選択してください。

9 OK キーを押してください。

10 △または▽キーを押して、[設定する] または [設定しない] を選択してください。

11 OK キーを押してください。

文書名登録

転送時に作成するファイルの文書名を設定します。その他、日時やジョブ番号、またはファクス番号の情報も付加できます。

1 **システムメニュー / カウンタ**キーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[ファクス] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、[受信設定] を選択してください。

5 OK キーを押してください。

6 △ または ▽ キーを押して、[転送設定] を選択してください。

7 OK キーを押してください。

8 △ または ▽ キーを押して、[文書名入力] を選択してください。

9 OK キーを押してください。

10 テンキーを使って文書名を入力してください。32 文字まで入力できます。

参考：文字の入力方法は、**付録** -2 ページの**文字の入力方法**を参照してください。

付加情報を入れていない場合、ファイル名が同じになり、フォルダ（SMB）送信やフォルダ（FTP）送信で転送するとファイルを上書きしますので注意してください。

11 OK キーを押してください。

12 **文書名に付加情報を入れないとき**

1 △ または ▽ キーを押して、[なし] を選択してください。

2 OK キーを押してください。

3 △ または ▽ キーを押して、送信元情報付加の [設定する] または [設定しない] を選択してください。

文書名に付加情報を入れるとき

1 △ または ▽ キーを押して、[日付]、[ジョブ番号]、[ジョブ番号＋日付] または [日付＋ジョブ番号] を選択してください。

2 OK キーを押してください。

3 △ または ▽ キーを押して、送信元情報付加の [なし]、[付加情報＋送信元] または [送信元＋付加情報] を選択してください。

13 OK キーを押してください。

COMMAND CENTER からの転送設定（条件付き受信 / 転送）

本機にネットワーク接続されたコンピュータから COMMAND CENTER を使って転送の設定を行えます。

ネットワークの設定については、本体の**使用説明書**を参照してください。

COMMAND CENTER へのアクセス

1 Web ブラウザを起動します。

2 アドレスバーまたはロケーションバーに本機の IP アドレスを入力します。

例）http://192.168.48.21/

本機および COMMAND CENTER に関する一般情報と現在の状態が、Web ページに表示されます。

3 画面左のナビゲーションバーから項目を選択します。項目によっては、別途、設定が必要になります。

4 COMMAND CENTER に制限がかけられている場合、スタートページ以外のページにアクセスするためには、ユーザ名とパスワードを入力する必要があります。

詳細は**京セラ COMMAND CENTER 操作手順書**を参照してください。

F コードを使って通信する【F コード通信】

F コード通信とは

F コード通信とは、ITU-T（国際電気通信連合）の勧告に準拠したサブアドレスやパスワードを付加して送 / 受信する通信をいいます。F コードを使用することにより、本来弊社機間でしかできなかった親展通信（受信側機に設けられた原稿受け渡しボックスに送る通信）やポーリング通信（受信側から操作して送信側の原稿を受信する通信）などの通信が他社機との間でも可能になります。本機では、F コード通信とメモリ転送機能を使って、受信した原稿を F コードボックスに保存したり、他の複数のファクスに転送したりするなど、高度な通信ができます。

参考：F コード通信を行うためには、相手機にも同様の F コード通信機能が備わっている必要があります。

F コードを使った通信は、各種機能通信とも併用することができます。また、F コードサブアドレスや F コードパスワードをアドレス帳やワンタッチキーに登録しておけば、送信時に入力を省略することができます。詳しくは、各通信方法や登録方法の手順内の記述を参照してください。

F コードについて

本機では、F コードサブアドレスと F コードパスワードが F コードにあたります。

F コードサブアドレス

F コードサブアドレスは 0 ～ 9 までの数字とスペース、「#」、「＊」を使って 20 桁まで入力することができます。本機で受信する場合、F コードサブアドレスはメモリ転送の転送条件として使用されます。

F コードパスワード

F コードパスワードは 0 ～ 9 までの数字とスペース、「#」、「＊」の文字を使って 20 桁まで入力することができます。本機で受信する場合は F コードパスワードを使用しません。

F コード送信のしかた

F コード送信は次の手順で行ってください。

参考：F コード送信を行う場合は、あらかじめ受信側に設定されている F コードサブアドレスと F コードパスワードを確認してください。

本機で受信する場合の設定方法は、4-16 ページの**受信した文書を印刷 / 転送する【メモリ転送】**を参照してください。

1 **ファクス**キーを押してください。

2 原稿をセットしてください。

参考：アドレス帳の宛先に F コードを登録している場合には、その宛先が使用できます。また、アドレス帳で F コードを登録している宛先をワンタッチキーに使用している場合はそれらも使用できます。その場合手順 9 に進んでください。

```
ﾌｧｸｽ番号入力:            OK
0123456789
[ ﾁｪｰﾝ ]    [ 詳細 ]
```

3 テンキーを使って相手先のファクス番号を入力してください。

4 [**詳細**]（**右セレクト**キー）を押してください。

```
ﾌｧｸｽ詳細:               OK
Fｺｰﾄﾞ:                1/ 4
1234567890123
●●●●●●●●●●
            [ 編集 ]
```

5 ◁または▷キーを押して[**F コード**]を選択し、[**編集**]（**右セレクト**キー）を押してください。

```
Fｺｰﾄﾞ:                  OK
1234567890123
```

6 テンキーでサブアドレスを入力してください。

参考：サブアドレスは、0 〜 9 の数字とスペース、「#」、「＊」の文字を使って、20 桁まで入力できます。

---

7 **OK** キーを押して、テンキーで F コードパスワードを入力してください。

参考：F コードパスワードは 0 〜 9 の数字とスペース、「#」、「＊」の文字を使って、20 桁まで入力できます。本機で受信する場合は F コードパスワードを使用しません。

---

8 **OK** キーを押してください。

9 **OK** キーを押してください。

参考：「新規宛先の入力確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、入力したファクス番号を確認するための画面が表示されます。もう一度同じファクス番号を入力して **OK** キーを押してください。詳しくは、本体の**使用説明書**の新規宛先の入力確認画面の設定を参照してください。

---

10 **スタート**キーを押してください。送信が開始します。

参考：「送信前の宛先確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、**スタート**キーを押したときに、宛先確認画面が表示されます。詳しくは、5-12 ページの**宛先確認画面について**を参照してください。

受信した原稿を管理する【F コードボックス機能】

F コードボックスとは

受信原稿を保存するボックスを F コードボックスと呼びます。メモリ転送機能を使って、受信した原稿を F コードボックスに保存することができます。

F コードボックスの登録のしかた

F コードボックスは 20 個まで登録することができます。

1. **システムメニュー / カウンタ**キーを押してください。
2. △ または ▽ キーを押して、[**文書ボックス**] を選択し、OK キーを押してください。
3. △ または ▽ キーを押して、[**F コードボックス**] を選択し、OK キーを押してください。
4. △ または ▽ キーを押して、[**詳細 / 編集**] を選択し、OK キーを押してください。
5. [**メニュー**]（**右セレクト**キー）を押してください。
6. △ または ▽ キーを押して、[**ボックス追加**] を選択し、OK キーを押してください。
7. テンキーでサブアドレスを入力してください。

参考：サブアドレスは、0 ～ 9 の数字とスペース、「#」、「＊」の文字を使って、20 桁まで入力できます。

8. OK キーを押して、テンキーで F コードボックス名を入力してください。

   参考：文字の入力方法は**付録** -2 ページの**文字の入力方法**を参照してください。

9. OK キーを押して、テンキーで F コードボックス番号を入力してください。
10. OK キーを押してください。
11. △ または ▽ キーを押して、[終了] を選択し、OK キーを押してください。

F コードボックスの変更のしかた

1. 4-26 ページの**F コードボックスの登録のしかた**の手順 1 ～ 4 を行ってください。
2. △ または ▽ キーを押して、変更するボックスを選択し、OK キーを押してください。

3 ◁ または ▷ キーを押して編集したい項目に移動し、[編集]（右セレクトキー）を押してください。

4 テンキーを使って入力し、OK キーを押してください。

他の編集したい項目についても、手順 4 と 5 を繰り返してください。

F コードボックスの削除のしかた

1 4-26 ページの**F コードボックスの登録のしかた**の手順 1 ～ 4 を行ってください。

2 △ または ▽ キーを押して、削除するボックスを選択してください。

3 [メニュー]（右セレクトキー）を押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、[削除] を選択してください。

5 削除の確認画面で [はい]（左セレクトキー）を押してください。

F コードボックスからの印刷のしかた

F コードボックスへ送られた原稿は、次の操作を行って印刷してください。

1 **文章ボックス**キーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[F コードボックス] を選択してください。

3 △ または ▽ キーを押して F コードボックスを選択してください。

4 [メニュー]（右セレクトキー）を押してください。

5 △ または ▽ キーを押して [開く] を選択してください。

参考：次の場合は F コードボックスのパスワード入力が必要です。

- ユーザ管理が無効の場合
- ユーザ管理が有効でユーザ権限でログインしているときに、別の所有者の F コードボックスを選択した場合

6 △ または ▽ キーを押して、リストから原稿を選択し、[選択]（右セレクトキー）を押してください。選択した原稿にはチェックマークがつきます。

参考：選択を解除するときは、チェックボックスを押してチェックマークを消してください。

[メニュー]（左セレクトキー）を押して表示されるメニューから、[すべて選択] を選択して OK キーを押すと、すべて選択されます。

F コードボックスからは印刷のみできます。送信はできません。

7 OK キーを押してください。

8 △または▽キーを押して[印刷]を選択してください。印刷を開始します。

F コードボックスからの削除のしかた

F コードボックスへ送られた原稿を削除するときは、次の操作を行ってください。

1 4-27 ページの**F コードボックスからの印刷のしかた**の手順 1 〜 7 を行ってください。

2 △または▽キーを押して[削除]を選択し、OKキーを押してください。

3 削除の確認画面で [はい]（左セレクトキー）を押してください。原稿を削除します。

詳細情報の確認 / ファイル名の変更のしかた

F コードボックスへ送られた原稿の詳細情報を確認できます。また、ファイル名を変更できます。

1 4-27 ページの**F コードボックスからの印刷のしかた**の手順 1 〜 5 を行ってください。

2 △ または ▽ キーを押して、リストから原稿を選択し、[メニュー]（左セレクトキー）を押してください。

3 △ または ▽ キーを押して、[詳細 / 編集] を選択し、OK キーを押してください。

4 ◁ または ▷ キーを押して編集したい項目に移動し、[編集]（右セレクトキー）を押してください。

選択した原稿の詳細情報が表示されます。

項目	説明
文書名	原稿のファイル名 [変更] を押すと、ファイル名を変更できます。
ページ数	原稿の枚数
解像度	原稿の解像度
日時	原稿が送られた日時

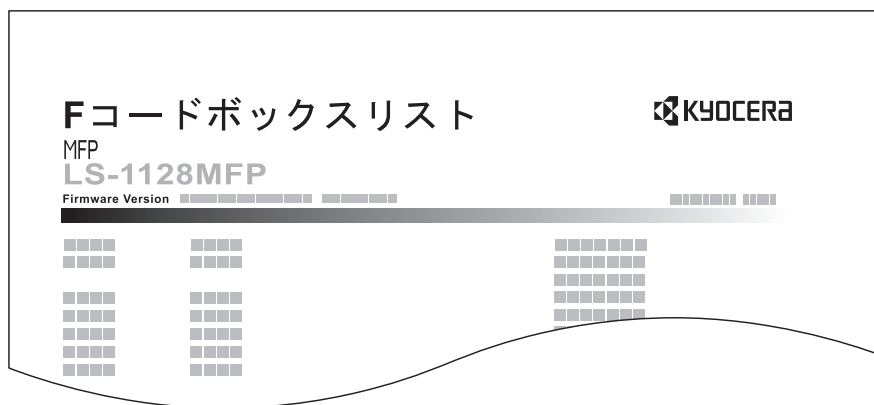
5 テンキーを使って入力し、OK キーを押してください。

他の編集したい項目についても、手順 4 と 5 を繰り返してください。

F コードボックスリストの印刷のしかた

登録されている F コードボックスのボックス番号、ボックス名の一覧が記載された F コードボックスリストを印刷することができます。また、F コードボックスに原稿がある場合はそのページ数が表示されます。

参考：ユーザ管理が有効の場合は、管理者がログインしたときに印刷できます。

1. **システムメニュー / カウンタ**キーを押してください。
2. △ または ▽ キーを押して、[**文書ボックス**] を選択し、OK キーを押してください。
3. △ または ▽ キーを押して、[**F コードボックスリスト**] を選択し、OK キーを押してください。
4. 印刷の確認画面で [**はい**]（**左セレクト**キー）を押してください。F コードボックスリストを印刷します。

送信する相手や設定内容などを登録する【プログラムダイヤル】

送信する相手先や送信時刻など送信条件をプログラムとして登録できます。登録後は、プログラム番号を押すだけで呼び出すことができます。また、各プログラムに名前をつけておくと、プログラムを呼び出すときにわかりやすく便利です。

参考：プログラムにはコピー機能も登録できます。コピー機能、送信機能を合わせて最大 4 件のプログラムを登録できます。

ユーザ管理が有効であるときは、登録できるのは管理者のみです。

プログラムの登録のしかた

1 登録する送信条件を設定した状態で、**プログラム**キーを長押し（2 秒）してください。プログラムが登録されます。すでに登録されているプログラム番号を押したときは、次の手順に進んでください。

2 △ または ▽ キーを押して、[**上書き**] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 [**はい**]（**左セレクト**キー）を押してください。プログラムが上書きで登録されます。

登録内容の削除のしかた

1 すでに登録されているプログラム番号の**プログラム**キーを長押し（2 秒）してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[**削除**] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 [**はい**]（**左セレクト**キー）を押してください。プログラムが削除されます。

プログラムの使いかた

1 **プログラム**キーを押してください。

2 原稿をセットしてください。

参考：呼び出したプログラムから送信する相手先の変更など送信条件を変更することもできます。

---

3 **スタート**キーを押してください。送信が開始します。

参考：「送信前の宛先確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、**スタート**キーを押したときに、宛先確認画面が表示されます。詳しくは、5-12ページの**宛先確認画面について**を参照してください。

受信側の操作で通信を開始する【ポーリング通信】

ポーリング通信とは、受信側から操作して送信側の原稿を受信する通信方法です。受信側は自分の都合に合わせて原稿を受け取ることができます。本機では、ポーリング送信とポーリング受信ができます。

重要：この通信は、受信側から送信側にダイヤルする操作を行うため、電話料金は通常受信側の負担になります。

4

ポーリング送信

ポーリング送信用として原稿をポーリングボックスに保存します。相手先からのポーリング受信要求があると自動的に送信します。

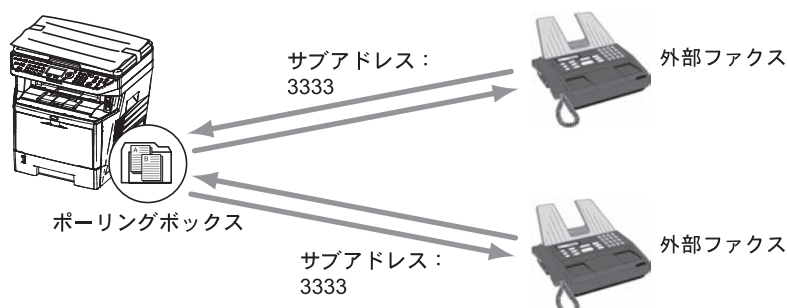
相手先に送信されたポーリング送信用の原稿は自動的に削除されますが、**ポーリング送信後原稿の削除**を [**設定しない**] にしておけば、原稿は削除するまでポーリングボックスに保存されます。同じ原稿を何度でもポーリング送信することができます。（4-34 ページ参照）

参考：ポーリング送信用の原稿は 10 件まで保存できます。

相手先からポーリング受信要求があるまでは、送信する原稿を後から追加、上書きすることができます。詳細は、4-34 ページの**上書き保存許可設定**を参照してください。

さらに、F コードを使用すると、次のような通信が可能になります。

F コード掲示板通信

ポーリングボックスを掲示板のように使用し、多数の相手先が自由に原稿を受信できる通信方法です。**ポーリング送信後原稿の削除**を [**設定しない**] にして、同じ原稿を何度でもポーリング送信できるようにしておきます。さらに、F コード† を使用することによって、相手先が他社機であっても、同様の F コード掲示板通信機能を備えていれば通信することができます。

重要：相手先が、同様の F コード掲示板通信機能を備えていることが必要です。ファクスによっては、原稿を保存できなかったり、ポーリング受信ができなかったりする場合があります。それぞれの状況に合わせた機能が備わっていることを、送信側と受信側であらかじめ確認してください。（例えば、本機がポーリングボックスに原稿を保存しても、受信側のファクスにポーリング受信機能が備わっていない場合は通信が成立しません。）

送信側は、F コードサブアドレスと F コードパスワードを受信側に伝えておく必要があります。

† 本機では F コードサブアドレスと F コードパスワードです。

参考：F コードについての詳細は、4-24 ページの **F コードを使って通信する【F コード通信】**を参照してください。

F コード掲示板通信での受信方法は、4-37 ページの **F コードを使用するポーリング受信のしかた**を参照してください。

ポーリング送信後原稿の削除

相手先に送信されたポーリング送信用の原稿は自動的に削除します。同じ原稿を複数の相手先にポーリング送信する場合は、[**設定しない**] にしてください。

1. **システムメニュー / カウンタ**キーを押してください。
2. △ または ▽ キーを押して、[**文書ボックス**] を選択してください。
3. OK キーを押してください。
4. △ または ▽ キーを押して、[**ポーリングボックス**] を選択してください。
5. OK キーを押してください。
6. △ または ▽ キーを押して、[**送信済み文書削除**] を選択してください。
7. OK キーを押してください。
8. △ または ▽ キーを押して、[**設定する**] または [**設定しない**] を選択してください。
9. OK キーを押してください。

上書き保存許可設定

上書き保存するときは [**許可する**] にしてください。

ポーリングボックスに保存された文書で、同じ文書名を付けた場合、上書き保存できます。

1. **システムメニュー / カウンタ**キーを押してください。
2. △ または ▽ キーを押して、[**文書ボックス**] を選択してください。
3. OK キーを押してください。
4. △ または ▽ キーを押して、[**ポーリングボックス**] を選択してください。
5. OK キーを押してください。
6. △ または ▽ キーを押して、[**上書き保存許可**] を選択してください。
7. OK キーを押してください。
8. △ または ▽ キーを押して、[**許可する**] または [**許可しない**] を選択してください。

9 OK キーを押してください。

ポーリング送信のしかた

1 **文書ボックス**キーを押してください。

2 原稿をセットしてください。

3 △ または ▽ キーを押して、[**ポーリングボックス**] を選択してください。

4 OK キーを押してください。

5 △ または ▽ キーを押して、[**文書保存**] を選択してください。

6 OK キーを押してください。

7 **機能メニュー**キーを押してください。

8 保存する原稿に必要な機能を変更してください。各機能の使いかたは本体の**使用説明書**を参照してください。

機能	説明
原稿サイズ	原稿の読み込みサイズを選択します。不定形サイズの原稿を使用する場合は、必ず原稿サイズを選択してください。
原稿の画質	原稿の種類に合わせて、画質を選択することができます。
読み込み解像度	原稿をどの程度細かく読み込むかを選択します。
原稿セット向き	原稿を正しい向きに保存するため、原稿の上部の向きを指示します。次の機能を使用する場合は、原稿のセット向きを選択する必要があります。 • 両面 / 見開き原稿 • 枠消し
連続読み込み	原稿送り装置に一度にセットできない枚数の原稿を、数回に分けて読み込んだ後、一つのデータとして保存できます。この方法では、[**読み込み終了**] を押すまで、原稿を読み込み続けます。
文書名入力	読み込む原稿のファイル名を変更できます。ジョブ番号や日付も付加できます。
ジョブ終了通知	ジョブが終了すると、メールで知らせることができます。
濃度	原稿の読み込み濃度を調整します。
両面	原稿に合わせて、原稿の種類ととじ方向を選択します。

9 **ファクス**キーを押してください。

10 テンキーを使って相手先のファクス番号を入力してください。

11 F コードを使用する場合は、[**詳細**]（**右セレクト**キー）を押してください。

12 ◁または▷キーを押して、[**F コード**] を選択してください。

13 [**編集**]（**右セレクト**キー）を押してください。

14 テンキーを使ってFコードを入力してください。

参考：Fコードサブアドレスは、0～9の数字とスペース、「#」、「＊」の文字を使って、20桁まで入力できます。

15 OKキーを押してください。

16 テンキーを使ってFコードパスワードを入力してください。

参考：Fコードパスワードを入力した場合は、パスワードが一致しないと送信しません。

Fコードパスワードは0～9の数字とスペース、「#」、「＊」の文字を使って、20桁まで入力できます。

17 OKキーを押してください。

18 OKキーを押してください。

19 **スタート**キーを押してください。原稿を読み込み、ポーリングボックスに保存します。

ポーリング受信

受信側からダイヤルして、送信側に保存されている原稿を自動的に送信させる機能です。複数の相手先を指定した場合は、順次ダイヤルと受信を繰り返します。

参考：宛先にグループを使用すれば、1回の操作で最大100ケ所の相手先から原稿を受信することができます。暗号通信が登録されている宛先を指定した場合、暗号通信を無効にしてポーリング受信をします。

ポーリング受信を行うためには、相手先があらかじめポーリング送信を準備している必要があります。（4-33ページの**ポーリング送信**参照）

ポーリング受信のしかた

参考：相手先がFコードを使用しているときは、次の**Fコードを使用するポーリング受信のしかた**を参照してください。

1 **ファクス**キーを押してください。

2 **機能メニュー**キーを押してください。

3 △または▽キーを押して、[**ファクスポーリング受信**] を選択してください。

4 OKキーを押してください。

5 △または▽キーを押して、[**設定する**] を選択してください。

6 OK キーを押してください。

7 宛先を選択してください。

参考：選択できる宛先は、ファクス番号のみです。

宛先は、テンキー入力、アドレス帳およびワンタッチキーを組み合わせて選択することができます。

「新規宛先の入力確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、入力したファクス番号を確認するための画面が表示されます。もう一度同じファクス番号を入力して OK キーを押してください。詳しくは、本体の**使用説明書**の新規宛先の入力確認画面の設定を参照してください。

8 **スタート**キーを押してください。受信のための動作を開始します。

参考：「送信前の宛先確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、**スタート**キーを押したときに、宛先確認画面が表示されます。詳しくは、5-12 ページの**宛先確認画面について**を参照してください。

F コードを使用するポーリング受信のしかた

ポーリング受信時に、相手先で設定されている F コード（本機では F コードサブアドレスと F コードパスワード）を入力します。相手先が他社機であっても、同様の F コード通信機能を備えていれば通信が可能です。

重要：相手先に設定されている F コードをあらかじめ確認してください。

1 **ファクス**キーを押してください。

2 宛先を選択してください。その際に、4-24 ページの **F コード送信のしかた**を参照して、F コードを入力してください。

参考：選択できる宛先は、ファクス番号のみです。

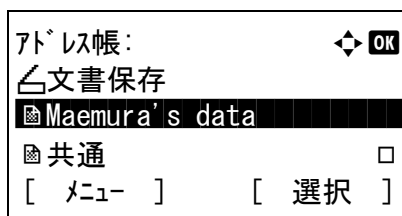
宛先は、テンキー入力、F コードが登録されているアドレス帳およびワンタッチキーを組み合わせて選択することができます。

「新規宛先の入力確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、入力したファクス番号を確認するための画面が表示されます。もう一度同じファクス番号を入力して OK キーを押してください。詳しくは、本体の**使用説明書**の新規宛先の入力確認画面の設定を参照してください。

3 **スタート**キーを押してください。受信のための動作を開始します。

参考：「送信前の宛先確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、**スタート**キーを押したときに、宛先確認画面が表示されます。詳しくは、5-12 ページの**宛先確認画面について**を参照してください。

ポーリングボックスからの印刷のしかた

ポーリングボックスに保存されている原稿を印刷できます。

1 **文書ボックス**キーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[**ポーリングボックス**] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、原稿を選択してください。

5 [選択]（**右セレクト**キー）を押してください。選択した原稿にはチェックマークがつきます。選択を解除するときは、再度 [選択]（**右セレクト**キー）を押してください。

6 **複数の原稿を選択する場合**

手順 4 ～ 5 を繰り返してください。

すべての原稿を選択／解除する場合

1 [**メニュー**]（**左セレクト**キー）を押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[**すべて選択**] または [**すべて解除**] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

7 OK キーを押してください。

8 △ または ▽ キーを押して、[**印刷**] を選択してください。

9 OK キーを押してください。

10 **スタート**キーを押してください。印刷を開始します。

ポーリングボックスからの削除のしかた

ポーリングボックスに保存されている原稿を削除します。

参考：**ポーリング送信後原稿の削除**を [**設定する**] にしている場合は、ポーリング送信後の原稿は自動的に削除されます。（4-34 ページ参照）

4

1. 4-38 ページの**ポーリングボックスからの印刷のしかた**の手順 1 ～ 4 を行ってください。
2. △ または ▽ キーを押して、[**削除**] を選択してください。
3. OK キーを押してください。
4. [**はい**]（**左セレクト**キー）を押してください。原稿を削除します。

詳細情報の確認 / ファイル名の変更のしかた

ポーリングボックスに保存されている原稿の詳細情報を確認できます。また、ファイル名を変更できます。

1. 4-38 ページの**ポーリングボックスからの印刷のしかた**の手順 1 ～ 4 を行ってください。
2. [**メニュー**]（**左セレクト**キー）を押してください。
3. △ または ▽ キーを押して、[**詳細 / 編集**] を選択してください。
4. ◁ または ▷ キーを押して選択した原稿の詳細情報を確認してください。

項目	説明
文書名	原稿のファイル名 [**編集**]（**右セレクト**キー）を押すと、ファイル名を変更できます。
ページ	原稿の枚数
解像度	読み込み時の解像度
日時	原稿が保存された日時

5. 確認を終了するときは、OK キーを押してください。

ファクスの使用状況などを管理する【管理機能】

管理機能は、本機を使用できるユーザを特定するユーザ管理と部門別の使用量を管理する部門管理に分かれます。ユーザ管理ではユーザ名とパスワードによって 21 人までのユーザを管理できます。部門管理では部門コードを入力してから送信や通信予約を行うことによって、20 部門までのファクスの使用状況を各部門ごとに把握することができます。各管理方法については本体の**使用説明書**を参照してください。

ユーザ管理の内容

項目	内容
ユーザの登録	ユーザの権限、ユーザ名やパスワードなどを登録します。
ユーザ管理の有効 / 無効	ユーザ管理を有効にします。

参考：詳細は本体の**使用説明書**を参照してください。

部門管理の内容

項目	内容
部門の登録	部門名や部門コード（最大 8 桁）を登録します。
部門管理の有効 / 無効	部門管理を有効にします。
ファクス送信制限	ファクスの送信枚数を制限します。使用の禁止や制限をなくすこともできます。
使用枚数の集計	全部門または部門別に、ファクスの送信ページ数やファクスの送信に使用した時間を参照しリセットできます。
部門レポートの印刷	全部門で集計された印刷や送信のページ数を印刷できます。

参考：詳細は本体の**使用説明書**を参照してください。

部門管理の対象となる通信形態

- 通常送信
- タイマー送信
- 順次同報送信
- F コード送信
- 暗号送信
- 本機より相手先へダイヤルした場合の手動送信
- ポーリング受信
- Network FAX 送信
- 文書ボックスからの送信

使用機能の制限

部門管理を有効にすると、次の操作を行うときには部門コードの入力が必要となります。

- 通常送信
- タイマー送信
- 順次同報送信
- F コード送信
- F コードボックスからの印刷
- 暗号送信
- 本機より相手先へダイヤルした場合の手動送信
- ポーリング受信
- Network FAX 送信
- 文書ボックスからの送信

重要：「接続された電話で電話をかける」、「F コードボックスの履歴確認」、「通信管理レポート印刷」は、部門コードや管理者番号の入力なしでも行うことができます。

部門管理が有効であるとき、一括送信機能は部門コードが同一のものについてのみ働きます。部門コードが異なる通信は一括送信されません。

通常、発信元記録には自局名称が印刷されますが、部門管理が有効であるときに部門コードを入力して送信を行った場合は、部門名称が印刷されます。

ユーザ管理が有効であるときにログインする

ユーザ管理を有効にすると、本機を使用する際に、ユーザ名とパスワードを入力する必要があります。

1 本機を操作して次の画面がでたら、以下のログイン操作をしてください。

参考：ユーザ管理手段としてネットワーク認証が設定されている場合は、**[メニュー]**（**左セレクト**キー）を押して認証先を選択してください。

2 △ または ▽ キーを押して、**[ログインユーザ名]** の入力欄を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 テンキーを使ってログインユーザ名を入力してください。

参考：文字の入力方法は、**付録** -2 ページの**文字の入力方法**を参照してください。

5 OK キーを押してください。

6 △ または ▽ キーを押して、[**ログインパスワード**] の入力欄を選択してください。

7 OK キーを押してください。

8 テンキーを使ってログインパスワードを入力してください。

参考：文字の入力方法は、**付録** -2 ページの**文字の入力方法**を参照してください。

9 OK キーを押してください。

10 正しいログインユーザ名とパスワードが入力されていることを確認して、[**ログイン**]（**右セレクトキー**）を押してください。

11 ファクスの操作を行ってください。

参考：操作が終了したら、**ログアウト**キーを押してください。

部門管理が有効であるときにログインする

部門管理を有効にすると、本機を使用する際に部門コードを入力する必要があります。

参考：ユーザ管理と部門管理が両方有効である場合には、ユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されます。

1 テンキーで部門コードを入力して、OK キーを押してください。

参考：部門コードを入力して [**カウンタ**]（（**左セレクトキー**）を押すと、その部門が使用した枚数を確認できます。

2 ファクスの操作を行ってください。

参考：操作が終了したら、**ログアウト**キーを押してください。

その他の便利な機能

ファクスを送信するときに使用できる便利な機能を紹介します。各機能の使いかたは本体の**使用説明書**を参照してください。

原稿サイズを選択する【原稿サイズ選択】

原稿の読み込みサイズを選択します。不定形サイズの原稿を使用する場合は、必ず原稿サイズを選択してください。

原稿の種類を選択する【片面 / 両面選択】

原稿に合わせて、原稿の種類ととじ方向を選択します。

原稿	種類	とじ方向	印刷向き
片面のシート原稿	片面原稿	－	－
両面のシート原稿	両面原稿†	左 / 右とじ、上とじ	上辺を奥向き、上辺を左向き

† LS-1028MFP は、オプションの原稿送り装置を装着時のみ。

参考：ダイレクト送信時は、**[両面原稿]** と **[見開き原稿]** を使用できません。（3-2 ページの**送信方法の選択**参照）

原稿の置きかたを決める【原稿セット向き】

原稿を正しく読める向きに送信するため、原稿の上部の向きを指示します。次の機能を使用する場合は、原稿のセット向きを選択する必要があります。

- 片面 / 両面選択

原稿に合わせて画質を変更する【画質の選択】

原稿の種類に合わせて、画質を選択することができます。

項目	詳細
文字＋写真	文字と写真が混在する原稿の場合。
文字	えんぴつや細線をくっきりと再現する場合。
写真	写真原稿の立体感を出す場合。
OCR 用†	OCR アプリケーションソフト（文字をテキストデータに変換するソフトウェア）での読み込みに適した画質にする場合。

† ファクスの送信時は、[文字] に変更されます。

大量の原稿を一度に送信する【連続読み込み】

原稿の枚数が多く原稿送り装置に一度にセットできないときに、数回に分けて読み込んだ後、一括送信できます。この方法では、[読込終了] （右セレクトキー）を押すまで、原稿を読み込み続けます。

送信が終了したことを通知する【ジョブ終了通知】

送信の完了をメールで知らせる機能です。

5　通信結果や登録した内容の確認

この章では、ファクスの通信結果やファクス機能の登録内容を確認する方法を説明します。

通信結果や登録した内容を確認する

ファクスの通信結果や登録内容は次の方法で確認できます。

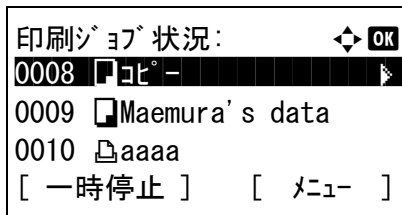
確認方法	表示場所	確認できる内容	確認のタイミング	参照ページ
ファクスジョブの履歴確認	メッセージ表示部	最近の送 / 受信およびファクス保存 16 件の履歴	任意	5-3 ページ
送信結果レポート / 受信結果レポート	レポートを印刷	直前の送信または受信の結果	送 / 受信のたびに自動印刷（印刷なし / エラー時のみも選択可）	5-5 ページ 5-6 ページ
通信管理レポート	レポートを印刷	最近の送 / 受信 50 件の結果	任意、および送 / 受信 50 件ごとに自動印刷（印刷なしも選択可）	5-7 ページ
ステータスページ	レポートを印刷	自局ファクス番号、自局名称、回線などの登録状況	任意	5-9 ページ
受信結果のメール通知	コンピュータ	ファクスの受信	ファクスを受信するとメール通知	5-10 ページ

ファクスジョブの送信 / 受信履歴を確認する

最近の送 / 受信それぞれ 16 件までをメッセージ表示部に表示させ、確認することができます。

参考：部門管理が有効である場合でも、部門コードに関係なく、送信結果、受信結果それぞれ 16 件が表示されます。

ジョブの履歴確認についてさらに詳しくは、本体の**使用説明書**を参照してください。

ジョブ履歴画面の表示

1 **状況確認 / ジョブ中止**キーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、受信結果を確認するときは [**印刷ジョブ履歴**]、送信結果を確認するときは [**送信ジョブ履歴**]、F コードボックス、ポーリングボックスおよび USB メモリへの保存の結果を確認するときは [**保存ジョブ履歴**] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、確認したいジョブを選択してください。

5 OK キーを押してください。

6 ◁または▷キーを押してジョブの詳細を確認してください。

7 OK キーを押してください。

詳細画面の内容

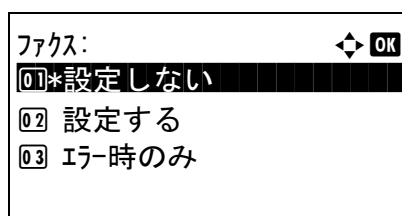
項目	説明
結果	結果表示 OK：ジョブは正常に終了しました。 中止：ジョブはキャンセルされました。 エラー：ジョブはエラーが発生したため正常に終了できませんでした。
受付時刻	ジョブの受付時刻
終了時刻	ジョブの終了時刻
ジョブ名	ジョブ名
ジョブ種類	ジョブの種類
ユーザ名	ユーザ名 情報がない場合は空欄になります。
ページと部数	印刷ページ、部数を表示

項目	説明
原稿ページ数	原稿枚数を表示
カラー / 白黒	原稿読み込み時のカラーモード
送信元情報	送信元の情報
宛先	送信先 送信先件数を表示します。

管理レポートを印刷する

さまざまな管理レポートを印刷して、通信結果やファクス機能の設定状況などを確認することができます。

送信結果レポート

送信するごとにレポートを印刷させて、正常に送信されたかを確認することができます。また、送信結果レポートに送信した画像を印刷できます。

1 システムメニュー / カウンタキーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、**[レポート]** を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、**[結果通知設定]** を選択してください。

5 OK キーを押してください。

6 △ または ▽ キーを押して、**[送信結果]** を選択してください。

7 OK キーを押してください。

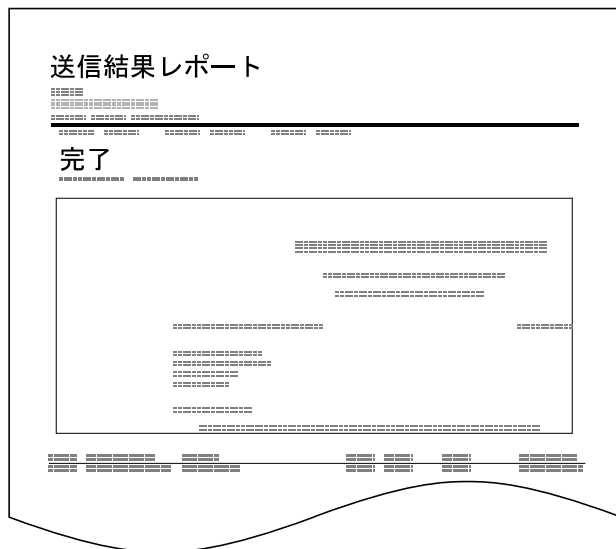
8 △ または ▽ キーを押して、**[ファクス]** を選択してください。

9 OK キーを押してください。

10 △ または ▽ キーを押して、**[設定しない]**（常に印刷しない）、**[設定する]**（常に印刷する）または **[エラー時のみ]** を選択してください。

11 OKキーを押してください。手順10で **[設定する]** または **[エラー時のみ]** を選んだときは次の手順に進んでください。

12 △ または ▽ キーを押して、送信画像の添付について [設定する] または [設定しない] を選択してください。

送信画像あり

送信画像なし

受信結果レポート

受信するごとにレポートを印刷させて、正常に受信できたかを確認することができます。

参考：受信結果レポートの代わりに、受信をメールで通知するように変更できます。（5-10 ページのファクスの受信結果をメールで知らせる参照）

1 システムメニュー / カウンタキーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[レポート] を選択してください。

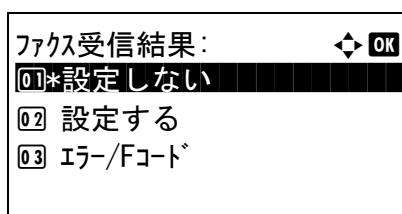
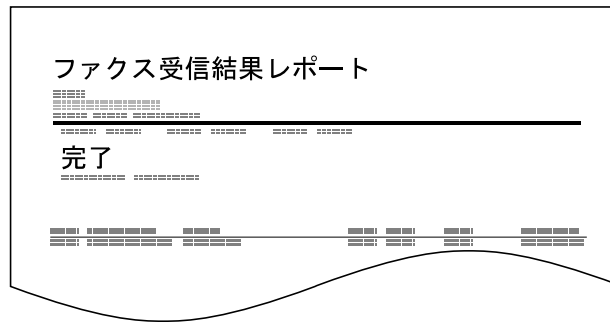
3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、[結果通知設定] を選択してください。

5 OK キーを押してください。

6 △ または ▽ キーを押して、[ファクス受信結果] を選択してください。

7 OK キーを押してください。

8 △ または ▽ キーを押して、[設定しない]（常に印刷しない）、[設定する]（常に印刷する）または [エラー /F コード] を選択してください。

9 OK キーを押してください。

5

通信管理レポート

通信管理レポートには、ファクス発信管理レポートとファクス着信管理レポートがあり、それぞれ最近の発信または着信 50 件の情報を確認できます。自動印刷にすると、発信 50 件または着信 50 件ごとに、自動的にレポートが印刷されます。

通信管理レポートの印刷

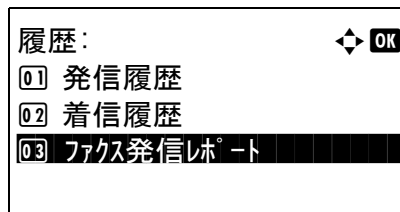
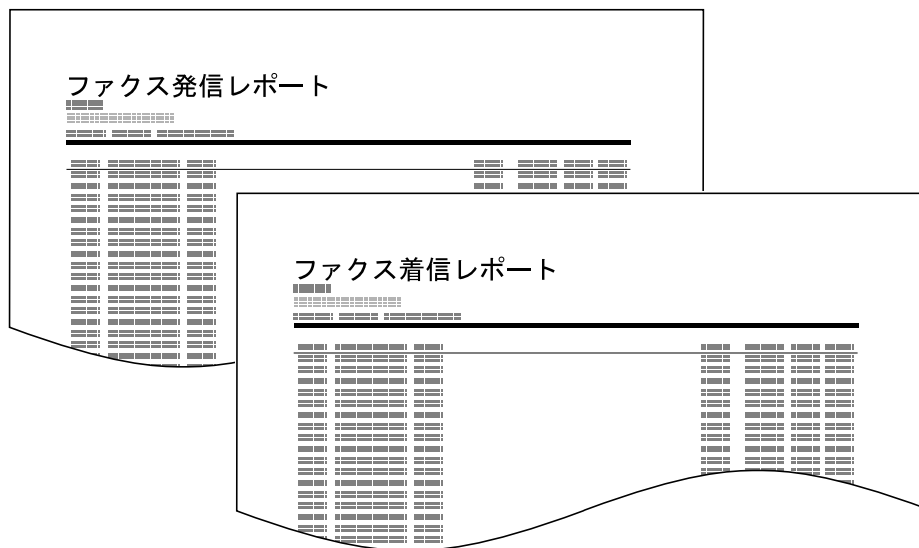
最近の発信または着信 50 件の情報をレポートにして印刷します。

1 **状況確認 / ジョブ中止**キーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[**ファクス**] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 [**履歴**]（右セレクトキー）を押してください。

5 △ または ▽ キーを押して、ファクス発信管理レポートを印刷するときは [**ファクス発信レポート**]、ファクス着信管理レポートを印刷するときは [**ファクス着信レポート**] を選択してください。

6 [はい]（左セレクトキー）を押してください。レポートが印刷されます。

自動印刷

発信 50 件または着信 50 件ごとに、自動的に通信管理レポートが印刷されます。

1 システムメニュー / カウンタキーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[レポート] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、[管理レポート設定] を選択してください。

5 OK キーを押してください。

6 △ または ▽ キーを押して、[ファクス発信レポート] または [ファクス着信レポート] を選択してください。

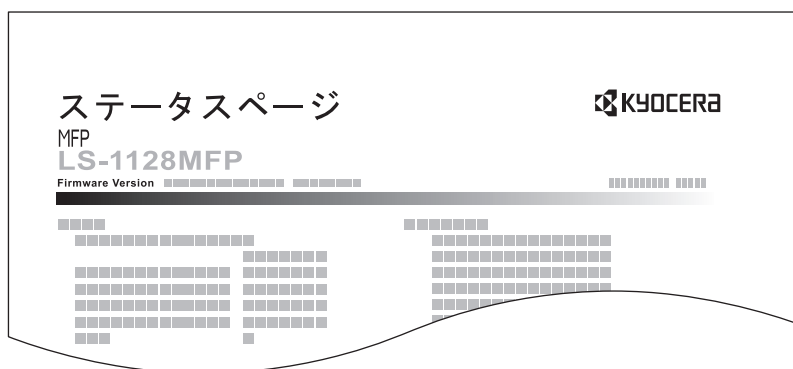
7 OK キーを押してください。

8 △ または ▽ キーを押して、[設定しない]（印刷しない）または [設定する]（印刷する）を選択してください。

9 OK キーを押してください。

ステータスページ

ステータスページには、ユーザが本機に設定したさまざまな項目が記載されています。ファクス関連では、自局ファクス番号、自局名、回線設定などがあります。必要に応じて印刷してください。

1. システムメニュー / カウンタキーを押してください。
2. △または▽キーを押して、[レポート] を選択してください。
3. OK キーを押してください。
4. △または▽キーを押して、[レポート印刷] を選択してください。
5. OK キーを押してください。
6. △または▽キーを押して、[ステータスページ] を選択してください。
7. OK キーを押してください。
8. [はい]（左セレクトキー）を押してください。ステータスページが印刷されます。

ファクスの受信結果をメールで知らせる

```
Job No.:  000019
Result:   OK
End Time:  Sun 23 Apr 2006 14:53:38
File Name: doc23042006145300

Result  Job Type   Address
-----------------------------------------------------------------
 OK     FAX        123456

-------------------
XX-XXXX
[00:c0:ee:1a:01:24]
-------------------
```

ファクスを受信したときに、受信結果レポートを印刷する代わりに、メールで知らせることができます。

参考：この設定は、「ファクス受信結果通知」が [**設定する**] または [**エラー /F コード**] であるときに表示されます。詳しくは、5-6 ページの**受信結果レポート**を参照してください。

メール通知は、「ファクス受信結果通知」の設定にしたがって実行されます。「ファクス受信結果通知」が [**設定する**] の場合は毎回メール通知されます。[**エラー /F コード**] の場合は、エラーが起こったとき、または受信原稿が他のファクス、コンピュータや F コードボックスに転送されたときのみメール通知されます。

---

1 システムメニュー / カウンタキーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[**レポート**] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、[**結果通知設定**] を選択してください。

5 OK キーを押してください。

6 △ または ▽ キーを押して、[**ファクス受信結果**] を選択してください。

7 OK キーを押してください。

8 △ または ▽ キーを押して、[**設定する**] を選択してください。

9 OK キーを押してください。

10 △ または ▽ キーを押して、[**メール**] を選択してください。

11 OK キーを押してください。

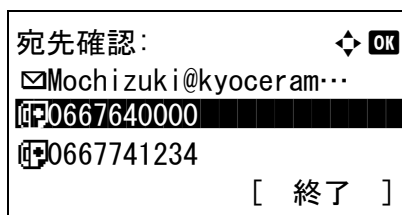
12 **送信先をアドレス帳から選択するとき**

1. △ または ▽ キーを押して、[**アドレス帳**] を選択してください。
2. OK キーを押してください。
3. △ または ▽ キーを押して、送信先に登録する宛先を選択してください。

送信先を直接入力するとき

1. △ または ▽ キーを押して、[**アドレス入力**] を選択してください。

2　OK キーを押してください。

3　テンキーを使って送信先に登録するアドレスを入力してください。64 桁まで入力できます。

参考：文字の入力方法は、付録 -2 ページの文字の入力方法を参照してください。

13 OK キーを押してください。

宛先確認画面について

送信前の宛先確認画面の設定を [**設定する**] に設定している場合は、**スタートキー**を押すと、宛先を確認するための宛先確認画面が表示されます。詳しくは、本体の**使用説明書**の送信前の宛先確認画面の設定を参照してください。

宛先確認画面の操作手順は、次のとおりです。

1 △ または ▽ キーを押して､すべての送り先を確認してください。

送り先を選択して OK キーを押し、[**編集**] を選択して OK キーを押すと、選択した送り先を編集できます。

送り先を削除するときは、削除する送り先を選択して OK キーを押し、[**削除**] を選択して OK キーを押してください。削除の確認画面で [**はい**]（左セレクトキー）を押すと送り先が削除されます。

2 [**終了**]（右セレクトキー）を押してください。

3 **スタートキー**を押してください。送信が開始されます。

6　各種設定と登録

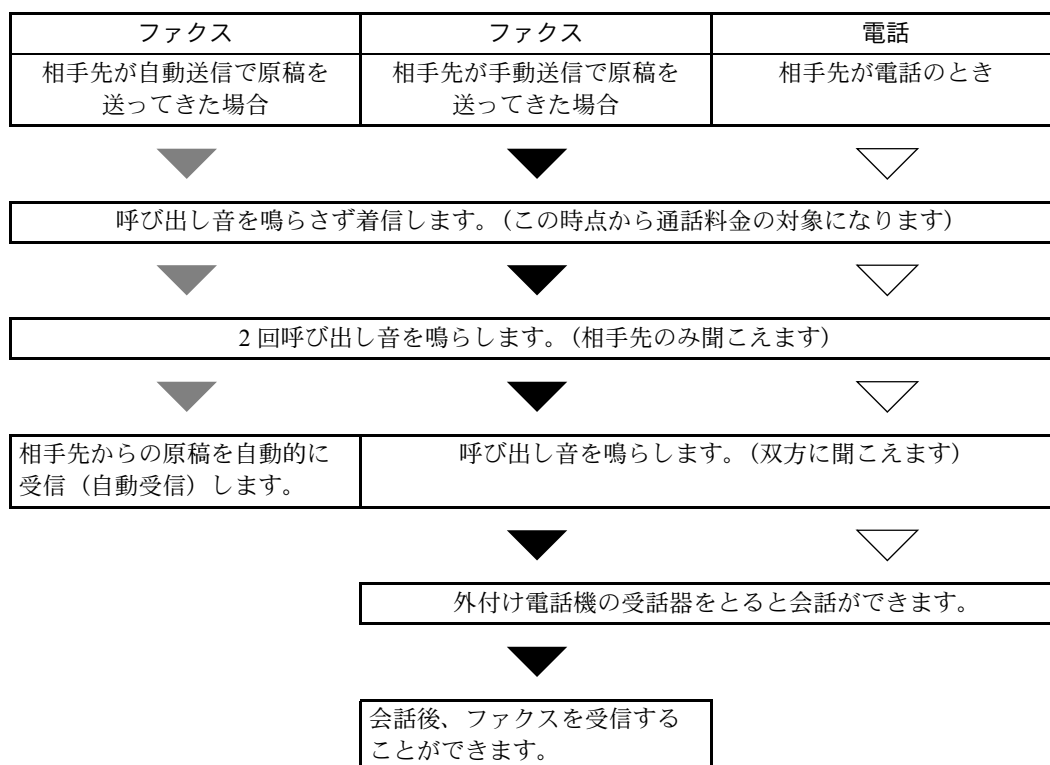
この章では、各種の設定や登録のしかたについて説明します。

ファクスと電話を自動で切り替える【ファクス / 電話自動切替受信】

1 回線で電話とファクスの両方を使用するときに便利な受信方法です。ファクス原稿が送られてくれば自動的に受信し、相手先が電話のときは本機で呼び出し音が鳴り、応答を促します。

重要：ファクス / 電話自動切替受信するためには、本機に電話機（市販品）を接続することが必要です。

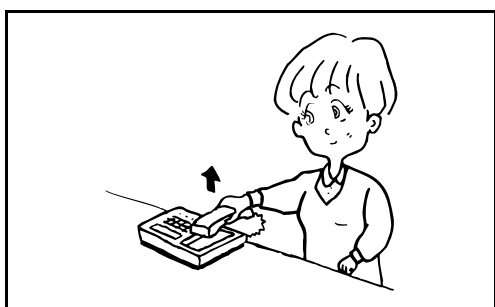
電話機で呼び出し音が設定回数分鳴った後は、受信側が応答しない場合でも発信側に電話料金がかかります。

受信の流れ

参考：会話終了後に手動で受信することもできます。（4-12 ページの送られてきたファクスを手動で受信する【手動受信】参照）

準備事項

6-9 ページの利用状況に合わせて受信のしかたを切り替える【受信方式】を参照して、[自動（ファクス / 電話）] を選択してください。

1 まず接続された電話機で呼び出し音が鳴ります。ただし、呼び出し音が鳴る回数（ファクス / 電話自動切替用）が「0」に設定されている場合は呼び出し音が鳴りません。

参考：呼び出し音が鳴る回数は変更することができます。（6-6 ページの呼び出しベルの回数を変更する【ベル回数】参照）

2 相手先が電話のとき

1 本機で呼び出し音が鳴り、応答を促します。30 秒間以内に電話の受話器を上げてください。

参考：30 秒間以内に受話器を上げない場合、ファクスの受信に切り替わります。

2 会話をしてください。

参考：会話終了後に手動で受信することもできます。（4-12 ページの送られてきたファクスを手動で受信する【手動受信】参照）

相手先がファクスのとき

ファクスの受信を開始します。

6

ファクスと留守番電話を自動で切り替える【ファクス / 留守番電話自動切替受信】

留守番電話機とファクスを併用するときに便利な方法です。ファクス原稿が送られてくれば自動的に受信し、相手先が電話のときは接続された留守番電話機の機能にしたがうため、不在の場合には相手先からのメッセージを留守番電話に残すことができます。

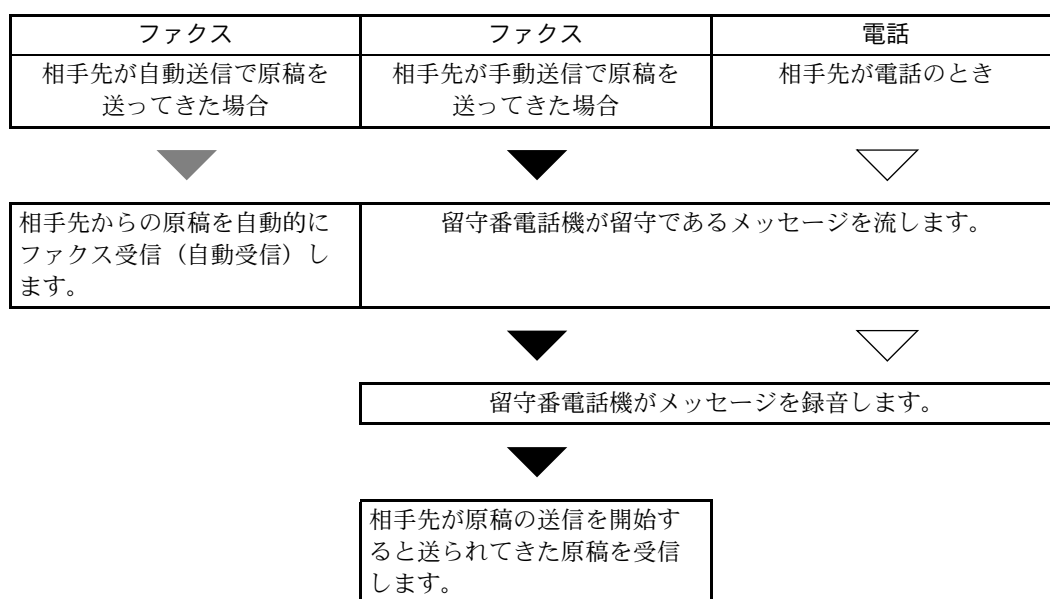
重要：ファクス / 留守番電話自動切替受信機能の使用時、相手先からの電話がつながってから、1 分間経過するまでの間に 30 秒以上無音状態が続くと、本機の無音検出機能が働き、ファクス受信に切り替わります。

参考：ファクス / 留守番電話自動切替受信をするためには、本機に留守番機能付電話機（市販品）を接続することが必要です。

応答メッセージ等は、各留守番電話機の使用説明書を参照してください。

本機の呼び出しベルの回数は、留守番電話の呼び出しベルの回数よりも多くしてください。（6-6 ページの呼び出しベルの回数を変更する【ベル回数】を参照）

受信の流れ

ファクス	ファクス	電話
相手先が自動送信で原稿を送ってきた場合	相手先が手動送信で原稿を送ってきた場合	相手先が電話のとき
▼	▼	▽
相手先からの原稿を自動的にファクス受信（自動受信）します。	留守番電話機が留守であるメッセージを流します。	
	▼	▽
	留守番電話機がメッセージを録音します。	
	▼	
	相手先が原稿の送信を開始すると送られてきた原稿を受信します。	

準備事項

6-9 ページの利用状況に合わせて受信のしかたを切り替える【受信方式】を参照して、[自動（留守番電話）] を選択してください。

1 接続された電話機で設定された回数の呼び出し音が鳴ります。

参考：電話機で呼び出し音が鳴っているときに受話器を上げた場合は、手動受信のときと同じ状態になります。（4-12 ページの送られてきたファクスを手動で受信する【手動受信】参照）

2 留守番電話機が応答します。

相手先は電話だが不在のとき

留守番電話機から応答メッセージが流れ、用件の録音を開始します。

参考：録音中に無音状態が 30 秒間続くとファクスの受信に切り替わります。

相手先がファクスのとき

ファクスの受信を開始します。

6

呼び出しベルの回数を変更する【ベル回数】

相手先からの呼び出しに応答するまでのベル回数を、必要に応じて変更することができます。ベル回数は、本機の受信方式のうち、ファクス専用自動受信、ファクス / 留守番電話自動切替受信、ファクス / 電話自動切替受信について、それぞれ変更できます。

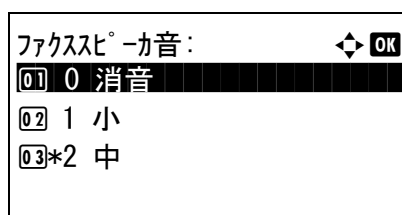
参考：ファクス専用自動受信、ファクス / 留守番電話自動切替受信のベル回数は 1 ～ 15 回まで、ファクス / 電話自動切替受信のベル回数は 0 ～ 15 回までの間で変更できます。

1. システムメニュー / カウンタキーを押してください。
2. △ または ▽ キーを押して、[ファクス] を選択してください。
3. OK キーを押してください。
4. △ または ▽ キーを押して、[受信設定] を選択してください。
5. OK キーを押してください。
6. △ または ▽ キーを押して、[ベル（普通）]、[ベル（留守番電話）] または [ベル（ファクス / 電話）] を選択してください。
7. OK キーを押してください。
8. 矢印キーを使って呼び出しベルの回数を入力してください。
9. OK キーを押してください。

スピーカの音量を調整する【音量調整】

本機のモニタ音、スピーカ音のボリュームを調整できます。

スピーカ音量：**オンフック**キーを押して電話回線を接続したときに、内蔵スピーカから聞こえる音量です。

モニタ音量：メモリ送信などで**オンフック**キーを押さずに電話回線を接続したときに、内蔵スピーカから聞こえる音量です。

1 システムメニュー / カウンタキーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、**[共通設定]** を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、**[音設定]** を選択してください。

5 OK キーを押してください。

6 △ または ▽ キーを押して、**[ファクススピーカ音]** または **[ファクスモニタ音]** を選択してください。

7 OK キーを押してください。

8 △ または ▽ キーを押して、スピーカの音量を選択してください。

9 OK キーを押してください。

リダイヤルする回数を変更する【リダイヤル回数】

自動的にリダイヤルする回数を変更できます。

参考：リダイヤル回数は 0 ～ 14 回までの間で設定できます。リダイヤルについては、3-26 ページの同じ相手に再送信する（リダイヤル）を参照してください。

1. システムメニュー / カウンタキーを押してください。
2. △ または ▽ キーを押して、[ファクス] を選択してください。
3. OK キーを押してください。
4. △ または ▽ キーを押して、[送信設定] を選択してください。
5. OK キーを押してください。
6. △ または ▽ キーを押して、[リダイヤル回数] を選択してください。
7. OK キーを押してください。
8. テンキーを使ってリダイヤルの回数を入力してください。
9. OK キーを押してください。

利用状況に合わせて受信のしかたを切り替える【受信方式】

本機の受信方式には次の 4 種類があります。

- ファクス専用自動受信 [自動（普通）]
- ファクス / 電話自動切替受信 [自動（ファクス / 電話）]（6-2 ページ参照）
- ファクス / 留守番電話自動切替受信 [自動（留守番電話）]（6-4 ページ参照）
- 手動受信 [手動]（4-12 ページ参照）

本機の使用状況に合わせて、受信方式を選択してください。

1. システムメニュー / カウンタキーを押してください。
2. △ または ▽ キーを押して、[ファクス] を選択してください。
3. OK キーを押してください。
4. △ または ▽ キーを押して、[受信設定] を選択してください。
5. OK キーを押してください。
6. △ または ▽ キーを押して、[受信方式] を選択してください。
7. OK キーを押してください。
8. △ または ▽ キーを押して、切り替えたい受信方式を選択してください。
9. OK キーを押してください。

受信した日時や情報などを印刷する【受信日時記録】

受信日時記録は、ファクスが印刷されるときに、受信した日時、相手先の情報、ページ数を本機側で付加し、各ページの先頭に印刷する機能です。時差がある地域から送られてきた原稿を、いつこちらが受信したか確認できて便利です。

参考：受信データが複数ページに分割されるときは、最初の 1 ページに受信日時記録が印刷され、次のページ以降には印刷されません。

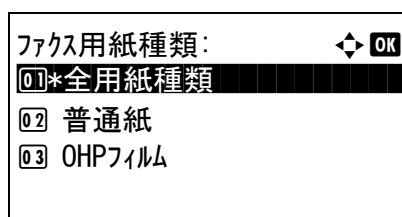
メモリ転送時に、転送された受信データには、受信日時記録は付加されません。

1. システムメニュー / カウンタキーを押してください。
2. △ または ▽ キーを押して、[ファクス] を選択してください。
3. OK キーを押してください。
4. △ または ▽ キーを押して、[受信設定] を選択してください。
5. OK キーを押してください。
6. △ または ▽ キーを押して、[受信日時記録] を選択してください。
7. OK キーを押してください。
8. △ または ▽ キーを押して、[設定する] を選択してください。
9. OK キーを押してください。

使用する用紙の種類を限定する【受信用紙種類】

ファクスが印刷されるときに使用する用紙を、用紙の種類で限定できます。

選択できる用紙種類：全用紙種類、普通紙、OHP フィルム、薄紙、ラベル紙、再生紙、プレプリント、ボンド紙、はがき、カラー紙、パンチ済み紙、レターヘッド、封筒、厚紙、上質紙、カスタム 1 ～ 8

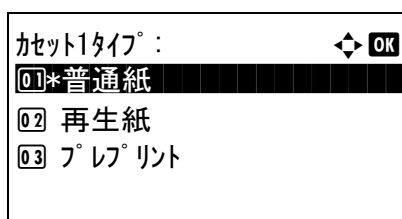
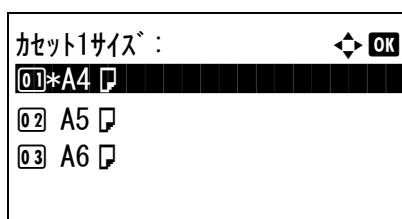
参考：用紙種類のカスタム 1 ～ 8 については、本体の**使用説明書**を参照してください。

1 システムメニュー / カウンタキーを押してください。
2 △ または ▽ キーを押して、[ファクス] を選択してください。
3 OK キーを押してください。
4 △ または ▽ キーを押して、[受信設定] を選択してください。
5 OK キーを押してください。
6 △ または ▽ キーを押して、[ファクス用紙種類] を選択してください。
7 OK キーを押してください。
8 △ または ▽ キーを押して、用紙種類を選択してください。用紙種類を指定しない場合は [全用紙種類] を選択してください。

9 OK キーを押してください。

ファクス受信出力をするカセットを設定する

用紙種類を限定することで、用紙種類を設定した該当のカセットからファクス受信が可能となります。また、設定された用紙サイズで自動的に縮小されます。

1 システムメニュー / カウンタキーを押してください。
2 △ または ▽ キーを押して、[共通設定] を選択してください。
3 OK キーを押してください。
4 △ または ▽ キーを押して、[原稿/用紙設定] を選択してください。
5 OK キーを押してください。
6 △ または ▽ キーを押して、[カセット 1 設定]、[カセット 2 設定] または [カセット 3 設定] を選択してください。

参考：[カセット 2 設定]、[カセット 3 設定] は、オプションのペーパーフィーダ装着時のみ表示されます。

7 OK キーを押してください。

8 △ または ▽ キーを押して、[カセット 1 サイズ]、[カセット 2 サイズ] または [カセット 3 サイズ] を選択してください。

9 OK キーを押してください。

10 △ または ▽ キーを押して、用紙サイズを選択してください。

11 OK キーを押してください。前画面に戻ります。

12 △ または ▽ キーを押して、[カセット 1 タイプ]、[カセット 2 タイプ] または [カセット 3 タイプ] を選択してください。

13 OK キーを押してください。

14 △ または ▽ キーを押して、用紙タイプを選択してください。

15 OK キーを押してください。前画面に戻ります。

16 戻るキーを押して、システムメニューの初期画面に戻ってください。

17 続いてファクスの受信設定を行います。設定手順は、6-11 ページの使用する用紙の種類を限定する【受信用紙種類】を参照してください。

用紙種類の選択では手順 14 で選択したものと同じ用紙タイプを選択してください。

ファクス通信網を使用して受信する【F ネット】

NTT が提供するファクス通信網（F ネット）に接続してファクス通信をする場合は、「F ネット」を [**設定する**] にしてください。

1. システムメニュー / カウンタキーを押してください。
2. △ または ▽ キーを押して、[**ファクス**] を選択してください。
3. OK キーを押してください。
4. △ または ▽ キーを押して、[**受信設定**] を選択してください。
5. OK キーを押してください。
6. △ または ▽ キーを押して、[**F ネット**] を選択してください。
7. OK キーを押してください。
8. △ または ▽ キーを押して、[**設定する**] または [**設定しない**] を選択してください。
9. OK キーを押してください。

1 回線で電話とファクスを使い分ける【ダイヤルイン】

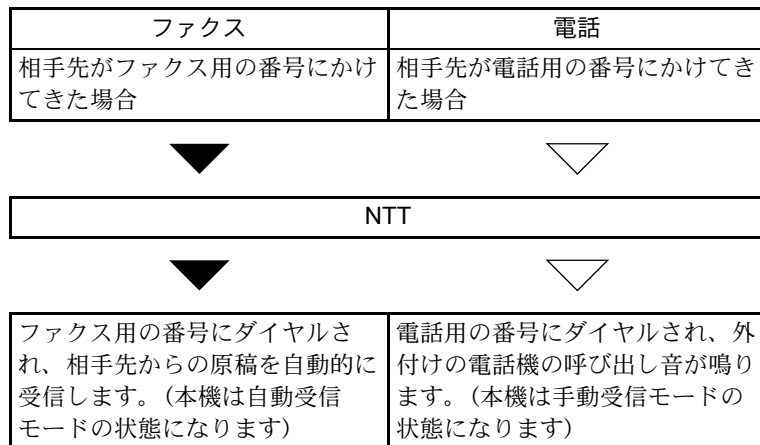
NTT のダイヤルインサービスを利用することにより、1 回線で電話とファクスとの併用を可能にする機能です。

ダイヤルインサービスでは、契約時に NTT から電話用とファクス用の 2 つの番号が与えられます。相手先に対して、電話用とファクス用にそれぞれ別の番号を伝えておけば、相手側では、電話をかけるときは電話用の番号を使い、ファクスを送るときはファクス用の番号を使います。

本機側では、それらの番号を事前に電話用とファクス用に登録しておくため、電話かファクスかを区別して受信することができます。

参考：ダイヤルインサービスのサービス内容や契約方法については、NTT の営業窓口にお問い合せください。また、サービスをお受けになるときは、ダイヤルイン番号を 4 桁送出でお申し込みください。

ファクス / 電話自動切替受信やファクス / 留守番電話自動切替受信との併用はできません。

電話を受けるためには、電話機（市販品）を接続することが必要です。

受信の流れ

ファクス	電話
相手先がファクス用の番号にかけてきた場合	相手先が電話用の番号にかけてきた場合
▼	▽
NTT	
▼	▽
ファクス用の番号にダイヤルされ、相手先からの原稿を自動的に受信します。（本機は自動受信モードの状態になります）	電話用の番号にダイヤルされ、外付けの電話機の呼び出し音が鳴ります。（本機は手動受信モードの状態になります）

1. システムメニュー / カウンタキーを押してください。
2. △ または ▽ キーを押して、[ファクス] を選択してください。
3. OK キーを押してください。
4. △ または ▽ キーを押して、[受信設定] を選択してください。
5. OK キーを押してください。
6. △ または ▽ キーを押して、[ダイヤルイン] を選択してください。
7. OK キーを押してください。
8. △ または ▽ キーを押して、[設定する] を選択してください。
9. OK キーを押してください。

10 テンキーを使って電話番号として使用する番号の下 4 桁を入力してください。

11 OK キーを押してください。

通信する相手先を限定する【送受信制限】

通信条件を満たすときだけ送 / 受信を可能にする機能です。この機能を使うと、通信する相手先を限定することができます。

具体的には、あらかじめ通信条件（許可ファクス番号 / 許可 ID 番号）を登録し、送受信制限を設定しておきます。送 / 受信時は、この機能についての特別な操作の必要はなく、通常の操作を行います。そして、実際に送 / 受信が開始されたとき、通信条件を満たす送 / 受信は正常に行われますが、条件を満たさない送 / 受信はエラーとなります。また、受信制限を **[拒否リスト]** に設定すると、拒否ファクス番号に登録した相手先と自局ファクス番号を登録していない相手先からの受信を拒否することができます。

参考：送受信制限は、下記の**前提条件**、**通信成立条件**、および**受信拒否条件**をよくお読みになり、送信や受信を可能にする相手先とあらかじめよく打ち合わせた上で行うようにしてください。

	前提条件	通信成立条件
送信制限	• 許可ファクス番号または許可 ID 番号を登録する。†（6-17 ページの**許可ファクス番号の登録のしかた**、または 6-21 ページの**許可 ID 番号の登録のしかた**参照） • 送信制限設定で、送信制限を **[アドレス帳 + 許可リスト]** に設定する。（6-23 ページの**送信制限設定のしかた**参照） • 相手先で自局ファクス番号または自局ファクス ID を登録する。	• 相手先の自局ファクス番号と本機に登録されている許可ファクス番号が一致する。 • 相手先の自局ファクス ID と本機に登録されている許可 ID 番号が一致する。 • アドレス帳、ワンタッチキーを使ってダイヤルした場合、ダイヤルした番号の下 4 桁と相手先の自局ファクス番号の下 4 桁が一致する。（手動送信時を除く）
受信制限	• 許可ファクス番号または許可 ID 番号を登録する。††（6-17 ページの**許可ファクス番号の登録のしかた**、または 6-21 ページの**許可 ID 番号の登録のしかた**参照） • 受信制限設定で、受信制限を **[アドレス帳 + 許可リスト]** に設定する。（6-24 ページの**受信制限設定のしかた**参照） • 相手先で自局ファクス番号または自局ファクス ID を登録する。	• 相手先の自局ファクス番号と本機に登録されている許可ファクス番号が一致する。 • 相手先の自局ファクス ID と本機に登録されている許可 ID 番号が一致する。 • 相手先の自局ファクス番号の下 4 桁と一致するファクス番号が、本機のアドレス帳に登録されている。

† 許可ファクス番号と許可 ID 番号の両方が未登録の場合は、送信制限しません。

†† 許可ファクス番号と許可 ID 番号の両方が未登録の場合は、受信制限しません。

	前提条件	受信拒否条件
受信拒否	• 拒否ファクス番号を登録する。†（6-19 ページの**拒否ファクス番号の登録のしかた**参照） • 受信制限設定で、受信制限を **[拒否リスト]** に設定する。（6-24 ページの**受信制限設定のしかた**参照）	• 相手先が自局ファクス番号を登録していない。 • 相手先の自局ファクス番号と本機に登録されている拒否ファクス番号が一致する。

† 拒否ファクス番号を登録していない場合、自局ファクス番号（実際の回線番号ではなく、ファクスの自局登録情報を指します。）を登録していない相手先のみ拒否します。

許可ファクス番号の登録のしかた

参考：最大 10 個の許可ファクス番号を登録することができます。

1 システムメニュー / カウンタキーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[ファクス] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、[通信制限設定] を選択してください。

5 OK キーを押してください。

6 △ または ▽ キーを押して、[通信許可番号リスト] を選択してください。

7 OK キーを押してください。

8 [メニュー]（右セレクトキー）を押してください。

ﾒﾆｭｰ:
01 詳細/編集
02 削除
03 ﾌｧｸｽ番号追加

9 △ または ▽ キーを押して、[ファクス番号追加] を選択してください。

10 OK キーを押してください。

11 テンキーを使って許可ファクス番号を入力してください。32 桁まで入力できます。

参考：**再宛先 / ポーズ**キーを押すと、番号の間にポーズ（-）が入力されます。

◁ または ▷ キーを押すと、カーソルが移動します。

番号を訂正するときは、**クリア**キーを押して 1 文字ずつ削除し、入力し直してください。すべて削除するときは、**リセット**キーを押してください。

12 OK キーを押してください。

13 その他の許可ファクス番号を登録するときは手順 8 ～ 12 を繰り返してください。

許可ファクス番号の変更 / 削除のしかた

1 6-17 ページの許可ファクス番号の登録のしかたの手順 1 ～ 7 を行ってください。

2 △ または ▽ キーを押して、変更または削除する許可ファクス番号を選択してください。

変更するときは手順 3 に、削除するときは手順 8 に進んでください。

3 [メニュー]（右セレクトキー）を押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、[詳細/編集] を選択してください。

5 OK キーを押してください。

6 テンキーを使って許可ファクス番号を入力しなおしてください。32 桁まで入力できます。

参考：再宛先 / ポーズキーを押すと、番号の間にポーズ（-）が入力されます。

◁ または ▷ キーを押すと、カーソルが移動します。

番号を訂正するときは、クリアキーを押して 1 文字ずつ削除し、入力し直してください。すべて削除するときは、リセットキーを押してください。

---

7 OK キーを押してください。手順 12 に進んでください。

8 [メニュー]（右セレクトキー）を押してください。

ﾒﾆｭｰ:
01 詳細/編集
02 削除
03 ﾌｧｸｽ番号追加

9 △ または ▽ キーを押して、[削除] を選択してください。

10 OK キーを押してください。

11 [はい]（左セレクトキー）を押してください。許可ファクス番号を削除します。

12 その他の許可ファクス番号を変更や削除するときは手順 2 〜 11 を繰り返してください。

拒否ファクス番号の登録のしかた

参考：最大 10 個の拒否ファクス番号を登録することができます。

1 システムメニュー / カウンタキーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[ファクス] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、[通信制限設定] を選択してください。

5 OK キーを押してください。

6 △ または ▽ キーを押して、[通信拒否番号リスト] を選択してください。

7 OK キーを押してください。

8 [メニュー]（右セレクトキー）を押してください。

9 △ または ▽ キーを押して、[ファクス番号追加] を選択してください。

10 OK キーを押してください。

11 テンキーを使って拒否ファクス番号を入力してください。32 桁まで入力できます。

参考：**再宛先 / ポーズ**キーを押すと、番号の間にポーズ（-）が入力されます。

◁ または ▷ キーを押すと、カーソルが移動します。

番号を訂正するときは、**クリア**キーを押して 1 文字ずつ削除し、入力し直してください。すべて削除するときは、**リセット**キーを押してください。

---

12 OK キーを押してください。

13 その他の拒否ファクス番号を登録するときは手順 8 ～ 12 を繰り返してください。

拒否ファクス番号の変更 / 削除のしかた

1 6-19 ページの**拒否ファクス番号の登録のしかた**の手順 1 ～ 7 を行ってください。

2 変更または削除する拒否ファクス番号を選択してください。

変更するときは手順 3 に、削除するときは手順 8 に進んでください。

3 **[メニュー]**（右セレクトキー）を押してください。

4 △または▽キーを押して、**[詳細/編集]**を選択してください。

ﾌｧｸｽ番号入力:
0667640001

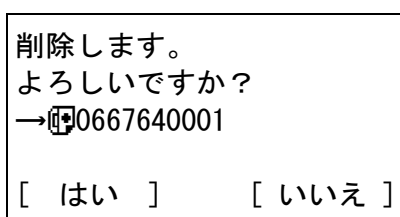
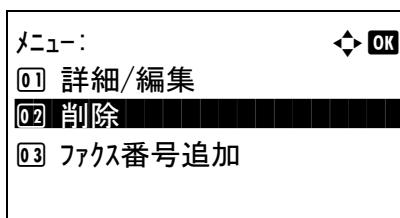
5 OK キーを押してください。

6 テンキーを使って拒否ファクス番号を入力しなおしてください。32 桁まで入力できます。

参考：**再宛先 / ポーズ**キーを押すと、番号の間にポーズ（-）が入力されます。

◁ または ▷ キーを押すと、カーソルが移動します。

番号を訂正するときは、**クリア**キーを押して 1 文字ずつ削除し、入力し直してください。すべて削除するときは、**リセット**キーを押してください。

---

7 OK キーを押してください。手順 11 に進んでください。

8 [メニュー]（右セレクトキー）を押してください。

9 △ または ▽ キーを押して、[削除] を選択してください。

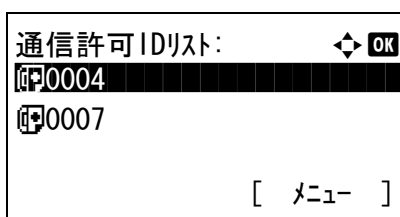
10 OK キーを押してください。

11 [はい]（左セレクトキー）を押してください。許可ファクス番号を削除します。

削除します。
よろしいですか？
→0667640001
[はい] [いいえ]

12 その他の拒否ファクス番号を変更や削除するときは、手順 2 〜 11 を繰り返してください。

許可 ID 番号の登録のしかた

参考：最大 5 個の許可 ID 番号を登録することができます。

1 システムメニュー / カウンタキーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[ファクス] を選択してください。

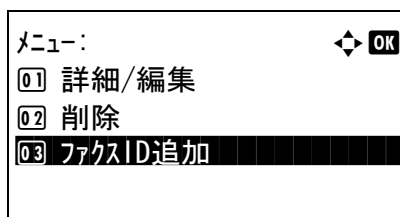
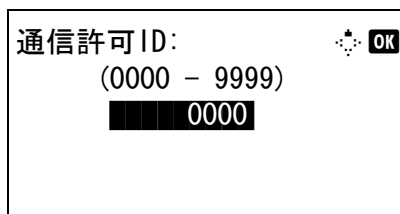
3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、[通信制限設定] を選択してください。

5 OK キーを押してください。

6 △ または ▽ キーを押して、[通信許可 ID リスト] を選択してください。

7 OK キーを押してください。

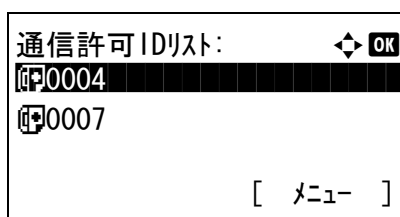
8 [メニュー]（右セレクトキー）を押してください。

9 △または▽キーを押して、[ファクスID追加]を選択してください。

10 OKキーを押してください。

11 テンキーを使って許可ID番号(0000～9999)を入力してください。

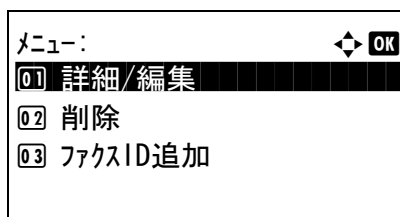
参考：クリアキーを押すと、入力前の番号に戻ります。

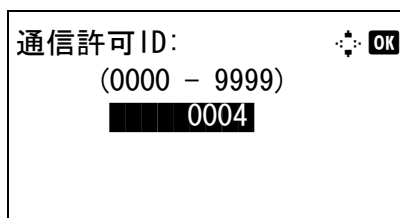
12 OKキーを押してください。

13 その他の許可ID番号を登録するときは手順8～12を繰り返してください。

許可 ID 番号の変更 / 削除のしかた

1 6-21ページの許可ID番号の登録のしかたの手順1～7を行ってください。

2 △または▽キーを押して、変更または削除する許可ID番号を選択してください。

変更するときは手順3に、削除するときは手順8に進んでください。

3 [メニュー]（右セレクトキー）を押してください。

4 △または▽キーを押して、[詳細/編集]を選択してください。

5 OKキーを押してください。

6 テンキーを使って許可ID番号(0000～9999)を入力しなおしてください。

通信許可ID:
(0000 - 9999)
0004

参考：クリアキーを押すと、入力前の番号に戻ります。

7 OK キーを押してください。手順 12 に進んでください。

8 [メニュー]（右セレクトキー）を押してください。

9 △ または ▽ キーを押して、[削除] を選択してください。

10 OK キーを押してください。

削除します。
よろしいですか？
→0004
[はい]　[いいえ]

11 [はい]（左セレクトキー）を押してください。許可ファクス番号を削除します。

12 その他の許可 ID 番号を変更や削除するときは、手順 2 ～ 11 を繰り返してください。

送信制限設定のしかた

送信する相手先を、許可ファクス番号と許可 ID 番号に登録されている相手先、およびアドレス帳に登録されている相手先だけに制限できます。送信制限を変更する場合は次の手順で行ってください。

1 システムメニュー / カウンタキーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[ファクス] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、[通信制限設定] を選択してください。

5 OK キーを押してください。

6 △ または ▽ キーを押して、[送信制限] を選択してください。

7 OK キーを押してください。

8 △または▽キーを押して送信制限の対象を選択します。送信制限を行わない場合は、[設定しない] を選択してください。許可ファクス番号と許可 ID 番号に登録されている相手先、およびアドレス帳に登録されている相手先だけに制限するときは、[許可リストで制限] を選択してください。

9 OK キーを押してください。

受信制限設定のしかた

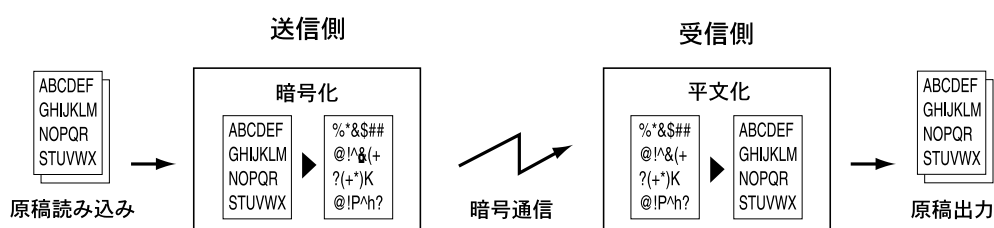
受信する相手先を、許可ファクス番号と許可 ID 番号に登録されている相手先、およびアドレス帳に登録されている相手先だけに制限できます。また、受信制限を [拒否リスト] に設定すると、拒否ファクス番号に登録した相手先と自局ファクス番号を登録していない相手先からの受信を拒否することができます。受信制限を変更する場合は次の手順で行ってください。

1. システムメニュー / カウンタキーを押してください。
2. △ または ▽ キーを押して、[ファクス] を選択してください。
3. OK キーを押してください。
4. △ または ▽ キーを押して、[通信制限設定] を選択してください。
5. OK キーを押してください。
6. △ または ▽ キーを押して、[受信制限] を選択してください。
7. OK キーを押してください。
8. △または▽キーを押して受信制限の対象を選択します。受信制限を行わない場合は、[設定しない] を選択してください。許可ファクス番号と許可 ID 番号に登録されている相手先、およびアドレス帳に登録されている相手先だけに制限するときは、[許可リストで制限] を選択してください。拒否ファクス番号に登録した相手先からの受信を拒否するときは、[拒否リスト] を選択してください。
9. OK キーを押してください。

原稿を暗号化して安全に通信する【暗号通信】

送信側で原稿を暗号化して通信する方法です。したがって、通信途中にある送信原稿を第 3 者が何らかの方法により盗み見ようとした場合でも、本当の原稿の内容を知ることはできません。送られた原稿は受信側で元の原稿に戻して（平文化されて）印刷されます。第 3 者には絶対に知られてはならないような極秘の機密文書などを送る際に非常に有効な通信方法です。

重要：暗号通信を行うためには、相手機が同方式の暗号通信機能を備えた弊社機であることが必要です。

暗号通信では、原稿の暗号化、平文化を行うために、送信側と受信側で同じ 16 桁の暗号鍵を使用しますが、その暗号鍵が送信側と受信側で合致しない場合、暗号通信は成立しません。したがって、送信側と受信側であらかじめ取り決めを行い、両者で同じ暗号鍵を 2 桁の鍵番号と一緒に登録しておく必要があります。

送信・受信側での設定内容

設定内容	送信側	受信側	参照ページ
暗号鍵番号	（A）2 桁	（B）2 桁	6-25 ページ
暗号鍵	（C）16 桁	（C）16 桁	6-25 ページ
アドレス帳（または直接ダイヤル入力時）の鍵番号	（A）2 桁		6-25 ページ
送信先暗号ボックス番号†	（D）4 桁		6-27 ページ
暗号ボックス番号†		（D）4 桁	−
受信設定での鍵番号		（B）2 桁	6-29 ページ

† 本機で受信する場合は、暗号ボックスを使用しません。

参考：アルファベットが同じものは同じ文字列を設定してください。例えば、暗号鍵（C）は送信、受信側で同じ文字列です。

暗号鍵の登録のしかた

暗号鍵は、送信側では暗号通信用として使用するアドレス帳を登録する（または直接テンキーで相手先を入力する）ときに、受信側では暗号受信設定をするときに必要になります。

暗号鍵の作成には、0 ～ 9 までの数字とアルファベットの A ～ F の文字を使用し、それらを任意に 16 個ならべたものが暗号鍵となります。作成した暗号鍵には、01 ～ 20 の 2 桁の鍵番号をつけて登録します。

参考：暗号鍵は 20 個まで登録することができます。

1. システムメニュー / カウンタキーを押してください。
2. △または▽キーを押して、[ファクス] を選択してください。
3. OK キーを押してください。
4. △または▽キーを押して、[送受信共通設定] を選択してください。
5. OK キーを押してください。
6. △または▽キーを押して、[暗号鍵] を選択してください。
7. OK キーを押してください。
8. △または▽キーを押して未登録の暗号キーを選択して、[メニュー]（右セレクトキー）を押してください。

9. △または▽キーを押して、[登録] を選択してください。
10. OK キーを押してください。
11. テンキーを使って暗号鍵を入力してください。16 桁まで入力できます。
12. OK キーを押してください。
13. 他の暗号鍵を登録するときは手順 8 ～ 12 を繰り返してください。

暗号鍵の登録内容の確認 / 削除のしかた

1. 6-25ページの暗号鍵の登録のしかたの手順1～7を行ってください。
2. 確認または削除する暗号鍵を選択してください。

   確認するときは手順 3 に、削除するときは手順 6 に進んでください。

3. [メニュー]（右セレクトキー）を押してください。

4 △または▽キーを押して、[詳細] を選択してください。

5 OK キーを押してください。手順 10 に進んでください。

6 [メニュー]（右セレクトキー）を押してください。

7 △または▽キーを押して、[削除] を選択してください。

8 OK キーを押してください。

9 [はい]（左セレクトキー）を押してください。許可ファクス番号を削除します。

10 その他の暗号鍵を確認または削除するときは、手順 2 ～ 9 を行ってください。

送信側の操作方法

暗号送信を行う場合は、暗号通信用として登録したアドレス帳を使用します。または、直接テンキーでダイヤルするときに暗号送信を設定して送信してください。

参考：暗号送信は、順次同報送信でも行うことができます。

暗号通信時は、F コード通信を行うことができません。

1 受信側と取り決めた暗号鍵を登録してください。（6-25 ページの暗号鍵の登録のしかた参照）すでに登録されている場合は、次の手順に進んでください。

2 **送信 / ファクス**キーを押してください。

3 原稿をセットしてください。

6

ﾌｧｸｽ番号入力:
0123456789
[ﾁｪｰﾝ] [詳細]

4 テンキーを使って相手先のファクス番号を入力し、[詳細]（右セレクトキー）を押してください。

参考：アドレス帳またはワンタッチキーの宛先に暗号送信の設定がされている場合には、その宛先が使用できます。

ﾌｧｸｽ詳細:
暗号送信: 2/ 4
ｷｰ02
0000
[変更]

5 ◁ または ▷ キーを押して、[暗号送信] を選択してください。

6 OK キーを押してください。

暗号化:
01*設定しない
02 設定する

7 △ または ▽ キーを押して、[設定する] を選択してください。

8 OK キーを押してください。

暗号鍵:
01 ----------------
02*ｷｰ02
03 ｷｰ03

9 △ または ▽ キーを押して、暗号鍵番号を選択してください。

10 OK キーを押してください。

暗号ﾎﾞｯｸｽ:
01*設定しない
02 設定する

11 △ または ▽ キーを押して、[設定する] または [設定しない] を選択してください。

参考：本機で受信する場合は、暗号ボックスを使用しません。

12 OKキーを押してください。手順11で[**設定する**]を選んだときは次の手順に、[**設定しない**]を選んだときは手順15に進んでください。

ﾎﾞｯｸｽ番号入力:
(0000 - 9999)
0000

13 テンキーを使ってボックス番号（0000 ～ 9999）を入力してください。

14 OKキーを押してください。

15 **スタート**キーを押してください。送信を開始します。

参考：「送信前の宛先確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、**スタート**キーを押したときに、宛先確認画面が表示されます。詳しくは、5-12ページの**宛先確認画面について**を参照してください。

6

受信側の操作方法

暗号通信を行う場合、受信側では次の手順にしたがって操作を行ってください。

参考：暗号通信時は、Fコード通信できません。

1 送信側と取り決めた暗号鍵を登録してください。（6-25ページの**暗号鍵の登録のしかた**参照）

2 **システムメニュー/カウンタ**キーを押してください。

3 △または▽キーを押して、[**ファクス**]を選択してください。

4 OKキーを押してください。

5 △または▽キーを押して、[**受信設定**]を選択してください。

6 OKキーを押してください。

7 △または▽キーを押して、[**暗号受信**]を選択してください。

8 OKキーを押してください。

9 △または▽キーを押して、[**設定する**]を選択してください。

10 OK キーを押してください。

11 △ または ▽ キーを押して、暗号鍵番号を選択してください。

12 OK キーを押してください。

13 相手先から暗号送信が行われます。暗号通信が正常に行われた場合、暗号原稿を暗号化する前の状態に戻して印刷します。

幅が同じ原稿を受信したときは両面に印刷する【両面受信】

複数ページの受信データが、すべて同じ幅であるとき、受信データと同じ幅の用紙に両面で印刷します。

1 システムメニュー / カウンタキーを押してください。

2 △ または ▽ キーを押して、[**ファクス**] を選択してください。

3 OK キーを押してください。

4 △ または ▽ キーを押して、[**受信設定**] を選択してください。

5 OK キーを押してください。

6 △ または ▽ キーを押して、[**両面印刷**] を選択してください。

7 OK キーを押してください。

8 △ または ▽ キーを押して、[**設定する**] または [**設定しない**] を選択してください。

9 OK キーを押してください。

2 枚の原稿を 1 枚にまとめて受信する【2in1 受信】

A5 サイズで複数ページの原稿を受信したときに、2 ページを A4 の用紙 1 枚にまとめて印刷します。

1. システムメニュー / カウンタキーを押してください。
2. △または▽キーを押して、[ファクス] を選択してください。
3. OK キーを押してください。
4. △または▽キーを押して、[受信設定] を選択してください。
5. OK キーを押してください。
6. △または▽キーを押して、[2 in 1 印刷] を選択してください。
7. OK キーを押してください。
8. △または▽キーを押して、[設定する] または [設定しない] を選択してください。
9. OK キーを押してください。

一括で印刷する【一括印刷】

1. システムメニュー / カウンタキーを押してください。
2. △ または ▽ キーを押して、[**ファクス**] を選択してください。
3. OK キーを押してください。
4. △ または ▽ キーを押して、[**受信設定**] を選択してください。
5. OK キーを押してください。
6. △ または ▽ キーを押して、[**一括印刷**] を選択してください。
7. OK キーを押してください。
8. △または▽キーを押して、[**設定する**]または[**設定しない**] を選択してください。
9. OK キーを押してください。

サービスセンターからの通信で本機を診断する【リモート診断】

本機で問題が発生したときにサービス実施店等に連絡をいただくと、弊社サービスセンターのコンピュータから電話回線を介して本機にアクセスし、その状況や問題点などを確認することができます。

参考：リモート診断機能を使用するときは、あらかじめサービス実施店と契約の上、決められた ID を本機に登録する必要があります。詳しくは弊社サービス実施店またはお買い求めいただいた販売店にお問い合わせください。

1. システムメニュー / カウンタキーを押してください。
2. △または▽キーを押して、[調整 / メンテナンス] を選択してください。
3. OK キーを押してください。
4. △または▽キーを押して、[サービス設定] を選択してください。
5. OK キーを押してください。
6. △または▽キーを押して、[リモート診断設定] を選択してください。
7. OK キーを押してください。
8. △または▽キーを押して、[設定する] を選択してください。
9. OK キーを押してください。
10. △または▽キーを押して、[リモート診断 ID] を選択してください。
11. テンキーを使ってあらかじめ指定されたリモート診断 ID（0000 ～ 9999）を入力してください。
12. OK キーを押してください。

時間を指定してファクスの印刷を禁止する【使用禁止時間】

受信したファクスの印刷を禁止する時間帯を設定します。

禁止時間中に受信した原稿は、設定が解除されると印刷されます。

重要：使用禁止時間を設定すると、禁止時間中はファクスの印刷以外にも、コピー印刷、プリンタ印刷、メール受信印刷、USB メモリからの印刷、送信、Network FAX 送信など、すべての動作が禁止されます。禁止時間中はメッセージ表示部に現在使用できない機能がメッセージで表示されます。

1. システムメニュー / カウンタキーを押してください。
2. △ または ▽ キーを押して、[**共通設定**] を選択してください。
3. OK キーを押してください。
4. △ または ▽ キーを押して、[**タイマー設定**] を選択してください。
5. OK キーを押してください。
6. △ または ▽ キーを押して、[**使用禁止時刻設定**] を選択してください。
7. OK キーを押してください。
8. △ または ▽ キーを押して、[**設定する**] を選択してください。
9. OK キーを押してください。
10. △ または ▽ キーを押して、開始時刻を入力してください。
11. OK キーを押してください。
12. △ または ▽ キーを押して、終了時刻を入力してください。
13. OK キーを押してください。

参考：開始時刻と終了時刻を同じ時刻に設定すると、終日の設定になります。

7　Network FAX について

この章では、Network FAX を利用する方法について説明します。

付属の CD-ROM に収められている Network FAX ドライバ使用説明書（オンラインマニュアル）もあわせてお読みください。Network FAX 機能を使用した送信のしかたや各種選択方法など、コンピュータからの操作方法について説明しています。

Network FAX とは

Network FAX とは、本機に接続されたコンピュータでファクスの送 / 受信をする機能です。主な特徴は次のとおりです。

- コンピュータで作成した書類を、印刷することなくファクス送 / 受信が可能
- 宛先指定にアドレス帳（本体内 / コンピュータ内）を利用可能
- 送付状の添付
- 送信と同時に印刷も可能
- 送信結果のメール通知
- F コード通信対応
- 印刷と同じ簡単操作

Network FAX の送信の流れ

Network FAX の送信は次の流れで行います。

本機にネットワーク接続されたコンピュータで書類を作成

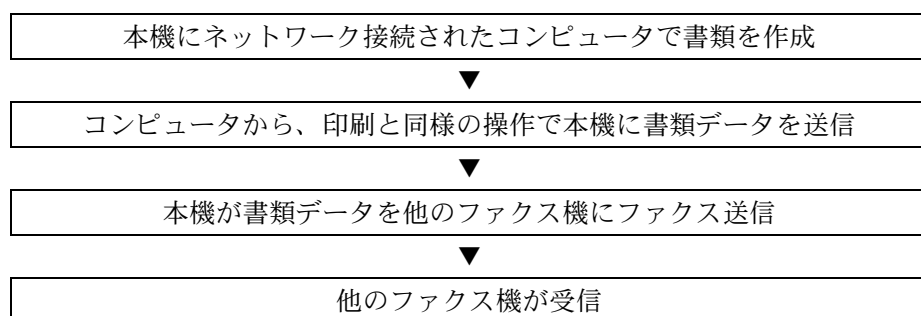
▼

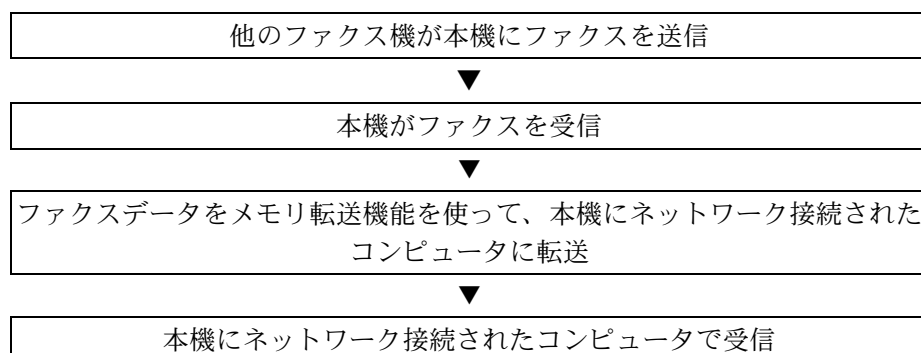
コンピュータから、印刷と同様の操作で本機に書類データを送信

▼

本機が書類データを他のファクス機にファクス送信

▼

他のファクス機が受信

Network FAX の受信の流れ

Network FAX の受信は次の流れで行われます。

参考：メモリ転送では、ネットワーク上のコンピュータで受信する以外にも、受信したファクスをメールで転送したり、他のファクスに転送したり、F コードボックスに保存することができます。

セットアップする

Network FAX を使用するためには、次の準備が必要です。

セットアップの流れ

コンピュータとの接続

ネットワークケーブルで本体とコンピュータを接続します。詳細は、本体の使用説明書を参照してください。

本体の登録

メモリ転送機能で受信先コンピュータやファイル形式を選択します。

参考：メモリ転送機能では、コンピュータへの転送や、受信したファクスをメールの添付ファイルにして転送することもできます。詳細は、4-16 ページの受信した文書を印刷 / 転送する【メモリ転送】を参照してください。

7

コンピュータへのソフトウェアのインストール

Network FAX を使うために必要な専用ソフト（同梱 CD-ROM に収録）をコンピュータにインストールします。詳細は、付属の CD-ROM に収められている Network FAX ドライバ使用説明書（オンラインマニュアル）を参照してください。

Network FAX ドライバ使用説明書（オンラインマニュアル）について

Network FAX ドライバ使用説明書（オンラインマニュアル）は、PDF（Portable Document Format）形式で付属の CD-ROM に収録されています。主な内容は次のとおりです。

- Network FAX ドライバのインストールのしかた
- Network FAX 送信のしかた
- Network FAX 送信の設定のしかた
- 送付状の設定のしかた

オンラインマニュアルの開きかた

オンラインマニュアルを参照するときは、次の手順で行ってください。

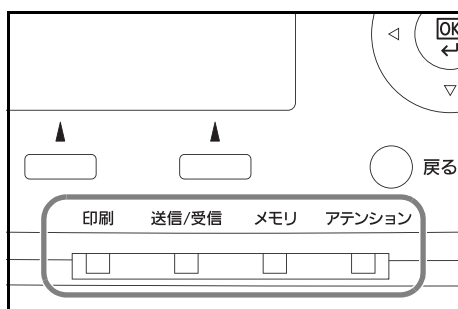
1 本体に付属するCD-ROMをCD-ROMドライブに挿入してください。使用許諾についての説明が表示されます。契約条件に同意する場合は、**同意する**をクリックしてください。メインメニュー画面が表示されます。

2 **説明書→ユーティリティドキュメント→ Network FAX ドライバ使用説明書**の順にクリックしてください。オンラインマニュアルが開きます。

参考：オンラインマニュアルをご覧になるには Adobe Acrobat Reader 5.01 以上がインストールされている必要があります。

8　こんなときには

この章では、トラブルが発生した場合の対処のしかたについて説明します。

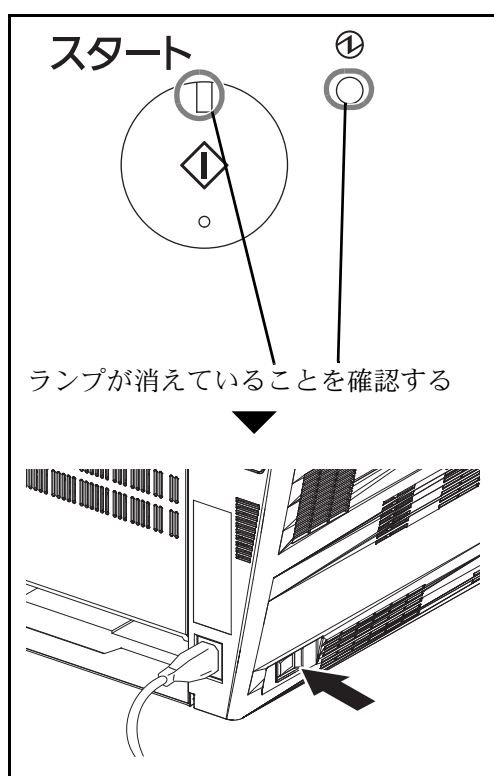
送 / 受信中のランプ表示について

ファクスの送 / 受信中は、**送信 / 受信**ランプ、**メモリ**ランプで状況がわかります。

- ファクスの送信中と受信中に、**送信 / 受信**ランプが点滅します。
- メモリ送信などで、原稿がメモリに記憶されるときに、**メモリ**ランプが点滅します。
- タイマー送信で、メモリに記憶されている原稿がある場合、**メモリ**ランプが点灯します。

電源を切るときの注意

電源を切る場合は操作パネルにある**電源**キーを押してください。主電源スイッチを切ると、ファクスを自動受信できなくなりますのでご注意ください。

主電源スイッチを切るときは、操作パネルの**電源**キーを押して、**電源**キーおよび**メモリ**ランプが消灯していることを確認してから切ってください。

注意：**電源**キーおよび**メモリ**ランプが点灯しているときは、ハードディスクが動作している場合があります。ハードディスクが動作しているときに主電源スイッチを切ると、ハードディスクが故障する原因となる可能性があります。

こんな表示が出たら

異常が発生するとメッセージ表示部にエラーメッセージが表示されます。次の表を参照して対処してください。

参考：通信エラーが発生したときは、エラーメッセージとともに受信 / 送信結果レポートが印刷されます。受信 / 送信結果レポートに表記されるエラーコードを確認して、付録 -25 ページのエラーコード一覧表で内容を参照してください。受信 / 送信結果レポートの印刷については、5-5 ページの送信結果レポート、および 5-6 ページの受信結果レポートを参照してください。

エラーコードは通信管理レポートでも確認することができます。（5-7 ページの通信管理レポート参照）

表示	確認事項	処理方法	参照ページ
故障が発生しました。サービス担当者に連絡してください。	―	主電源スイッチを入れ直す、または電源プラグを差し直してください。再度表示される場合は、表示されている C と数字を書きとめてください。主電源スイッチを切って電源コードを抜き、サービス担当者またはサービス実施店にご連絡ください。	―
サブアドレス / ポーリングボックスの制限を超えました。	―	F コードボックスまたはポーリングボックスの原稿がいっぱいになりました。[終了] を押してください。ジョブはキャンセルされます。 F コードボックスまたはポーリングボックスの原稿を印刷または削除してから、再度操作してください。	4-24 ページ
部門管理の制限を超えました。	―	部門管理で制限されている使用枚数に達したため、これ以上の操作ができません。[終了] を押してください。このジョブは中止されます。 使用枚数をリセットしてから、再度操作してください。	本体使用説明書参照
部門管理の制限を超えました。読み込みできません。	―	部門管理でファクス送信が使用禁止になっているため、これ以上の操作ができません。[終了] を押してください。このジョブは中止されます。 部門管理の設定を確認してください。	本体使用説明書参照
付属電話機の受話器がはずれています。	本機に接続された電話機（市販品）の受話器が上がっていませんか。	受話器を戻してください。	―

表示	確認事項	処理方法	参照ページ
送信ジョブの予約制限数を超えました。	—	タイマー送信をセットできる件数を超えています。[**終了**] を押してください。このジョブは中止されます。 タイマー送信が実行されるのを待つか、タイマー送信をキャンセルしてから、再度操作してください。	4-2 ページ
カセット 1（～ 4）に用紙を補給してください。 または、 **手差しに用紙を補給してください。**	表示されたカセットまたは手差しトレイの用紙がなくなっていませんか。	表示されているサイズの用紙を補給してください。受信用紙種類を指定している場合は、必要な用紙種類も表示されます。 他の給紙元を使用する場合は、給紙元を選択して [**継続**] を押してください。[**手差し設定**] を押すと手差しトレイの用紙サイズ / 用紙種類を変更できます。	—
	受信用紙種類を指定していませんか。	指定されている用紙種類のカセットがありません。他の給紙元を選択して [**継続**] を押してください。[**手差し設定**] を押すと手差しトレイの用紙サイズ / 用紙種類を変更できます。	—
	カセットがしっかりセットされていますか。	カセットを一度引き出して、しっかり押し込んでください。	—

トラブルが発生した場合

トラブルが発生した場合は、次のことを調べてください。それでもなお異常が見られるときには、サービス実施店またはお買い上げ店までご連絡ください。

トラブル内容	確認事項	処置方法	参照ページ
送信できない。	モジュラコードが正しく接続されていますか。	モジュラコードを正しく接続してください。	−
	「通信エラーです。」が表示されていませんか。	エラーの原因を除去した上で、もう一度送信してください。	付録 -25 ページ
	送信制限をしていませんか。	送信制限を解除してください。	6-16 ページ
順次同報送信ができない。	メモリがいっぱいになっていませんか。	メモリに空きができてから送信するか、メモリ内に空きを作ってください。	4-4 ページ
暗号通信ができない。	送信側 / 受信側でそれぞれ登録されている内容は正しいですか。	送信側、受信側の両者で登録内容をもう一度確認してください。	6-25 ページ
リモート切替機能が使用できない。	ダイヤル（パルス）回線を使用していませんか。	電話機によってはボタンなどでトーン信号を送出できる場合があります。電話機の使用説明書を参照してください。	−
	リモート切替番号は正しいですか。	登録内容を確認してください。（工場出荷時：55）	4-14 ページ
受信したが、印刷されない。	メモリ転送がセットされていませんか。	転送先を確認してください。	−
受信できない。	モジュラコードが正しく接続されていますか。	モジュラコードを正しく接続してください。	−
	「通信エラーです。」が表示されていませんか。	エラーの原因を除去した上で、もう一度相手先から送信してもらってください。	付録 -25 ページ
	受信制限をしていませんか。	受信制限を解除してください。	6-16 ページ
代行受信できない。	メモリがいっぱいになっていませんか。	メモリに空きができてから受信を行うか、メモリ内に空きを作ってください。	3-9 ページ
F コード送信ができない。	相手機は F コード機能を有したファクスですか。	相手機が同様の F コード機能を有していない場合、F コード通信を行えません。	−
	入力したサブアドレスや F コードパスワードは、相手機で登録されているサブアドレスや F コードパスワードと一致していますか。	入力内容に誤りがないときは、相手先に確認してください。本機で受信する場合、F コードパスワードは使用しません。	4-24 ページ
	相手機のメモリがいっぱいになっていませんか。	相手先に確認してください。	−
メモリ転送ができない。	メモリ転送が [設定する] になっていますか。	メモリ転送の設定を確認してください。	4-16 ページ
F コード通信を使った、メモリ転送ができない。	相手機は F コード機能を有したファクスですか。	相手機が同様の F コード機能を有していない場合、F コード通信を行えません。	−
	設定した F コードサブアドレスは、相手機で登録されている F コードサブアドレスと一致していますか。	入力内容に誤りがないときは、相手先に確認してください。本機で受信する場合、F コードパスワードは使用しません。	4-16 ページ

トラブル内容	確認事項	処置方法	参照ページ
メモリ転送で、F コードボックスに保存できない。	F コードボックスが正しく指定されていますか。	メモリ転送の設定を確認してください。	4-16 ページ
	メモリがいっぱいになっていませんか。	メモリに空きができてから受信を行うか、メモリ内に空きを作ってください。	4-24 ページ
F コードボックスから印刷できない。	ボックスパスワードを設定していますか。	正しいボックスパスワードを入力してください。	4-24 ページ
ポーリング受信ができない。	相手機でポーリング送信が正しく操作されていますか。	相手先に確認してください。	―
F コード中継同報通信ができない。	メモリがいっぱいになっていませんか。	メモリに空きができてから送信するか、メモリ内に空きを作ってください。	―
F コード掲示板通信ができない。	相手機は同様の F コード掲示板通信機能を有したファクスですか。	相手機が同様の F コード掲示板通信機能を有していない場合、F コード掲示板受信はできません。相手先に確認してください。	―
	入力した F コードサブアドレスや F コードパスワードは正しいですか。	入力内容に誤りがない場合は、相手先に確認してください。	―

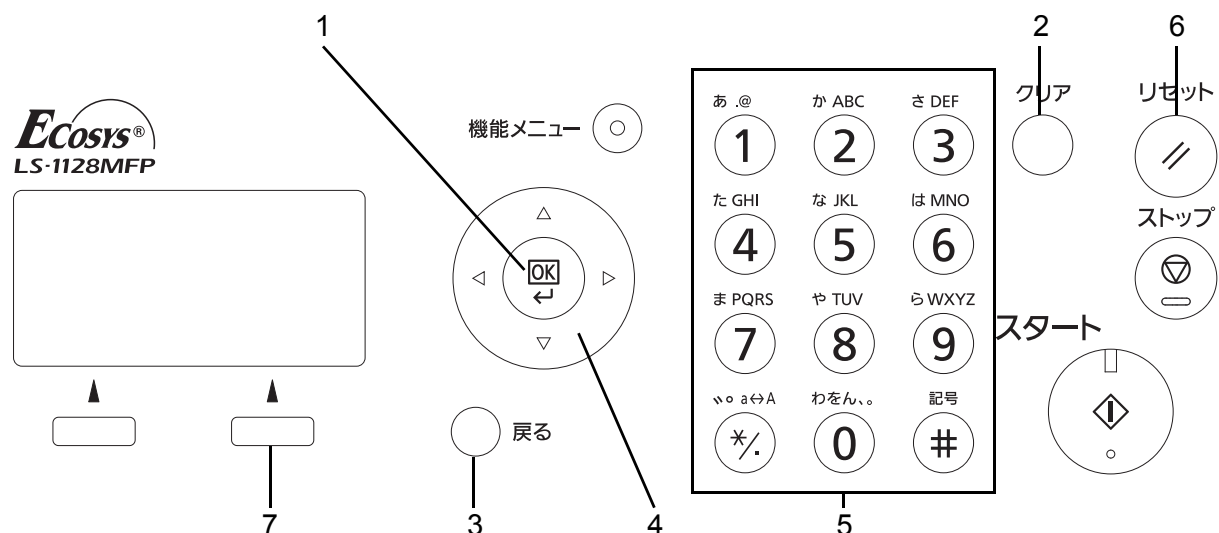
付録

この付録では、仕様など参考資料を記載します。

文字の入力方法

文字入力を行う画面では、以下の手順で入力を行ってください。

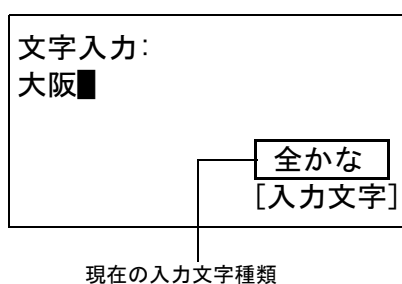
使用するキー

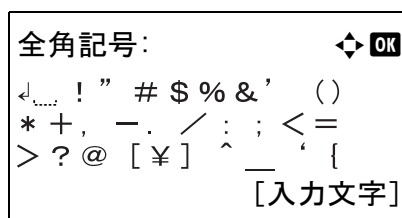
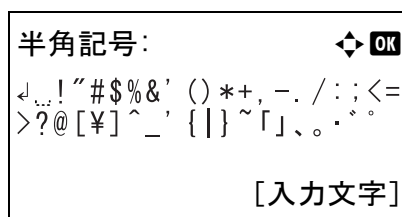
以下のキーを使用して文字を入力します。

1.OK キー	入力した文字を確定します。
2. クリアキー	カーソル位置の文字を削除します。文末のときは、1 つ前の文字を削除します。
3. 戻るキー	入力画面を呼び出した画面に戻ります。
4. カーソルキー	入力位置の選択や、文字一覧の中から文字選択をします。
5. テンキー	入力する文字を選択します。
6. リセットキー	入力した文字を全てリセットして待機画面に戻ります。
7. 右セレクトキー	入力する文字の種類を選択します。([**入力文字**] 表示時のみ)

入力文字の選択

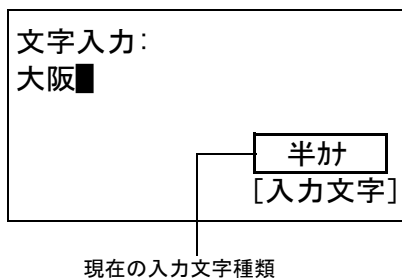
- 通常入力画面の場合

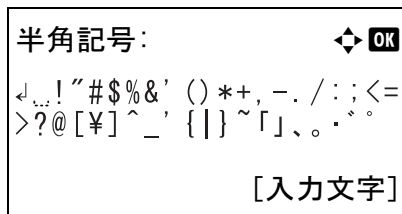
入力文字には、次の 9 種類を選択できます。

全かな（全角ひらがな）	全角ひらがなを入力します。
全カナ（全角カタカナ）	全角カタカナを入力します。
半ｶﾅ（半角カタカナ）	半角カタカナを入力します。
全英数（全角英数）	全角英数を入力します。
半英数（半角英数）	半角英数を入力します。
全 数（全角数字）	全角数字を入力します。
半 数（半角数字）	半角数字を入力します。
全角記号	全角記号を入力します。
半角記号	半角記号を入力します。

文字入力画面で **[入力文字]**（右セレクトキー）を押して、表示されるメニューの中から、△ または ▽ キーをつかって入力したい文字の種類を選択して、OK を押してください。

付録

参考：文字入力中にテンキーの # を押すと、直接全角記号画面や半角記号画面を表示することができます。

- ふりがな入力画面の場合

入力文字には、次の 4 種類を選択できます。

半ｶﾅ（半角カタカナ）	半角カタカナを入力します。
半英数（半角英数）	半角英数を入力します。
半 数（半角数字）	半角数字を入力します。
半角記号	半角記号を入力します。

現在の入力文字種類

文字入力画面で [**入力文字**]（右セレクトキー）を押して、表示されるメニューの中から、△ または ▽ キーをつかって入力したい文字の種類を選択して、OK を押してください。

半角記号:
↲ ␣ ! ″ # $ % & ’ ( ) * + , − . / : ; < =
> ? @ [¥] ^ _ ‘ { | } ~ 「 」 、 。 ・ ゛ ゜
[入力文字]

参考：文字入力中にテンキーの # を押すと、直接半角記号画面を表示することができます。

文字の入力

入力文字を選択したら、以下の手順で文字を入力してください。

ひらがな・カタカナを入力する場合

下記の表を参照して、入力したい文字に対応しているキーを、その文字が表示されるまで押してください。

入力キー	文字入力モード	表示される文字
あ .@ 1	全角ひらがな	あ い う え お ぁ ぃ ぅ ぇ ぉ
	全角カタカナ 半角カタカナ	ア イ ウ エ オ ァ ィ ゥ ェ ォ
か ABC 2	全角ひらがな	か き く け こ
	全角カタカナ 半角カタカナ	カ キ ク ケ コ
さ DEF 3	全角ひらがな	さ し す せ そ
	全角カタカナ 半角カタカナ	サ シ ス セ ソ
た GHI 4	全角ひらがな	た ち つ て と っ
	全角カタカナ 半角カタカナ	タ チ ツ テ ト ッ
な JKL 5	全角ひらがな	な に ぬ ね の
	全角カタカナ 半角カタカナ	ナ ニ ヌ ネ ノ
は MNO 6	全角ひらがな	は ひ ふ へ ほ
	全角カタカナ 半角カタカナ	ハ ヒ フ ヘ ホ
ま PQRS 7	全角ひらがな	ま み む め も
	全角カタカナ 半角カタカナ	マ ミ ム メ モ
や TUV 8	全角ひらがな	や ゆ よ ゃ ゅ ょ
	全角カタカナ 半角カタカナ	ヤ ユ ヨ ャ ュ ョ
ら WXYZ 9	全角ひらがな	ら り る れ ろ
	全角カタカナ 半角カタカナ	ラ リ ル レ ロ
わをん、。 0	全角ひらがな	わ を ん ゎ 、。ー ・ ～ ！ ？ （スペース）
	全角カタカナ 半角カタカナ	ワ ヲ ン ヮ 、。ー ・ ～ ！ ？ （スペース）

付録

入力キー	文字入力モード	表示される文字
゛゜ a↔A */.	全角ひらがな	濁点・半濁点→大文字 / 小文字変換 例）つ→づ→っ→つ・・・ は→ば→ぱ→は・・・
	全角カタカナ	濁点・半濁点→大文字 / 小文字変換 例）ツ→ヅ→ッ→ツ・・・ ハ→バ→パ→ハ・・・
	半角カタカナ	カーソルが文字にあるときは大文字 / 小文字変換 例）ﾂ→ｯ カーソルが文字に無いときは濁点・半濁点入力 例）゛→゜→゛・・・
記号 #	全角ひらがな 全角カタカナ 半角カタカナ	記号入力

異なるキーで入力する文字は、続けて入力できます。同じキーで入力する文字を続けて入力するときは、カーソルキーで入力位置を次に移動してから入力を行ってください。

行末からカーソルキーで入力位置を後ろにずらした位置に文字を入力すると、その間にはスペースが自動で入力されます。

アルファベットと数字を入力する場合

下記の表を参照して、入力したい文字に対応しているキーを、その文字が表示されるまで押してください。

入力キー	文字入力モード	表示される文字
あ .@ 1	全角英数 半角英数	. @ - _ / : ~ 1
	全角数字 半角数字	1
か ABC 2	全角英数 半角英数	a b c A B C 2
	全角数字 半角数字	2
さ DEF 3	全角英数 半角英数	d e f D E F 3
	全角数字 半角数字	3
た GHI 4	全角英数 半角英数	g h i G H I 4
	全角数字 半角数字	4
な JKL 5	全角英数 半角英数	j k l J K L 5
	全角数字 半角数字	5
は MNO 6	全角英数 半角英数	m n o M N O 6
	全角数字 半角数字	6
ま PQRS 7	全角英数 半角英数	p q r s P Q R S 7
	全角数字 半角数字	7
や TUV 8	全角英数 半角英数	t u v T U V 8
	全角数字 半角数字	8
ら WXYZ 9	全角英数 半角英数	w x y z W X Y Z 9
	全角数字 半角数字	9
わをん、。 0	全角英数 半角英数	. , - _ ' ! ? (スペース) 0
	全角数字 半角数字	0

入力キー	文字入力モード	表示される文字
゛゜ a↔A */.	全角英数 半角英数	大文字 / 小文字の変換を行います
	全角数字 半角数字	* . ˙
記号 #	全角英数 半角英数	記号入力
	全角数字 半角数字	#

† 入力文字の選択があるときは '*' が、数字入力のみで入力文字の選択が無いときは、'.' が入力されます。

異なるキーで入力する文字は、続けて入力できます。同じキーで入力する文字を続けて入力するときは、カーソルキーで入力位置を次に移動してから入力を行ってください。

行末からカーソルキーで入力位置を後ろにずらした位置に文字を入力すると、その間にはスペースが自動で入力されます。

記号を入力する場合

[**入力文字**]（右セレクトキー）を押して [**全角記号**] または [**半角記号**] を選択して、全角記号画面または半角記号画面を表示します。カーソルキーを使って入力したい記号を選択して、OK を押してください。

半角記号:
!"#$%&'()*+,-./:;<=
>?@[¥]^_'{|}~「」、。・゛゜
［入力文字］

テンキーの # を押して、画面を文字入力画面→全角記号画面→半角記号画面→文字入力画面・・・と切り替える事もできます。

付録

ログイン操作方法の設定で、[文字選択] を選択しているときの入力

ユーザー管理が有効のときに表示されるログイン画面では、設定により入力方法が異なる場合があります。（ログイン操作方法の設定については**本体使用説明書**を参照してください。）

画面に文字パレットが表示される場合は、カーソルキーを使って表示された文字の中から入力したい文字を選択して、OK を押して入力してください。

参考：数字は、テンキーの数字キーを押すことで、直接入力する事ができます。

仕様（ファクス機能）

形式	LS-1128MFP
相互通信	G3
適用回線	加入電話回線、F ネット
伝送時間	3 秒以下（33600 bps、ITU-T A4 #1 chart）
伝送速度	33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/ 12000/9600/7200/4800/2400 bps
符号化方式	JBIG/MMR/MR/MH
誤り訂正	ECM
原稿サイズ	最大原稿幅：215 mm、最大原稿長さ：355.6 mm
原稿自動給紙枚数	最大 50 枚（オプションの原稿送り装置使用時）
走査線密度	主走査 × 副走査 200 × 100 dpi ノーマル（8 dot/mm × 3.85 line/mm） 200 × 200 dpi ファイン（8 dot/mm × 7.7 line/mm） 200 × 400 dpi スーパーファイン（8 dot/mm × 15.4 line/mm） 400 × 400 dpi ウルトラファイン（16 dot/mm × 15.4 line/mm）
印刷解像度	600 × 600 dpi
中間調	256 階調（誤差拡散）
ワンタッチキー	22 件
同報送信	最大 100 宛先
代行受信	256 枚以上（ITU-T A4 #1 使用時）
画像蓄積用メモリ容量	標準メモリ（3.5 MB）（ファクス受信原稿用）
直流抵抗値	286 Ω
印刷レポート類	送信結果レポート、受信結果レポート、通信管理レポート、ステータスページ

参考：機械の仕様は予告なく変更されることがあります。

付録

メニュー構成一覧

操作パネル上の各機能キーを押したときのメニュー構成は、次のとおりになっています。本機を操作する上での参考にしてください。

システム
メニュー/
カウンタキー
レポート
レポート印刷
ステータスページ
管理レポート設定
ファクス発信レポート
ファクス着信レポート
結果通知設定
送信結果
ファクス受信結果
共通設定
音設定
ファクススピーカ音
ファクスモニタ音
原稿 / 用紙設定
カセット 1 設定
カセット 2 設定
カセット 3 設定
日時設定
日付 / 時刻
時差
サマータイム
タイマー設定
使用禁止時刻設定
ファクス
送受信共通設定
暗号鍵
送信設定
発信元記録
自局名称
自局名称（フリガナ）
自局ファクス ID
自局ファクス番号
ファクス回線設定
リダイヤル回数
受信設定
ファクス用紙種類
ベル（普通）
ベル（留守番電話）
ベル（ファクス / 電話）
転送設定
転送
転送先
ファイル形式
件名付加情報
FTP 暗号送信
転送時刻
文書名入力
印刷

次ページへ続く

付録

前ページからの続き
ファクス
受信設定
受信方式
受信日時記録
2 in 1 印刷
一括印刷
リモート切替ダイヤル
F ネット
ダイヤルイン
暗号受信
両面印刷
通信制限設定
送信制限
受信制限
通信許可番号リスト
通信許可 ID リスト
通信拒否番号リスト
文書ボックス
F コードボックス
ポーリングボックス
送信済み文書削除
上書き保存許可
宛先編集
アドレス帳
リスト印刷
調整 /
メンテナンス
サービス設定
リモート診断設定

出荷時設定値一覧表

ファクス機能の設定範囲と出荷時設定値は次のとおりです。

項目	設定範囲	出荷時設定値
通信管理レポート（ファクス発信レポート）	設定しない、設定する	設定する
通信管理レポート（ファクス着信レポート）	設定しない、設定する	設定する
送信結果レポート（ファクス）	設定しない、エラー時のみ、設定する	エラー時のみ
送信画像の添付	設定しない、設定する	設定する
受信結果レポート	設定しない、エラー / 転送時のみ、設定する	設定しない
受信結果通知方法	レポート印刷、メールアドレス帳、直接入力	レポート印刷
スピーカ音量	1 小、2 中、3 大、0 消音	2 中
モニタ音量	1 小、2 中、3 大、0 消音	2 中
自局名登録	最大 16 文字	未登録
自局名登録（フリガナ）	最大 32 文字	未登録
自局ファクス番号登録	最大 20 桁	未登録
自局ファクス ID 登録	4 桁（0000 ～ 9999）	0000
回線設定	プッシュ回線、ダイヤル回線（10PPS）、ダイヤル回線（20PPS）	プッシュ回線
受信方式	自動（普通）、自動（ファクス / 電話）、自動（留守番電話）、手動	自動（普通）
ファクス専用自動受信ベル回数	1 ～ 15 回	2 回
ファクス / 留守番電話自動切替受信ベル回数	1 ～ 15 回	10 回
ファクス / 電話自動切替受信ベル回数	0 ～ 15 回	0 回
リモート切替ダイヤル	2 桁（00 ～ 99）	55
ダイヤルイン	設定しない、設定する	設定しない
ダイヤルイン番号	4 桁（0000 ～ 9999）	未登録
F ネット	設定しない、設定する	設定しない
暗号通信（暗号受信）	設定する（暗号鍵番号 01 ～ 20）、設定しない	設定しない
暗号通信（暗号鍵の登録）	0 ～ 9、A ～ F の 16 桁（暗号鍵番号 01 ～ 20）	未登録
発信元記録	設定しない、設定あり（原稿外側、原稿内側）	設定あり（原稿外側）
受信用紙種類	全用紙種類、普通紙、再生紙、ボンド紙、カラー紙、上質紙、カスタム 1 ～ 8	全用紙種類
受信日時記録	設定しない、設定する	設定しない
両面受信印刷	設定しない、設定する	設定しない
2in1 受信印刷	設定しない、設定する	設定しない

項目	設定範囲	出荷時設定値
送信制限設定	制限しない、許可リスト＋アドレス帳	制限しない
受信制限設定	制限しない、許可リスト＋アドレス帳、拒否リスト	制限しない
許可ファクス番号登録	最大 20 桁　（登録件数は最大 50 件）	未登録
拒否ファクス番号登録	最大 20 桁　（登録件数は最大 50 件）	未登録
許可 ID 番号登録	0000 ～ 9999　（登録件数は最大 25 件）	未登録
リダイヤル回数	0 ～ 14 回	3 回
リモート診断	設定しない、設定する	設定しない
リモート診断 ID	4 桁（0000 ～ 9999）	0000
メモリ転送設定	転送しない、すべての受信に適用する、条件ごとに設定を変える	転送しない
送信開始速度	33600 bps、14400 bps、9600 bps	33600 bps
ECM	設定しない、設定する	設定する
暗号送信設定	設定しない、設定する	設定しない
送信先暗号用ボックス	使用しない、使用する	使用しない
ポーリング送信後原稿の削除	設定しない、設定する	設定しない
上書き保存許可設定	禁止する、許可する	許可する

受信サイズと印刷用紙優先順位表

受信した原稿のサイズと、同サイズ同方向の用紙がカセットにセットされていない場合、本機が印刷の際に自動で選択する用紙の優先順位は次の表のとおりです。

等倍優先

† 受信サイズと用紙の向きが異なるため、画像を自動的に 90° 回転して印刷します。

は 2 枚の用紙に分割して印刷されることを示しています。

参考：「受信用紙種類」で用紙の種類を選択している場合は、用紙種類が一致する給紙元から印刷します。（6-11 ページ参照）

「受信用紙種類」で **[全用紙種類]** を選択している場合でも、ファクスの印刷に使用できない用紙種類（OHP フィルムなど）がセットされた給紙元からは印刷できません。

縮小受信

† 受信サイズと用紙の向きが異なるため、画像を自動的に 90°回転して印刷します。

参考 :「受信用紙種類」で用紙の種類を選択している場合は、用紙種類が一致する給紙元から印刷します。(6-11 ページ参照)

「受信用紙種類」で **[全用紙種類]** を選択している場合でも、ファクスの印刷に使用できない用紙種類（OHP フィルムなど）がセットされた給紙元からは印刷できません。

区点コード表

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0100			、	。	，	．	・	：	；	？
0110	！	゛	゜	´	｀	¨	＾	￣	＿	ヽ
0120	ヾ	ゝ	ゞ	〃	仝	々	〆	〇	ー	―
0130	‐	／	＼	～	∥	｜	…	‥	‘	’
0140	“	”	（	）	〔	〕	［	］	｛	｝
0150	〈	〉	《	》	「	」	『	』	【	】
0160	＋	－	±	×	÷	＝	≠	＜	＞	≦
0170	≧	∞	∴	♂	♀	°	′	″	℃	￥
0180	＄	￠	￡	％	＃	＆	＊	＠	§	☆
0190	★	○	●	◎	◇					
0200		◆	□	■	△	▲	▽	▼	※	〒
0210	→	←	↑	↓	〓					
0220							∈	∋	⊆	⊇
0230	⊂	⊃	∪	∩						
0240			∧	∨	￢	⇒	⇔	∀	∃	
0250										
0260	∠	⊥	⌒	∂	∇	≡	≒	≪	≫	√
0270	∽	∝	∵	∫	∬					
0280			Å	‰	♯	♭	♪	†	‡	¶
0290					◯					
0300										
0310							０	１	２	３
0320	４	５	６	７	８	９				
0330				Ａ	Ｂ	Ｃ	Ｄ	Ｅ	Ｆ	Ｇ
0340	Ｈ	Ｉ	Ｊ	Ｋ	Ｌ	Ｍ	Ｎ	Ｏ	Ｐ	Ｑ

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0350	Ｒ	Ｓ	Ｔ	Ｕ	Ｖ	Ｗ	Ｘ	Ｙ	Ｚ	
0360						ａ	ｂ	ｃ	ｄ	ｅ
0370	ｆ	ｇ	ｈ	ｉ	ｊ	ｋ	ｌ	ｍ	ｎ	ｏ
0380	ｐ	ｑ	ｒ	ｓ	ｔ	ｕ	ｖ	ｗ	ｘ	ｙ
0390	ｚ									
0400		ぁ	あ	ぃ	い	ぅ	う	ぇ	え	ぉ
0410	お	か	が	き	ぎ	く	ぐ	け	げ	こ
0420	ご	さ	ざ	し	じ	す	ず	せ	ぜ	そ
0430	ぞ	た	だ	ち	ぢ	っ	つ	づ	て	で
0440	と	ど	な	に	ぬ	ね	の	は	ば	ぱ
0450	ひ	び	ぴ	ふ	ぶ	ぷ	へ	べ	ぺ	ほ
0460	ぼ	ぽ	ま	み	む	め	も	ゃ	や	ゅ
0470	ゆ	ょ	よ	ら	り	る	れ	ろ	ゎ	わ
0480	ゐ	ゑ	を	ん						
0490										
0500		ァ	ア	ィ	イ	ゥ	ウ	ェ	エ	ォ
0510	オ	カ	ガ	キ	ギ	ク	グ	ケ	ゲ	コ
0520	ゴ	サ	ザ	シ	ジ	ス	ズ	セ	ゼ	ソ
0530	ゾ	タ	ダ	チ	ヂ	ッ	ツ	ヅ	テ	デ
0540	ト	ド	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ	バ	パ
0550	ヒ	ビ	ピ	フ	ブ	プ	ヘ	ベ	ペ	ホ
0560	ボ	ポ	マ	ミ	ム	メ	モ	ャ	ヤ	ュ
0570	ユ	ョ	ヨ	ラ	リ	ル	レ	ロ	ヮ	ワ
0580	ヰ	ヱ	ヲ	ン	ヴ	ヵ	ヶ			
0590										

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0600		Α	Β	Γ	Δ	Ε	Ζ	Η	Θ	Ι
0610	Κ	Λ	Μ	Ν	Ξ	Ο	Π	Ρ	Σ	Τ
0620	Υ	Φ	Χ	Ψ	Ω					
0630				α	β	γ	δ	ε	ζ	η
0640	θ	ι	κ	λ	μ	ν	ξ	ο	π	ρ
0650	σ	τ	υ	φ	χ	ψ	ω			
0660										
0670										
0680										
0690										
0700		А	Б	В	Г	Д	Е	Ё	Ж	З
0710	И	Й	К	Л	М	Н	О	П	Р	С
0720	Т	У	Ф	Х	Ц	Ч	Ш	Щ	Ъ	Ы
0730	Ь	Э	Ю	Я						
0740										а
0750	б	в	г	д	е	ё	ж	з	и	й
0760	к	л	м	н	о	п	р	с	т	у
0770	ф	х	ц	ч	ш	щ	ъ	ы	ь	э
0780	ю	я								
0790										
0800										
0810										
0820										
0830										
0840										

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ア	1600		亜	唖	娃	阿	哀	愛	挨	姶	逢
	1610	葵	茜	穐	悪	握	渥	旭	葦	芦	鯵
	1620	梓	圧	斡	扱	宛	姐	虻	飴	絢	綾
	1630	鮎	或	粟	袷	安	庵	按	暗	案	闇
	1640	鞍	杏	以	伊	位	依	偉	囲	夷	委
イ	1650	威	尉	惟	意	慰	易	椅	為	畏	異
	1660	移	維	緯	胃	萎	衣	謂	違	遺	医
	1670	井	亥	域	育	郁	磯	一	壱	溢	逸
	1680	稲	茨	芋	鰯	允	印	咽	員	因	姻
	1690	引	飲	淫	胤	蔭					
	1700		院	陰	隠	韻	吋	右	宇	烏	羽
ウ	1710	迂	雨	卯	鵜	窺	丑	碓	臼	渦	嘘
	1720	唄	欝	蔚	鰻	姥	厩	浦	瓜	閏	噂
	1730	云	運	雲	荏	餌	叡	営	嬰	影	映
エ	1740	曳	栄	永	泳	洩	瑛	盈	穎	頴	英
	1750	衛	詠	鋭	液	疫	益	駅	悦	謁	越
	1760	閲	榎	厭	円	園	堰	奄	宴	延	怨
	1770	掩	援	沿	演	炎	焔	煙	燕	猿	縁
	1780	艶	苑	薗	遠	鉛	鴛	塩	於	汚	甥
オ	1790	凹	央	奥	往	応					
	1800		押	旺	横	欧	殴	王	翁	襖	鴬
	1810	鴎	黄	岡	沖	荻	億	屋	憶	臆	桶
	1820	牡	乙	俺	卸	恩	温	穏	音	下	化
カ	1830	仮	何	伽	価	佳	加	可	嘉	夏	嫁
	1840	家	寡	科	暇	果	架	歌	河	火	珂

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
カ	1850	禍	禾	稼	箇	花	苛	茄	荷	華	菓
	1860	蝦	課	嘩	貨	迦	過	霞	蚊	俄	峨
	1870	我	牙	画	臥	芽	蛾	賀	雅	餓	駕
	1880	介	会	解	回	塊	壊	廻	快	怪	悔
	1890	恢	懐	戒	拐	改					
	1900		魁	晦	械	海	灰	界	皆	絵	芥
	1910	蟹	開	階	貝	凱	劾	外	咳	害	崖
	1920	慨	概	涯	碍	蓋	街	該	鎧	骸	浬
	1930	馨	蛙	垣	柿	蛎	鈎	劃	嚇	各	廓
	1940	拡	撹	格	核	殻	獲	確	穫	覚	角
	1950	赫	較	郭	閣	隔	革	学	岳	楽	額
	1960	顎	掛	笠	樫	橿	梶	鰍	潟	割	喝
	1970	恰	括	活	渇	滑	葛	褐	轄	且	鰹
	1980	叶	椛	樺	鞄	株	兜	竃	蒲	釜	鎌
	1990	噛	鴨	栢	茅	萱					
	2000		粥	刈	苅	瓦	乾	侃	冠	寒	刊
	2010	勘	勧	巻	喚	堪	姦	完	官	寛	干
	2020	幹	患	感	慣	憾	換	敢	柑	桓	棺
	2030	款	歓	汗	漢	澗	潅	環	甘	監	看
	2040	竿	管	簡	緩	缶	翰	肝	艦	莞	観
	2050	諌	貫	還	鑑	間	閑	関	陥	韓	館
	2060	舘	丸	含	岸	巌	玩	癌	眼	岩	翫
	2070	贋	雁	頑	顔	願	企	伎	危	喜	器
キ	2080	基	奇	嬉	寄	岐	希	幾	忌	揮	机
	2090	旗	既	期	棋	棄					

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
キ	2100		機	帰	毅	気	汽	畿	祈	季	稀
	2110	紀	徽	規	記	貴	起	軌	輝	飢	騎
	2120	鬼	亀	偽	儀	妓	宜	戯	技	擬	欺
	2130	犠	疑	祇	義	蟻	誼	議	掬	菊	鞠
	2140	吉	吃	喫	桔	橘	詰	砧	杵	黍	却
	2150	客	脚	虐	逆	丘	久	仇	休	及	吸
	2160	宮	弓	急	救	朽	求	汲	泣	灸	球
	2170	究	窮	笈	級	糾	給	旧	牛	去	居
	2180	巨	拒	拠	挙	渠	虚	許	距	鋸	漁
	2190	禦	魚	亨	享	京					
	2200		供	侠	僑	兇	競	共	凶	協	匡
	2210	卿	叫	喬	境	峡	強	彊	怯	恐	恭
	2220	挟	教	橋	況	狂	狭	矯	胸	脅	興
	2230	蕎	郷	鏡	響	饗	驚	仰	凝	尭	暁
	2240	業	局	曲	極	玉	桐	粁	僅	勤	均
	2250	巾	錦	斤	欣	欽	琴	禁	禽	筋	緊
	2260	芹	菌	衿	襟	謹	近	金	吟	銀	九
ク	2270	倶	句	区	狗	玖	矩	苦	躯	駆	駈
	2280	駒	具	愚	虞	喰	空	偶	寓	遇	隅
	2290	串	櫛	釧	屑	屈					
	2300		掘	窟	沓	靴	轡	窪	熊	隈	粂
	2310	栗	繰	桑	鍬	勲	君	薫	訓	群	軍
	2320	郡	卦	袈	祁	係	傾	刑	兄	啓	圭
ケ	2330	珪	型	契	形	径	恵	慶	慧	憩	掲
	2340	携	敬	景	桂	渓	畦	稽	系	経	継

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ケ	2350	繋	罫	茎	荊	蛍	計	詣	警	軽	頚
	2360	鶏	芸	迎	鯨	劇	戟	撃	激	隙	桁
	2370	傑	欠	決	潔	穴	結	血	訣	月	件
	2380	倹	倦	健	兼	券	剣	喧	圏	堅	嫌
	2390	建	憲	懸	拳	捲					
	2400		検	権	牽	犬	献	研	硯	絹	県
	2410	肩	見	謙	賢	軒	遣	鍵	険	顕	験
	2420	鹸	元	原	厳	幻	弦	減	源	玄	現
	2430	絃	舷	言	諺	限	乎	個	古	呼	固
コ	2440	姑	孤	己	庫	弧	戸	故	枯	湖	狐
	2450	糊	袴	股	胡	菰	虎	誇	跨	鈷	雇
	2460	顧	鼓	五	互	伍	午	呉	吾	娯	後
	2470	御	悟	梧	檎	瑚	碁	語	誤	護	醐
	2480	乞	鯉	交	佼	侯	候	倖	光	公	功
	2490	効	勾	厚	口	向					
	2500		后	喉	坑	垢	好	孔	孝	宏	工
	2510	巧	巷	幸	広	庚	康	弘	恒	慌	抗
	2520	拘	控	攻	昂	晃	更	杭	校	梗	構
	2530	江	洪	浩	港	溝	甲	皇	硬	稿	糠
	2540	紅	紘	絞	綱	耕	考	肯	肱	腔	膏
	2550	航	荒	行	衡	講	貢	購	郊	酵	鉱
	2560	砿	鋼	閤	降	項	香	高	鴻	剛	劫
	2570	号	合	壕	拷	濠	豪	轟	麹	克	刻
	2580	告	国	穀	酷	鵠	黒	獄	漉	腰	甑
	2590	忽	惚	骨	狛	込					

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
コ	2600		此	頃	今	困	坤	墾	婚	恨	懇
	2610	昏	昆	根	梱	混	痕	紺	艮	魂	些
サ	2620	佐	叉	唆	嵯	左	差	査	沙	瑳	砂
	2630	詐	鎖	裟	坐	座	挫	債	催	再	最
	2640	哉	塞	妻	宰	彩	才	採	栽	歳	済
	2650	災	采	犀	砕	砦	祭	斎	細	菜	裁
	2660	載	際	剤	在	材	罪	財	冴	坂	阪
	2670	堺	榊	肴	咲	崎	埼	碕	鷺	作	削
	2680	咋	搾	昨	朔	柵	窄	策	索	錯	桜
	2690	鮭	笹	匙	冊	刷					
	2700		察	拶	撮	擦	札	殺	薩	雑	皐
	2710	鯖	捌	錆	鮫	皿	晒	三	傘	参	山
	2720	惨	撒	散	桟	燦	珊	産	算	纂	蚕
	2730	讃	賛	酸	餐	斬	暫	残	仕	仔	伺
シ	2740	使	刺	司	史	嗣	四	士	始	姉	姿
	2750	子	屍	市	師	志	思	指	支	孜	斯
	2760	施	旨	枝	止	死	氏	獅	祉	私	糸
	2770	紙	紫	肢	脂	至	視	詞	詩	試	誌
	2780	諮	資	賜	雌	飼	歯	事	似	侍	児
	2790	字	寺	慈	持	時					
	2800		次	滋	治	爾	璽	痔	磁	示	而
	2810	耳	自	蒔	辞	汐	鹿	式	識	鴫	竺
	2820	軸	宍	雫	七	叱	執	失	嫉	室	悉
	2830	湿	漆	疾	質	実	蔀	篠	偲	柴	芝
	2840	屡	蕊	縞	舎	写	射	捨	赦	斜	煮

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
シ	2850	社	紗	者	謝	車	遮	蛇	邪	借	勺
	2860	尺	杓	灼	爵	酌	釈	錫	若	寂	弱
	2870	惹	主	取	守	手	朱	殊	狩	珠	種
	2880	腫	趣	酒	首	儒	受	呪	寿	授	樹
	2890	綬	需	囚	収	周					
	2900		宗	就	州	修	愁	拾	洲	秀	秋
	2910	終	繍	習	臭	舟	蒐	衆	襲	讐	蹴
	2920	輯	週	酋	酬	集	醜	什	住	充	十
	2930	従	戎	柔	汁	渋	獣	縦	重	銃	叔
	2940	夙	宿	淑	祝	縮	粛	塾	熟	出	術
	2950	述	俊	峻	春	瞬	竣	舜	駿	准	循
	2960	旬	楯	殉	淳	準	潤	盾	純	巡	遵
	2970	醇	順	処	初	所	暑	曙	渚	庶	緒
	2980	署	書	薯	藷	諸	助	叙	女	序	徐
	2990	恕	鋤	除	傷	償					
	3000		勝	匠	升	召	哨	商	唱	嘗	奨
	3010	妾	娼	宵	将	小	少	尚	庄	床	廠
	3020	彰	承	抄	招	掌	捷	昇	昌	昭	晶
	3030	松	梢	樟	樵	沼	消	渉	湘	焼	焦
	3040	照	症	省	硝	礁	祥	称	章	笑	粧
	3050	紹	肖	菖	蒋	蕉	衝	裳	訟	証	詔
	3060	詳	象	賞	醤	鉦	鍾	鐘	障	鞘	上
	3070	丈	丞	乗	冗	剰	城	場	壌	嬢	常
	3080	情	擾	条	杖	浄	状	畳	穣	蒸	譲
	3090	醸	錠	嘱	埴	飾					

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
シ	3100		拭	植	殖	燭	織	職	色	触	食
	3110	蝕	辱	尻	伸	信	侵	唇	娠	寝	審
	3120	心	慎	振	新	晋	森	榛	浸	深	申
	3130	疹	真	神	秦	紳	臣	芯	薪	親	診
	3140	身	辛	進	針	震	人	仁	刃	塵	壬
	3150	尋	甚	尽	腎	訊	迅	陣	靭	笥	諏
ス	3160	須	酢	図	厨	逗	吹	垂	帥	推	水
	3170	炊	睡	粋	翠	衰	遂	酔	錐	錘	随
	3180	瑞	髄	崇	嵩	数	枢	趨	雛	据	杉
	3190	椙	菅	頗	雀	裾					
	3200		澄	摺	寸	世	瀬	畝	是	凄	制
セ	3210	勢	姓	征	性	成	政	整	星	晴	棲
	3220	栖	正	清	牲	生	盛	精	聖	声	製
	3230	西	誠	誓	請	逝	醒	青	静	斉	税
	3240	脆	隻	席	惜	戚	斥	昔	析	石	積
	3250	籍	績	脊	責	赤	跡	蹟	碩	切	拙
	3260	接	摂	折	設	窃	節	説	雪	絶	舌
	3270	蝉	仙	先	千	占	宣	専	尖	川	戦
	3280	扇	撰	栓	栴	泉	浅	洗	染	潜	煎
	3290	煽	旋	穿	箭	線					
	3300		繊	羨	腺	舛	船	薦	詮	賎	践
	3310	選	遷	銭	銑	閃	鮮	前	善	漸	然
	3320	全	禅	繕	膳	糎	噌	塑	岨	措	曾
ソ	3330	曽	楚	狙	疏	疎	礎	祖	租	粗	素
	3340	組	蘇	訴	阻	遡	鼠	僧	創	双	叢

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ソ	3350	倉	喪	壮	奏	爽	宋	層	匝	惣	想
	3360	捜	掃	挿	掻	操	早	曹	巣	槍	槽
	3370	漕	燥	争	痩	相	窓	糟	総	綜	聡
	3380	草	荘	葬	蒼	藻	装	走	送	遭	鎗
	3390	霜	騒	像	増	憎					
	3400		臓	蔵	贈	造	促	側	則	即	息
	3410	捉	束	測	足	速	俗	属	賊	族	続
	3420	卒	袖	其	揃	存	孫	尊	損	村	遜
タ	3430	他	多	太	汰	詑	唾	堕	妥	惰	打
	3440	柁	舵	楕	陀	駄	騨	体	堆	対	耐
	3450	岱	帯	待	怠	態	戴	替	泰	滞	胎
	3460	腿	苔	袋	貸	退	逮	隊	黛	鯛	代
	3470	台	大	第	醍	題	鷹	滝	瀧	卓	啄
	3480	宅	托	択	拓	沢	濯	琢	託	鐸	濁
	3490	諾	茸	凧	蛸	只					
	3500		叩	但	達	辰	奪	脱	巽	竪	辿
	3510	棚	谷	狸	鱈	樽	誰	丹	単	嘆	坦
	3520	担	探	旦	歎	淡	湛	炭	短	端	箪
	3530	綻	耽	胆	蛋	誕	鍛	団	壇	弾	断
	3540	暖	檀	段	男	談	値	知	地	弛	恥
チ	3550	智	池	痴	稚	置	致	蜘	遅	馳	築
	3560	畜	竹	筑	蓄	逐	秩	窒	茶	嫡	着
	3570	中	仲	宙	忠	抽	昼	柱	注	虫	衷
	3580	註	酎	鋳	駐	樗	瀦	猪	苧	著	貯
	3590	丁	兆	凋	喋	寵					

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
チ	3600		帖	帳	庁	弔	張	彫	徴	懲	挑
	3610	暢	朝	潮	牒	町	眺	聴	脹	腸	蝶
	3620	調	諜	超	跳	銚	長	頂	鳥	勅	捗
	3630	直	朕	沈	珍	賃	鎮	陳	津	墜	椎
ツ	3640	槌	追	鎚	痛	通	塚	栂	掴	槻	佃
	3650	漬	柘	辻	蔦	綴	鍔	椿	潰	坪	壷
	3660	嬬	紬	爪	吊	釣	鶴	亭	低	停	偵
テ	3670	剃	貞	呈	堤	定	帝	底	庭	廷	弟
	3680	悌	抵	挺	提	梯	汀	碇	禎	程	締
	3690	艇	訂	諦	蹄	逓					
	3700		邸	鄭	釘	鼎	泥	摘	擢	敵	滴
	3710	的	笛	適	鏑	溺	哲	徹	撤	轍	迭
	3720	鉄	典	填	天	展	店	添	纏	甜	貼
	3730	転	顛	点	伝	殿	澱	田	電	兎	吐
ト	3740	堵	塗	妬	屠	徒	斗	杜	渡	登	菟
	3750	賭	途	都	鍍	砥	砺	努	度	土	奴
	3760	怒	倒	党	冬	凍	刀	唐	塔	塘	套
	3770	宕	島	嶋	悼	投	搭	東	桃	梼	棟
	3780	盗	淘	湯	涛	灯	燈	当	痘	祷	等
	3790	答	筒	糖	統	到					
	3800		董	蕩	藤	討	謄	豆	踏	逃	透
	3810	鐙	陶	頭	騰	闘	働	動	同	堂	導
	3820	憧	撞	洞	瞳	童	胴	萄	道	銅	峠
	3830	鴇	匿	得	徳	涜	特	督	禿	篤	毒
	3840	独	読	栃	橡	凸	突	椴	届	鳶	苫

付録

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ト	3850	寅	酉	瀞	噸	屯	惇	敦	沌	豚	遁
	3860	頓	呑	曇	鈍	奈	那	内	乍	凪	薙
ナ	3870	謎	灘	捺	鍋	楢	馴	縄	畷	南	楠
	3880	軟	難	汝	二	尼	弐	迩	匂	賑	肉
ニ	3890	虹	廿	日	乳	入					
ヌ	3900		如	尿	韮	任	妊	忍	認	濡	禰
ネ	3910	祢	寧	葱	猫	熱	年	念	捻	撚	燃
	3920	粘	乃	廼	之	埜	嚢	悩	濃	納	能
ノ	3930	脳	膿	農	覗	蚤	巴	把	播	覇	杷
ハ	3940	波	派	琶	破	婆	罵	芭	馬	俳	廃
	3950	拝	排	敗	杯	盃	牌	背	肺	輩	配
	3960	倍	培	媒	梅	楳	煤	狽	買	売	賠
	3970	陪	這	蝿	秤	矧	萩	伯	剥	博	拍
	3980	柏	泊	白	箔	粕	舶	薄	迫	曝	漠
	3990	爆	縛	莫	駁	麦					
	4000		函	箱	硲	箸	肇	筈	櫨	幡	肌
	4010	畑	畠	八	鉢	溌	発	醗	髪	伐	罰
	4020	抜	筏	閥	鳩	噺	塙	蛤	隼	伴	判
	4030	半	反	叛	帆	搬	斑	板	氾	汎	版
	4040	犯	班	畔	繁	般	藩	販	範	釆	煩
	4050	頒	飯	挽	晩	番	盤	磐	蕃	蛮	匪
ヒ	4060	卑	否	妃	庇	彼	悲	扉	批	披	斐
	4070	比	泌	疲	皮	碑	秘	緋	罷	肥	被
	4080	誹	費	避	非	飛	樋	簸	備	尾	微
	4090	枇	毘	琵	眉	美					

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ヒ	4100		鼻	柊	稗	匹	疋	髭	彦	膝	菱
	4110	肘	弼	必	畢	筆	逼	桧	姫	媛	紐
	4120	百	謬	俵	彪	標	氷	漂	瓢	票	表
	4130	評	豹	廟	描	病	秒	苗	錨	鋲	蒜
	4140	蛭	鰭	品	彬	斌	浜	瀕	貧	賓	頻
	4150	敏	瓶	不	付	埠	夫	婦	富	冨	布
フ	4160	府	怖	扶	敷	斧	普	浮	父	符	腐
	4170	膚	芙	譜	負	賦	赴	阜	附	侮	撫
	4180	武	舞	葡	蕪	部	封	楓	風	葺	蕗
	4190	伏	副	復	幅	服					
	4200		福	腹	複	覆	淵	弗	払	沸	仏
	4210	物	鮒	分	吻	噴	墳	憤	扮	焚	奮
	4220	粉	糞	紛	雰	文	聞	丙	併	兵	塀
ヘ	4230	幣	平	弊	柄	並	蔽	閉	陛	米	頁
	4240	僻	壁	癖	碧	別	瞥	蔑	箆	偏	変
	4250	片	篇	編	辺	返	遍	便	勉	娩	弁
	4260	鞭	保	舗	鋪	圃	捕	歩	甫	補	輔
ホ	4270	穂	募	墓	慕	戊	暮	母	簿	菩	倣
	4280	俸	包	呆	報	奉	宝	峰	峯	崩	庖
	4290	抱	捧	放	方	朋					
	4300		法	泡	烹	砲	縫	胞	芳	萌	蓬
	4310	蜂	褒	訪	豊	邦	鋒	飽	鳳	鵬	乏
	4320	亡	傍	剖	坊	妨	帽	忘	忙	房	暴
	4330	望	某	棒	冒	紡	肪	膨	謀	貌	貿
	4340	鉾	防	吠	頬	北	僕	卜	墨	撲	朴

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ホ	4350	牧	睦	穆	釦	勃	没	殆	堀	幌	奔
	4360	本	翻	凡	盆	摩	磨	魔	麻	埋	妹
マ	4370	昧	枚	毎	哩	槙	幕	膜	枕	鮪	柾
	4380	鱒	桝	亦	俣	又	抹	末	沫	迄	侭
	4390	繭	麿	万	慢	満					
	4400		漫	蔓	味	未	魅	巳	箕	岬	密
ミ	4410	蜜	湊	蓑	稔	脈	妙	粍	民	眠	務
ム	4420	夢	無	牟	矛	霧	鵡	椋	婿	娘	冥
メ	4430	名	命	明	盟	迷	銘	鳴	姪	牝	滅
	4440	免	棉	綿	緬	面	麺	摸	模	茂	妄
モ	4450	孟	毛	猛	盲	網	耗	蒙	儲	木	黙
	4460	目	杢	勿	餅	尤	戻	籾	貰	問	悶
	4470	紋	門	匁	也	冶	夜	爺	耶	野	弥
ヤ	4480	矢	厄	役	約	薬	訳	躍	靖	柳	薮
	4490	鑓	愉	愈	油	癒					
ユ	4500		諭	輸	唯	佑	優	勇	友	宥	幽
	4510	悠	憂	揖	有	柚	湧	涌	猶	猷	由
	4520	祐	裕	誘	遊	邑	郵	雄	融	夕	予
ヨ	4530	余	与	誉	輿	預	傭	幼	妖	容	庸
	4540	揚	揺	擁	曜	楊	様	洋	溶	熔	用
	4550	窯	羊	耀	葉	蓉	要	謡	踊	遥	陽
	4560	養	慾	抑	欲	沃	浴	翌	翼	淀	羅
ラ	4570	螺	裸	来	莱	頼	雷	洛	絡	落	酪
	4580	乱	卵	嵐	欄	濫	藍	蘭	覧	利	吏
リ	4590	履	李	梨	理	璃					

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
リ	4600		痢	裏	裡	里	離	陸	律	率	立
	4610	葎	掠	略	劉	流	溜	琉	留	硫	粒
	4620	隆	竜	龍	侶	慮	旅	虜	了	亮	僚
	4630	両	凌	寮	料	梁	涼	猟	療	瞭	稜
	4640	糧	良	諒	遼	量	陵	領	力	緑	倫
	4650	厘	林	淋	燐	琳	臨	輪	隣	鱗	麟
ル	4660	瑠	塁	涙	累	類	令	伶	例	冷	励
レ	4670	嶺	怜	玲	礼	苓	鈴	隷	零	霊	麗
	4680	齢	暦	歴	列	劣	烈	裂	廉	恋	憐
	4690	漣	煉	簾	練	聯					
	4700		蓮	連	錬	呂	魯	櫓	炉	賂	路
ロ	4710	露	労	婁	廊	弄	朗	楼	榔	浪	漏
	4720	牢	狼	篭	老	聾	蝋	郎	六	麓	禄
	4730	肋	録	論	倭	和	話	歪	賄	脇	惑
ワ	4740	枠	鷲	亙	亘	鰐	詫	藁	蕨	椀	湾
	4750	碗	腕								
	4760										
	4770										
	4780										
	4790										

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
4800		弌	丐	丕	个	丱	丶	丼	丿	乂
4810	乖	乘	亂	亅	豫	亊	舒	弍	于	亞
4820	亟	亠	亢	亰	亳	亶	从	仍	仄	仆
4830	仂	仗	仞	仭	仟	价	伉	佚	估	佛
4840	佝	佗	佇	佶	侈	侏	侘	佻	佩	佰
4850	侑	佯	來	侖	儘	俔	俟	俎	俘	俛
4860	俑	俚	俐	俤	俥	倚	倨	倔	倪	倥
4870	倅	伜	俶	倡	倩	倬	俾	俯	們	倆
4880	偃	假	會	偕	偐	偈	做	偖	偬	偸
4890	傀	傚	傅	傴	傲					
4900		僉	僊	傳	僂	僖	僞	僥	僭	僣
4910	僮	價	僵	儉	儁	儂	儖	儕	儔	儚
4920	儡	儺	儷	儼	儻	儿	兀	兒	兌	兔
4930	兢	竸	兩	兪	兮	冀	冂	囘	册	冉
4940	冏	冑	冓	冕	冖	冤	冦	冢	冩	冪
4950	冫	决	冱	冲	冰	况	冽	凅	凉	凛
4960	几	處	凩	凭	凰	凵	凾	刄	刋	刔
4970	刎	刧	刪	刮	刳	刹	剏	剄	剋	剌
4980	剞	剔	剪	剴	剩	剳	剿	剽	劍	劔
4990	劒	剱	劈	劑	辨					
5000		辧	劬	劭	劼	劵	勁	勍	勗	勞
5010	勣	勦	飭	勠	勳	勵	勸	勹	匆	匈
5020	甸	匍	匐	匏	匕	匚	匣	匯	匱	匳
5030	匸	區	卆	卅	丗	卉	卍	凖	卞	卩
5040	卮	夘	卻	卷	厂	厖	厠	厦	厥	厮
5050	厰	厶	參	簒	雙	叟	曼	燮	叮	叨
5060	叭	叺	吁	吽	呀	听	吭	吼	吮	吶
5070	吩	吝	呎	咏	呵	咎	呟	呱	呷	呰
5080	咒	呻	咀	呶	咄	咐	咆	哇	咢	咸
5090	咥	咬	哄	哈	咨					
5100		咫	哂	咤	咾	咼	哘	哥	哦	唏
5110	唔	哽	哮	哭	哺	哢	唹	啀	啣	啌
5120	售	啜	啅	啖	啗	唸	唳	啝	喙	喀
5130	咯	喊	喟	啻	啾	喘	喞	單	啼	喃
5140	喩	喇	喨	嗚	嗅	嗟	嗄	嗜	嗤	嗔
5150	嘔	嗷	嘖	嗾	嗽	嘛	嗹	噎	噐	營
5160	嘴	嘶	嘲	嘸	噫	噤	嘯	噬	噪	嚆
5170	嚀	嚊	嚠	嚔	嚏	嚥	嚮	嚶	嚴	囂
5180	嚼	囁	囃	囀	囈	囎	囑	囓	囗	囮
5190	囹	圀	囿	圄	圉					
5200		圈	國	圍	圓	團	圖	嗇	圜	圦
5210	圷	圸	坎	圻	址	坏	坩	埀	垈	坡
5220	坿	垉	垓	垠	垳	垤	垪	垰	埃	埆
5230	埔	埒	埓	堊	埖	埣	堋	堙	堝	塲
5240	堡	塢	塋	塰	毀	塒	堽	塹	墅	墹
5250	墟	墫	墺	壞	墻	墸	墮	壅	壓	壑
5260	壗	壙	壘	壥	壜	壤	壟	壯	壺	壹
5270	壻	壼	壽	夂	夊	夐	夛	梦	夥	夬
5280	夭	夲	夸	夾	竒	奕	奐	奎	奚	奘
5290	奢	奠	奧	奬	奩					
5300		奸	妁	妝	佞	侫	妣	妲	姆	姨
5310	姜	妍	姙	姚	娥	娟	娑	娜	娉	娚
5320	婀	婬	婉	娵	娶	婢	婪	媚	媼	媾
5330	嫋	嫂	媽	嫣	嫗	嫦	嫩	嫖	嫺	嫻
5340	嬌	嬋	嬖	嬲	嫐	嬪	嬶	嬾	孃	孅
5350	孀	孑	孕	孚	孛	孥	孩	孰	孳	孵
5360	學	斈	孺	宀	它	宦	宸	寃	寇	寉
5370	寔	寐	寤	實	寢	寞	寥	寫	寰	寶
5380	寳	尅	將	專	對	尓	尠	尢	尨	尸
5390	尹	屁	屆	屎	屓					
5400		屐	屏	孱	屬	屮	乢	屶	屹	岌
5410	岑	岔	妛	岫	岻	岶	岼	岷	峅	岾
5420	峇	峙	峩	峽	峺	峭	嶌	峪	崋	崕
5430	崗	嵜	崟	崛	崑	崔	崢	崚	崙	崘
5440	嵌	嵒	嵎	嵋	嵬	嵳	嵶	嶇	嶄	嶂
5450	嶢	嶝	嶬	嶮	嶽	嶐	嶷	嶼	巉	巍
5460	巓	巒	巖	巛	巫	已	巵	帋	帚	帙
5470	帑	帛	帶	帷	幄	幃	幀	幎	幗	幔
5480	幟	幢	幤	幇	幵	并	幺	麼	广	庠
5490	廁	廂	廈	廐	廏					
5500		廖	廣	廝	廚	廛	廢	廡	廨	廩
5510	廬	廱	廳	廰	廴	廸	廾	弃	弉	彝
5520	彜	弋	弑	弖	弩	弭	弸	彁	彈	彌
5530	彎	弯	彑	彖	彗	彙	彡	彭	彳	彷
5540	徃	徂	彿	徊	很	徑	徇	從	徙	徘

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
5550	徠	徨	徭	徼	忖	忻	忤	忸	忱	忝
5560	悳	忿	怡	恠	怙	怐	怩	怎	怱	怛
5570	怕	怫	怦	怏	怺	恚	恁	恪	恷	恟
5580	恊	恆	恍	恣	恃	恤	恂	恬	恫	恙
5590	悁	悍	惧	悃	悚					
5600		悄	悛	悖	悗	悒	悧	悋	惡	悸
5610	惠	惓	悴	忰	悽	惆	悵	惘	慍	愕
5620	愆	惶	惷	愀	惴	惺	愃	愡	惻	惱
5630	愍	愎	慇	愾	愨	愧	慊	愿	愼	愬
5640	愴	愽	慂	慄	慳	慷	慘	慙	慚	慫
5650	慴	慯	慥	慱	慟	慝	慓	慵	憙	憖
5660	憇	憬	憔	憚	憊	憑	憫	憮	懌	懊
5670	應	懷	懈	懃	懆	憺	懋	罹	懍	懦
5680	懣	懶	懺	懴	懿	懽	懼	懾	戀	戈
5690	戉	戍	戌	戔	戛					
5700		戞	戡	截	戮	戰	戲	戳	扁	扎
5710	扞	扣	扛	扠	扨	扼	抂	抉	找	抒
5720	抓	抖	拔	抃	抔	拗	拑	抻	拏	拿
5730	拆	擔	拈	拜	拌	拊	拂	拇	抛	拉
5740	挌	拮	拱	挧	挂	挈	拯	拵	捐	挾
5750	捍	搜	捏	掖	掎	掀	掫	捶	掣	掏
5760	掉	掟	掵	捫	捩	掾	揩	揀	揆	揣
5770	揉	插	揶	揄	搖	搴	搆	搓	搦	搶
5780	攝	搗	搨	搏	摧	摯	摶	摎	攪	撕
5790	撓	撥	撩	撈	撼					

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
5800		擄	擒	擅	擇	撻	擘	擂	擱	擧
5810	舉	擠	擡	抬	擣	擯	攬	擶	擴	擲
5820	擺	攀	擽	攘	攜	攅	攤	攣	攫	攴
5830	攵	攷	收	攸	畋	效	敖	敕	敍	敘
5840	敞	敝	敲	數	斂	斃	變	斛	斟	斫
5850	斷	旃	旆	旁	旄	旌	旒	旛	旙	无
5860	旡	旱	杲	昊	昃	旻	杳	昵	昶	昴
5870	昜	晏	晄	晉	晁	晞	晝	晤	晧	晨
5880	晟	晢	晰	暃	暈	暎	暉	暄	暘	暝
5890	曁	暹	曉	暾	暼					
5900		曄	暸	曖	曚	曠	昿	曦	曩	曰
5910	曵	曷	朏	朖	朞	朦	朧	霸	朮	朿
5920	朶	杁	朸	朷	杆	杞	杠	杙	杣	杤
5930	枉	杰	枩	杼	杪	枌	枋	枦	枡	枅
5940	枷	柯	枴	柬	枳	柩	枸	柤	柞	柝
5950	柢	柮	枹	柎	柆	柧	檜	栞	框	栩
5960	桀	桍	栲	桎	梳	栫	桙	档	桷	桿
5970	梟	梏	梭	梔	條	梛	梃	檮	梹	桴
5980	梵	梠	梺	椏	梍	桾	椁	棊	椈	棘
5990	椢	椦	棡	椌	棍					
6000		棔	棧	棕	椶	椒	椄	棗	棣	椥
6010	棹	棠	棯	椨	椪	椚	椣	椡	棆	楹
6020	楷	楜	楸	楫	楔	楾	楮	椹	楴	椽
6030	楙	椰	楡	楞	楝	榁	楪	榲	榮	槐
6040	榿	槁	槓	榾	槎	寨	槊	槝	榻	槃

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
6050	榧	樮	榑	榠	榜	榕	榴	槞	槨	樂
6060	樛	槿	權	槹	槲	槧	樅	榱	樞	槭
6070	樔	槫	樊	樒	櫁	樣	樓	橄	樌	橲
6080	樶	橸	橇	橢	橙	橦	橈	樸	樢	檐
6090	檍	檠	檄	檢	檣					
6100		檗	蘗	檻	櫃	櫂	檸	檳	檬	櫞
6110	櫑	櫟	檪	櫚	櫪	櫻	欅	蘖	櫺	欒
6120	欖	鬱	欟	欸	欷	盜	欹	飮	歇	歃
6130	歉	歐	歙	歔	歛	歟	歡	歸	歹	歿
6140	殀	殄	殃	殍	殘	殕	殞	殤	殪	殫
6150	殯	殲	殱	殳	殷	殼	毆	毋	毓	毟
6160	毬	毫	毳	毯	麾	氈	氓	气	氛	氤
6170	氣	汞	汕	汢	汪	沂	沍	沚	沁	沛
6180	汾	汨	汳	沒	沐	泄	泱	泓	沽	泗
6190	泅	泝	沮	沱	沾					
6200		沺	泛	泯	泙	泪	洟	衍	洶	洫
6210	洽	洸	洙	洵	洳	洒	洌	浣	涓	浤
6220	浚	浹	浙	涎	涕	濤	涅	淹	渕	渊
6230	涵	淇	淦	涸	淆	淬	淞	淌	淨	淒
6240	淅	淺	淙	淤	淕	淪	淮	渭	湮	渮
6250	渙	湲	湟	渾	渣	湫	渫	湶	湍	渟
6260	湃	渺	湎	渤	滿	渝	游	溂	溪	溘
6270	滉	溷	滓	溽	溯	滄	溲	滔	滕	溏
6280	溥	滂	溟	潁	漑	灌	滬	滸	滾	漿
6290	滲	漱	滯	漲	滌					

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
6300		漾	漓	滷	澆	潺	潸	澁	澀	潯
6310	潛	濳	潭	澂	潼	潘	澎	澑	濂	潦
6320	澳	澣	澡	澤	澹	濆	澪	濟	濕	濬
6330	濔	濘	濱	濮	濛	瀉	瀋	濺	瀑	瀁
6340	瀏	濾	瀛	瀚	潴	瀝	瀘	瀟	瀰	瀾
6350	瀲	灑	灣	炙	炒	炯	烱	炬	炸	炳
6360	炮	烟	烋	烝	烙	焉	烽	焜	焙	煥
6370	煕	熈	煦	煢	煌	煖	煬	熏	燻	熄
6380	熕	熨	熬	燗	熹	熾	燒	燉	燔	燎
6390	燠	燬	燧	燵	燼					
6400		燹	燿	爍	爐	爛	爨	爭	爬	爰
6410	爲	爻	爼	爿	牀	牆	牋	牘	牴	牾
6420	犂	犁	犇	犒	犖	犢	犧	犹	犲	狃
6430	狆	狄	狎	狒	狢	狠	狡	狹	狷	倏
6440	猗	猊	猜	猖	猝	猴	猯	猩	猥	猾
6450	獎	獏	默	獗	獪	獨	獰	獸	獵	獻
6460	獺	珈	玳	珎	玻	珀	珥	珮	珞	璢
6470	琅	瑯	琥	珸	琲	琺	瑕	琿	瑟	瑙
6480	瑁	瑜	瑩	瑰	瑣	瑪	瑶	瑾	璋	璞
6490	璧	瓊	瓏	瓔	珱					
6500		瓠	瓣	瓧	瓩	瓮	瓲	瓰	瓱	瓸
6510	瓷	甄	甃	甅	甌	甎	甍	甕	甓	甞
6520	甦	甬	甼	畄	畍	畊	畉	畛	畆	畚
6530	畩	畤	畧	畫	畭	畸	當	疆	疇	畴
6540	疊	疉	疂	疔	疚	疝	疥	疣	痂	疳

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
6550	痃	疵	疽	疸	疼	疱	痍	痊	痒	痙
6560	痣	痞	痾	痿	痼	瘁	痰	痺	痲	痳
6570	瘋	瘍	瘉	瘟	瘧	瘠	瘡	瘢	瘤	瘴
6580	瘰	瘻	癇	癈	癆	癜	癘	癡	癢	癨
6590	癩	癪	癧	癬	癰					
6600		癲	癶	癸	發	皀	皃	皈	皋	皎
6610	皖	皓	皙	皚	皰	皴	皸	皹	皺	盂
6620	盍	盖	盒	盞	盡	盥	盧	盪	蘯	盻
6630	眈	眇	眄	眩	眤	眞	眥	眦	眛	眷
6640	眸	睇	睚	睨	睫	睛	睥	睿	睾	睹
6650	瞎	瞋	瞑	瞠	瞞	瞰	瞶	瞹	瞿	瞼
6660	瞽	瞻	矇	矍	矗	矚	矜	矣	矮	矼
6670	砌	砒	礦	砠	礪	硅	碎	硴	碆	硼
6680	碚	碌	碣	碵	碪	碯	磑	磆	磋	磔
6690	碾	碼	磅	磊	磬					
6700		磧	磚	磽	磴	礇	礒	礑	礙	礬
6710	礫	祀	祠	祗	祟	祚	祕	祓	祺	祿
6720	禊	禝	禧	齋	禪	禮	禳	禹	禺	秉
6730	秕	秧	秬	秡	秣	稈	稍	稘	稙	稠
6740	稟	禀	稱	稻	稾	稷	穃	穗	穉	穡
6750	穢	穩	龝	穰	穹	穽	窈	窗	窕	窘
6760	窖	窩	竈	窰	窶	竅	竄	窿	邃	竇
6770	竊	竍	竏	竕	竓	站	竚	竝	竡	竢
6780	竦	竭	竰	笂	笏	笊	笆	笳	笘	笙
6790	笞	笵	笨	笶	筐					

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
6800		筺	笄	筍	笋	筌	筅	筵	筥	筴
6810	筧	筰	筱	筬	筮	箝	箘	箟	箍	箜
6820	箚	箋	箒	箏	筝	箙	篋	篁	篌	篏
6830	箴	篆	篝	篩	簑	簔	篦	篥	籠	簀
6840	簇	簓	篳	篷	簗	簍	篶	簣	簧	簪
6850	簟	簷	簫	簽	籌	籃	籔	籏	籀	籐
6860	籘	籟	籤	籖	籥	籬	籵	粃	粐	粤
6870	粭	粢	粫	粡	粨	粳	粲	粱	粮	粹
6880	粽	糀	糅	糂	糘	糒	糜	糢	鬻	糯
6890	糲	糴	糶	糺	紆					
6900		紂	紜	紕	紊	絅	絋	紮	紲	紿
6910	紵	絆	絳	絖	絎	絲	絨	絮	絏	絣
6920	經	綉	絛	綏	絽	綛	綺	綮	綣	綵
6930	緇	綽	綫	總	綢	綯	緜	綸	綟	綰
6940	緘	緝	緤	緞	緻	緲	緡	縅	縊	縣
6950	縡	縒	縱	縟	縉	縋	縢	繆	繦	縻
6960	縵	縹	繃	縷	縲	縺	繧	繝	繖	繞
6970	繙	繚	繹	繪	繩	繼	繻	纃	緕	繽
6980	辮	繿	纈	纉	續	纒	纐	纓	纔	纖
6990	纎	纛	纜	缸	缺					
7000		罅	罌	罍	罎	罐	网	罕	罔	罘
7010	罟	罠	罨	罩	罧	罸	羂	羆	羃	羈
7020	羇	羌	羔	羞	羝	羚	羣	羯	羲	羹
7030	羮	羶	羸	譱	翅	翆	翊	翕	翔	翡
7040	翦	翩	翳	翹	飜	耆	耄	耋	耒	耘

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
7050	耙	耜	耡	耨	耿	耻	聊	聆	聒	聘
7060	聚	聟	聢	聨	聳	聲	聰	聶	聹	聽
7070	聿	肄	肆	肅	肛	肓	肚	肭	冐	肬
7080	胛	胥	胙	胝	胄	胚	胖	脉	胯	胱
7090	脛	脩	脣	脯	腋					
7100		隋	腆	脾	腓	腑	胼	腱	腮	腥
7110	腦	腴	膃	膈	膊	膀	膂	膠	膕	膤
7120	膣	腟	膓	膩	膰	膵	膾	膸	膽	臀
7130	臂	膺	臉	臍	臑	臙	臘	臈	臚	臟
7140	臠	臧	臺	臻	臾	舁	舂	舅	與	舊
7150	舍	舐	舖	舩	舫	舸	舳	艀	艙	艘
7160	艝	艚	艟	艤	艢	艨	艪	艫	舮	艱
7170	艷	艸	艾	芍	芒	芫	芟	芻	芬	苡
7180	苣	苟	苒	苴	苳	苺	莓	范	苻	苹
7190	苞	茆	苜	茉	苙					
7200		茵	茴	茖	茲	茱	荀	茹	荐	荅
7210	茯	茫	茗	茘	莅	莚	莪	莟	莢	莖
7220	茣	莎	莇	莊	荼	莵	荳	荵	莠	莉
7230	莨	菴	萓	菫	菎	菽	萃	菘	萋	菁
7240	菷	萇	菠	菲	萍	萢	萠	莽	萸	蔆
7250	菻	葭	萪	萼	蕚	蒄	葷	葫	蒭	葮
7260	蒂	葩	葆	萬	葯	葹	萵	蓊	葢	蒹
7270	蒿	蒟	蓙	蓍	蒻	蓚	蓐	蓁	蓆	蓖
7280	蒡	蔡	蓿	蓴	蔗	蔘	蔬	蔟	蔕	蔔
7290	蓼	蕀	蕣	蕘	蕈					

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
7300		蕁	蘂	蕋	蕕	薀	薤	薈	薑	薊
7310	薨	蕭	薔	薛	藪	薇	薜	蕷	蕾	薐
7320	藉	薺	藏	薹	藐	藕	藝	藥	藜	藹
7330	蘊	蘓	蘋	藾	藺	蘆	蘢	蘚	蘰	蘿
7340	虍	乕	虔	號	虧	虱	蚓	蚣	蚩	蚪
7350	蚋	蚌	蚶	蚯	蛄	蛆	蚰	蛉	蠣	蚫
7360	蛔	蛞	蛩	蛬	蛟	蛛	蛯	蜒	蜆	蜈
7370	蜀	蜃	蛻	蜑	蜉	蜍	蛹	蜊	蜴	蜿
7380	蜷	蜻	蜥	蜩	蜚	蝠	蝟	蝸	蝌	蝎
7390	蝴	蝗	蝨	蝮	蝙					
7400		蝓	蝣	蝪	蠅	螢	螟	螂	螯	蟋
7410	螽	蟀	蟐	雖	螫	蟄	螳	蟇	蟆	螻
7420	蟯	蟲	蟠	蠏	蠍	蟾	蟶	蟷	蠎	蟒
7430	蠑	蠖	蠕	蠢	蠡	蠱	蠶	蠹	蠧	蠻
7440	衄	衂	衒	衙	衞	衢	衫	袁	衾	袞
7450	衵	衽	袵	衲	袂	袗	袒	袮	袙	袢
7460	袍	袤	袰	袿	袱	裃	裄	裔	裘	裙
7470	裝	裹	褂	裼	裴	裨	裲	褄	褌	褊
7480	褓	襃	褞	褥	褪	褫	襁	襄	褻	褶
7490	褸	襌	褝	襠	襞					
7500		襦	襤	襭	襪	襯	襴	襷	襾	覃
7510	覈	覊	覓	覘	覡	覩	覦	覬	覯	覲
7520	覺	覽	覿	觀	觚	觜	觝	觧	觴	觸
7530	訃	訖	訐	訌	訛	訝	訥	訶	詁	詛
7540	詒	詆	詈	詼	詭	詬	詢	誅	誂	誄

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
7550	誨	誡	誑	誥	誦	誚	誣	諄	諍	諂
7560	諚	諫	諳	諧	諤	諱	謔	諠	諢	諷
7570	諞	諛	謌	謇	謚	諡	謖	謐	謗	謠
7580	謳	鞫	謦	謫	謾	謨	譁	譌	譏	譎
7590	證	譖	譛	譚	譫					
7600		譟	譬	譯	譴	譽	讀	讌	讎	讒
7610	讓	讖	讙	讚	谺	豁	谿	豈	豌	豎
7620	豐	豕	豢	豬	豸	豺	貂	貉	貅	貊
7630	貍	貎	貔	豼	貘	戝	貭	貪	貽	貲
7640	貳	貮	貶	賈	賁	賤	賣	賚	賽	賺
7650	賻	贄	贅	贊	贇	贏	贍	贐	齎	贓
7660	賍	贔	贖	赧	赭	赱	赳	趁	趙	跂
7670	趾	趺	跏	跚	跖	跌	跛	跋	跪	跫
7680	跟	跣	跼	踈	踉	跿	踝	踞	踐	踟
7690	蹂	踵	踰	踴	蹊					
7700		蹇	蹉	蹌	蹐	蹈	蹙	蹤	蹠	踪
7710	蹣	蹕	蹶	蹲	蹼	躁	躇	躅	躄	躋
7720	躊	躓	躑	躔	躙	躪	躡	躬	躰	軆
7730	躱	躾	軅	軈	軋	軛	軣	軼	軻	軫
7740	軾	輊	輅	輕	輒	輙	輓	輜	輟	輛
7750	輌	輦	輳	輻	輹	轅	轂	輾	轌	轉
7760	轆	轎	轗	轜	轢	轣	轤	辜	辟	辣
7770	辭	辯	辷	迚	迥	迢	迪	迯	邇	迴
7780	逅	迹	迺	逑	逕	逡	逍	逞	逖	逋
7790	逧	逶	逵	逹	迸					

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
7800		遏	遐	遑	遒	逎	遉	逾	遖	遘
7810	遞	遨	遯	遶	隨	遲	邂	遽	邁	邀
7820	邊	邉	邏	邨	邯	邱	邵	郢	郤	扈
7830	郛	鄂	鄒	鄙	鄲	鄰	酊	酖	酘	酣
7840	酥	酩	酳	酲	醋	醉	醂	醢	醫	醯
7850	醪	醵	醴	醺	釀	釁	釉	釋	釐	釖
7860	釟	釡	釛	釼	釵	釶	鈞	釿	鈔	鈬
7870	鈕	鈑	鉞	鉗	鉅	鉉	鉤	鉈	銕	鈿
7880	鉋	鉐	銜	銖	銓	銛	鉚	鋏	銹	銷
7890	鋩	錏	鋺	鍄	錮					
7900		錙	錢	錚	錣	錺	錵	錻	鍜	鍠
7910	鍼	鍮	鍖	鎰	鎬	鎭	鎔	鎹	鏖	鏗
7920	鏨	鏥	鏘	鏃	鏝	鏐	鏈	鏤	鐚	鐔
7930	鐓	鐃	鐇	鐐	鐶	鐫	鐵	鐡	鐺	鑁
7940	鑒	鑄	鑛	鑠	鑢	鑞	鑪	鈩	鑰	鑵
7950	鑷	鑽	鑚	鑼	鑾	钁	鑿	閂	閇	閊
7960	閔	閖	閘	閙	閠	閨	閧	閭	閼	閻
7970	閹	閾	闊	濶	闃	闍	闌	闕	闔	闖
7980	關	闡	闥	闢	阡	阨	阮	阯	陂	陌
7990	陏	陋	陷	陜	陞					
8000		陝	陟	陦	陲	陬	隍	隘	隕	隗
8010	險	隧	隱	隲	隰	隴	隶	隸	隹	雎
8020	雋	雉	雍	襍	雜	霍	雕	雹	霄	霆
8030	霈	霓	霎	霑	霏	霖	霙	霤	霪	霰
8040	霹	霽	霾	靄	靆	靈	靂	靉	靜	靠

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
8050	靤	靦	靨	勒	靫	靱	靹	鞅	靼	鞁
8060	靺	鞆	鞋	鞏	鞐	鞜	鞨	鞦	鞣	鞳
8070	鞴	韃	韆	韈	韋	韜	韭	齏	韲	竟
8080	韶	韵	頏	頌	頸	頤	頡	頷	頽	顆
8090	顏	顋	顫	顯	顰					
8100		顱	顴	顳	颪	颯	颱	颶	飄	飃
8110	飆	飩	飫	餃	餉	餒	餔	餘	餡	餝
8120	餞	餤	餠	餬	餮	餽	餾	饂	饉	饅
8130	饐	饋	饑	饒	饌	饕	馗	馘	馥	馭
8140	馮	馼	駟	駛	駝	駘	駑	駭	駮	駱
8150	駲	駻	駸	騁	騏	騅	駢	騙	騫	騷
8160	驅	驂	驀	驃	騾	驕	驍	驛	驗	驟
8170	驢	驥	驤	驩	驫	驪	骭	骰	骼	髀
8180	髏	髑	髓	體	髞	髟	髢	髣	髦	髯
8190	髫	髮	髴	髱	髷					
8200		髻	鬆	鬘	鬚	鬟	鬢	鬣	鬥	鬧
8210	鬨	鬩	鬪	鬮	鬯	鬲	魄	魃	魏	魍
8220	魎	魑	魘	魴	鮓	鮃	鮑	鮖	鮗	鮟
8230	鮠	鮨	鮴	鯀	鯊	鮹	鯆	鯏	鯑	鯒
8240	鯣	鯢	鯤	鯔	鯡	鰺	鯲	鯱	鯰	鰕
8250	鰔	鰉	鰓	鰌	鰆	鰈	鰒	鰊	鰄	鰮
8260	鰛	鰥	鰤	鰡	鰰	鱇	鰲	鱆	鰾	鱚
8270	鱠	鱧	鱶	鱸	鳧	鳬	鳰	鴉	鴈	鳫
8280	鴃	鴆	鴪	鴦	鶯	鴣	鴟	鵄	鴕	鴒
8290	鵁	鴿	鴾	鵆	鵈					

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
8300		鵝	鵞	鵤	鵑	鵐	鵙	鵲	鶉	鶇
8310	鶫	鵯	鵺	鶚	鶤	鶩	鶲	鷄	鷁	鶻
8320	鶸	鶺	鷆	鷏	鷂	鷙	鷓	鷸	鷦	鷭
8330	鷯	鷽	鸚	鸛	鸞	鹵	鹹	鹽	麁	麈
8340	麋	麌	麒	麕	麑	麝	麥	麩	麸	麪
8350	麭	靡	黌	黎	黏	黐	黔	黜	點	黝
8360	黠	黥	黨	黯	黴	黶	黷	黹	黻	黼
8370	黽	鼇	鼈	皷	鼕	鼡	鼬	鼾	齊	齒
8380	齔	齣	齟	齠	齡	齦	齧	齬	齪	齷
8390	齲	齶	龕	龜	龠					
8400		堯	槇	遙	瑤	凜	熙			

エラーコード一覧表

通信エラーが発生すると、送信 / 受信結果レポートや通信管理レポートには、次のようなエラーコードが記録されます。

参考：V34 通信でエラーが発生した場合、エラーコードの「U」は「E」になります。

エラーコード	原因および処置方法
Busy	設定されている回数の自動リダイヤルが行われたにもかかわらず、相手先と回線がつながりません。もう一度送信してください。
CANCELED	送信中に、送信の中止操作を行ったため、送信が中止されました。 受信中に、受信の中止操作を行ったため、受信が中止されました。
U00300	送信中に相手機側（受信側）で用紙がなくなっています。相手先を確認してください。
U00420 - U00462	相手先からの受信の際に、回線はつながったが相手機側（送信側）と通信機能に不一致があったため、受信が中断されました。
U00600 - U00690	本機のトラブルにより、通信が中断されました。もう一度送信または受信してください。
U00700	相手機側のトラブルにより、通信が中断されました。相手先を確認してください。
U00800 - U00810	正しく送信できなかったページがあります。もう一度送信してください。
U00900 - U00910	正しく受信できなかったページがあります。もう一度受信してください。
U01000 - U01092	送信中に通信エラーが発生しました。もう一度送信してください。
U01100 - U01199	受信中に通信エラーが発生しました。もう一度受信してください。
U01400	回線設定でプッシュ回線を選択していたときに登録された # を含むダイヤルをダイヤル（パルス）回線に変更した状態で使用したため、該当する相手先との通信ができませんでした。
U01500	高速の送信速度で送信時、通信エラーになりました。もう一度送信してください。
U01600	高速の送信速度で受信時、通信エラーになりました。相手先の送信速度を下げた状態で、もう一度送信してもらってください。
U01700 - U01720	高速の送信速度で送信時、通信エラーになりました。もう一度送信してください。
U01721	高速の送信速度で送信時、通信エラーになりました。相手先に使用した送信速度がないかもしれません。送信開始速度を下げて、もう一度送信してください。
U01800 - U01820	高速の送信速度で受信時、通信エラーになりました。相手先の送信速度を下げた状態で、もう一度送信してもらってください。
U01821	高速の送信速度で受信時、通信エラーになりました。本機に使用した送信速度がないかもしれません。相手先の送信速度を下げた状態で、もう一度送信してもらってください。
U03000	ポーリング受信を行ったところ、相手先のファクスに原稿がセットされていなかったため、受信できませんでした。相手先を確認してください。
U03200	相手機が弊社機である場合に、F コード掲示板受信を行ったところ、指定した F コード親展ボックスには何も入っていませんでした。相手先を確認してください。

エラーコード	原因および処置方法
U03300	次の 1 と 2 のどちらかが原因でエラーとなりました。相手先を確認してください。 1　相手機が弊社機である場合に、ポーリング受信を行ったところ、相手先で送受信制限が設定されており、パスワードが不一致であったため通信が中断されました。 2　相手機が弊社機である場合に、F コード掲示板受信を行ったところ、相手先で送受信制限が設定されており、パスワードが不一致であったため通信が中断されました。
U03400	ポーリング受信を行ったところ、相手先で入力されたパスワードと受信側の自局ファクス ID が一致しなかったため受信が中断されました。相手先を確認してください。
U03500	相手機が弊社機である場合に、F コード掲示板受信を行ったところ、指定した F コード親展ボックスが相手機に登録されていませんでした。相手先を確認してください。
U03600	相手機が弊社機である場合に、F コード掲示板受信を行ったところ、指定した F コードパスワードが一致しなかったため受信が中断されました。相手先を確認してください。
U03700	F コード掲示板受信を行ったところ、相手機に F コード掲示板通信機能がありませんでした。または、どの原稿受渡しボックス（F コード親展ボックス）にも原稿が入っていませんでした。
U04000	相手機が弊社機である場合に、F コード親展ボックスに原稿を送信しようとしたところ、指定したボックスが相手機に登録されていませんでした。または、転送条件のサブアドレスが一致しませんでした。
U04100	相手先の原稿受渡しボックス（F コード親展ボックス）に原稿を送信しようとしたところ、相手機に対応する機能がありませんでした。または、転送条件のサブアドレスが一致しませんでした。
U04200	暗号送信を行ったところ、指定したボックスが登録されていなかったため、送信が中断されました。
U04300	暗号送信を行ったところ、相手先のファクスには暗号通信機能がなかったため、送信が中断されました。
U04400	暗号送信を行ったところ、暗号鍵が不一致であったため、送信が中断されました。
U04401	暗号送信を行ったところ、暗号鍵が未登録であったため、相手先へダイヤルされませんでした。
U04500	暗号受信を行ったところ、暗号鍵が不一致であったため、受信が中断されました。
U05100	送信を行ったところ、本機に送信制限が設定されており、そのために必要な通信条件を満足しなかったため、送信が中断されました。相手先を確認してください。
U05200	相手先から原稿が送信されてきましたが、本機に受信制限が設定されており、そのために必要な通信条件を満足しなかったため、受信が中断されました。
U05300	送信を行ったところ、相手先側で受信制限が設定されており、そのために必要な通信条件を満足しなかったため、相手先側から受信を拒否されました。相手先を確認してください。
U14000	F コードボックスへの受信が行われましたが、本機のメモリオーバーにより受信が中断されました。メモリ内に蓄積（記憶）されている原稿を印刷しメモリに空きを作るか、F コードボックスでの受信を中止してください。

エラーコード	原因および処置方法
U14100	相手機が弊社機である場合に、相手先ファクスボックスまたはFコードボックスへの送信を行ったところ、相手機のメモリオーバーにより送信が中断されました。相手先を確認してください。
U19000	代行受信が行われましたが、本機のメモリオーバーにより受信が中断されました。メモリ内に蓄積（記憶）されている原稿を印刷しメモリに空きを作ってから、もう一度受信してください。
U19100	送信を行ったところ、相手先のファクスのメモリオーバーにより送信が中断されました。相手先を確認してください。
U19200	メモリ送信中にデータに異常が発生し、送信が中断されました。もう一度送信してください。
U19300	送信中にデータに異常が発生し、送信が中断されました。もう一度送信してください。
U19400	受信中にデータに異常が発生し、受信が中断されました。もう一度受信してください。

付録

索引